大学コンソーシアム沖縄　2018年度(平成30年度)　第1回総会
議事次第

１．日　時：２０１８年（平成３０年）７月３日（火）１４：００～１６：３０

２．場　所：琉球大学　大学本部管理棟　第一会議室（４階）

３．議　事	資料番号
（１）開会挨拶	
（２）理事の再任について	資料1
（３）代表理事の選定及び副代表理事の指名について	資料なし
（４）２０１７年度（平成２９年度）事業報告について	資料2
①子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄県委託事業）子どもの居場所学生ボランティアセンター	資料2－1①
②知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）	資料2－2
③県民向け公開講座	資料2－3
④第１４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム	資料2
⑤子供科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト）	資料2
⑥その他の事業 ・グローバル・ピース・ダイアログ沖縄 ・中国大学生友好交流訪日団の学生との昼食交流会（日中植林・植樹国際連帯事業の一環）	資料2
（５）２０１７年度（平成２９年度）決算について	資料3
（６）２０１８年度（平成３０年度）事業計画（案）について	資料4
①子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業	資料2－1 ②～⑤
②知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）	資料4－1
③県民向け講座	資料4－2
（７）２０１８年度（平成３０年度）予算（案）について	資料5
（８）地域連携プラットフォームの構築について	資料6
（９）今後の運営及び事務局体制について	資料7
(10) 閉会挨拶	

【配布資料】

（大学コンソーシアム沖縄　平成29年度第1回総会　議事録(案)）

資料１　　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄　理事の再任について

資料２　　２０１７年度（平成２９年度）事業報告

資料２－１-①　子どもの居場所学生ボランティアセンター概要資料

２－１-②　一般社団法人大学ｺﾝｿｰｼｱﾑ沖縄　子どもの居場所学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業計画書

２－１-③　謝金の増額について

２－１-④　寄附金一覧（平成 28 年度～平成 30 年度）

２－１-⑤　子どもの居場所と学生の声～2017 年度実施アンケート結果より～

資料２－２　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（平成 29 年度事業報告書）

資料２－３　大学コンソーシアム沖縄主査　県民向け公開開講座各大学等のチラシ一覧

資料３　　決算報告書（一般社団法人大学コンソーシアム沖縄）

資料４　　２０１８年度（平成３０年度）事業計画（案）について

資料４－１　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）事業概要

資料４－２　沖縄県立看護大学　企画・運営　平成３０年度大学コンソーシアム沖縄公開講座　がんと共に生きる人々を支えるケア（チラシ）

資料５　　平成３０年度予算書（案）（一般社団法人大学コンソーシアム沖縄）

資料６　　地域連携プラットフォームの構築について【国の施策】

資料７　　大学コンソーシアム沖縄の今後の運営及び事務局体制について

参考資料１　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄定款

参考資料２　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄役員等名簿

資料１

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄　理事の再任について

１．理事の再任の手続について

・一般社団法人大学コンソーシアム沖縄定款（これ以降「定款」という）第２４条では、「理事の任期は、選任後、２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時まで」とされていることから、再任の手続が必要となる。

・定款第１７条第３項に基づき、候補者ごとに再任の議決を行わなければならない。（総正会員の過半数を有する正会員の出席と正会員の議決権の過半数）

２．各理事の就任・再任の年月日は以下のとおり。　（平成３０年６月２５日現在）

No	氏名	大学・役職	大学ｺﾝｿｰｼｱﾑ沖縄・役職	就任・再任の年月日	備　考
1	大城　肇	琉球大学長	代表理事	平成 28 年 4 月 14 日	代表理事就任（平成 29 年 6 月 9 日）
2	山里　勝己	名桜大学長	副代表理事	平成 28 年 4 月 14 日	副代表理事就任（平成 29 年 6 月 9 日）
3	友利　廣	沖縄キリスト教学院大学長 沖縄キリスト教短期大学長	理事	平成 28 年 4 月 14 日	
4	仲地　博	沖縄大学長	理事	平成 28 年 4 月 14 日	
5	鎌田　佐多子	沖縄女子短期大学長	理事	平成 28 年 4 月 14 日	
6	前津　榮健	沖縄国際大学長	理事	平成 28 年 4 月 14 日	
7	比嘉　康春	沖縄県立芸術大学長	理事	平成 28 年 4 月 14 日	
8	嘉手苅　英子	沖縄県立看護大学長	理事	平成 28 年 4 月 14 日	
9	安藤　安則	沖縄工業高等専門学校長	理事	平成 28 年 4 月 14 日	
10	グルース・ハインリッヒ・ピーター・ホースト	沖縄科学技術大学院大学長	理事	平成 29 年 6 月 9 日	※前学長（ﾄﾞｰﾌｧﾝ氏）の後任の任期

３．一般社団法人大学コンソーシアム沖縄定款（抜粋）

（決議）

第１７条　社員総会の決議は、法令又は定款に別段の定めがある場合を除き、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。

（略）

３　理事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第１項の決議を行わなければならない。

（理事の任期）

第２４条　理事の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

２　任期満了前に退任した理事の補欠として選任された理事の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。

資料2

2017年度（平成29年度）の事業報告

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄

University Consortium Okinawa

○平成29年度実施事業

２－１　子供の居場所学生ボランティアコーディネート事業

２－２　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）（H29年度新規事業）

２－３　大学コンソーシアム沖縄主催　県民向け公開講座

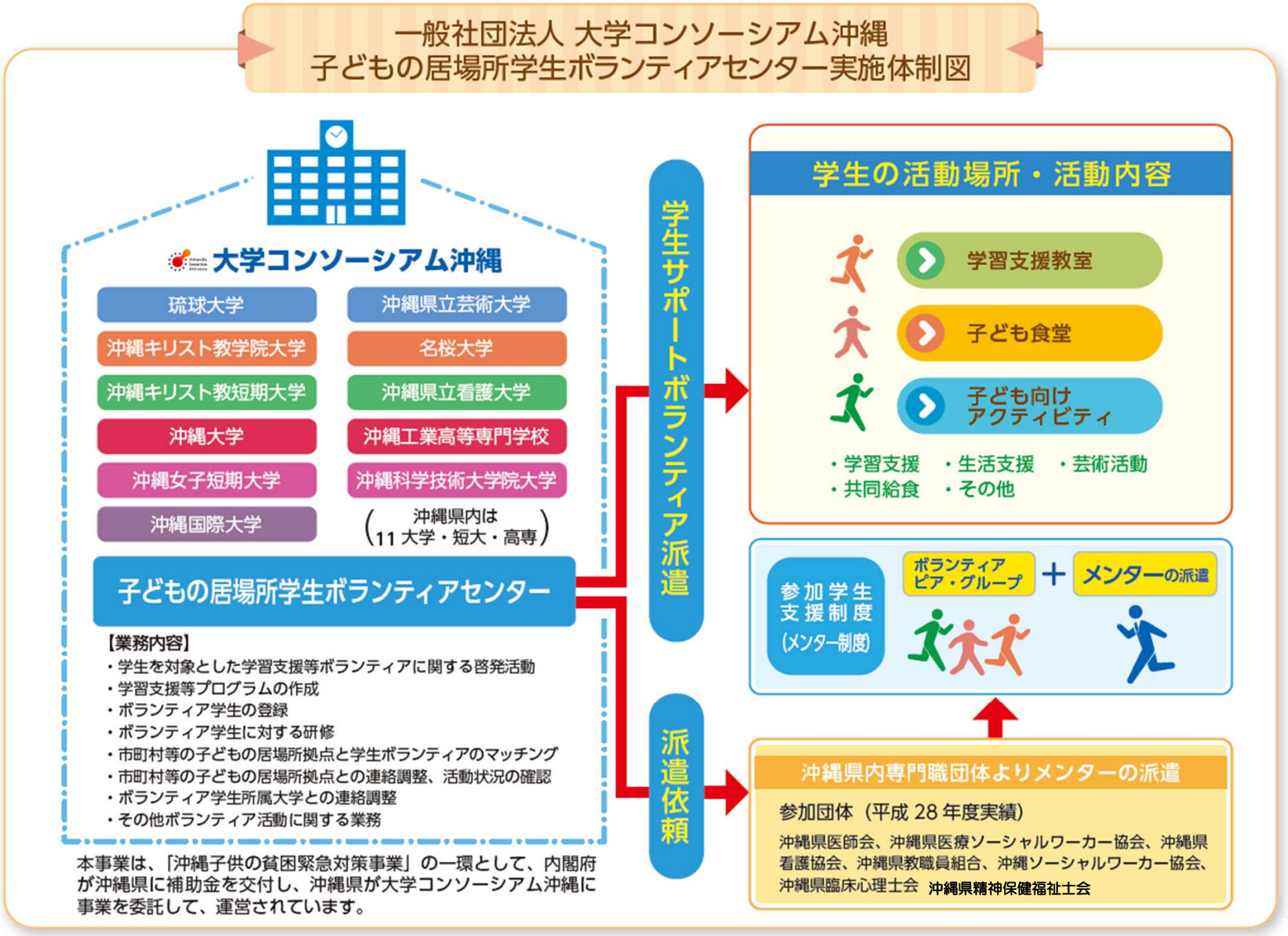
２－４　第14回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

２－５　子供科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト）

２－６　グローバル・ピース・ダイアログ沖縄

２－７　中国大学生友好交流訪日団の学生との昼食交流会

２－１　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業



2－2　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）事業全体概要

事業実施共同体　University of the Ryukyus　一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

（3）地域連携コーディネーターの配置
（2）①若手コーディネーターの育成

（1）②地域課題解決のための研究者の調査

OIST 沖縄科学技術大学院大学
沖縄キリスト教学院大学 OKINAWA CHRISTIAN UNIVERSITY
沖縄キリスト教短期大学 OKINAWA CHRISTIAN JUNIOR COLLEGE
沖縄県立看護大学 Okinawa Prefectural College of Nursing
沖縄県立芸術大学 OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS
沖縄国際大学 Okinawa International University
沖縄女子短期大学 Okinawa Women's Junior College
沖縄大學
公立大学法人 名桜大学 MEIO UNIVERSITY
国立大学法人 琉球大学 University of the Ryukyus
国立 沖縄高専 Okinawa National College of Technology

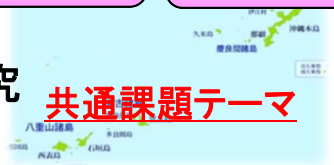
高等教育機関シーズ

（1）③地域と研究者のマッチング

（1）①地域（市町村）・企業等へのヒアリング

教育・人材育成
環境・水資源
特産品・商品開発
農業・食料
医療・健康
〇〇〇

共通課題テーマ



（1）④地域課題ソリューションワーキンググループ開催



（1）⑤国内外の先進的取組に関する研修会等実施

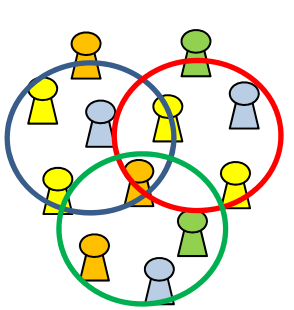
（4）① 県内高等教育機関への活動報告
（4）② 必要に応じた県内高等教育機関との連絡調整の実施



（2）②大学企業交流会の開催



（2）③実践的インターン送出





地域連携コーディネーターが中核となり産学官民が連携した地域課題ソリューションを提供

知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）事業概要

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

○平成29年度知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業における成果

○本事業では、大学コンソーシアム沖縄と琉球大学が連携したコーディネート機能強化に取り組み、地域連携コーディネーターを中心に、県内大学が有する「知」を活用した地域課題解決に向けて取り組みを行った。県内大学研究者及び学生等と地域(市町村・企業等)の連携による地域課題解決を検討するワーキンググループを立ち上げ、県内大学研究者等と地域の産学官民連携を促進することで、地域振興への貢献を目指した。また、事業の実施にあたっては、複数の大学間・異分野研究者間の連携を促進し、複雑な地域課題に対する総合的な解決に向けた取り組みを実施した。

○地域ニーズを把握するため、**沖縄の41市町村に対して、訪問および電話等におけるヒアリングを実施**し、その結果のヒアリングシートを作成しWebによるアンケート調査も実施した。また、アンケート調査の項目について洗い出しを行い、「地域・企業ニーズ調査（大学との連携について）」のアンケートフォームを作成した。その後、12月12、13日に開催されたオキナワベンチャーマーケットにてアンケートを実施し、**沖縄県内の企業から106件の回答**を得られた。

○シーズ調査について共通のフォーマットにて調査を実施するため、産学官連携の関係機関との調整を行った。その後、**大学コンソーシアム沖縄の11のすべての大学を訪問**し、各大学の研究者ヒアリングによるシーズ調査を実施した。

○地域ニーズと研究者シーズとのマッチングにより、**10の地域課題ソリューションのワーキンググループ**が立ち上がり、水環境、観光振興、子どもの貧困、空き店舗対策、地域拠点づくり、若者の移住定住、子どもの教育支援等の沖縄の様々な課題に対して取り組みを実施した。

○ワーキンググループの特徴的な活動としては、**学生が主体的に活動できる実践的インターン送出**を促し、琉球大学共通教育科目において地域（自治体）の課題に対してのソリューションの提案、さらには実践を実施した。

○「地域課題ソリューションワーキンググループ」の成果を、2018年2月に東京大学で開催されたUDC（Urban Data Challenge）2017にエントリーし、**UDC2017ベスト地域拠点賞の「地域拠点新人賞」**として、沖縄ブロックが表彰されたのは、本事業の大きな成果である。

知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）事業概要

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

○平成29年度知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業からみえてきた課題と展望

○沖縄県では知的・産業クラスターの形成に向けて各種事業に取り組んでおり、地域における様々な課題に対して産学官民連携による課題解決（ソリューション）が求められている。沖縄県が策定した「沖縄21世紀ビジョン」には、産業間連携の強化や科学技術と産業界を仲介するコーディネート機能及びコーディネーターの配置が必要とされており、多様化・複雑化する地域課題に対してその役割は益々高まっている。

○一方、41自治体すべてのヒアリング及びアンケートを行った結果から沖縄県内の多くの自治体では、コーディネート機能やコーディネーター的な役割を担う人材が求められているにも関わらず、それらに対応できる機関や人材が不足している状況である。自治体のみならず、沖縄県内の高等教育機関等においても、地域連携を担うコーディネーターが少ない状況であり、コーディネート機能の強化やコーディネーターの配置及び人材の育成が急務となっている。

○平成29年度の本事業の成果を生み出し、大学と地域・産業との結びつきを強化できたのも琉球大学に配置した統括コーディネーターと、大学コンソーシアム沖縄に配置した3人の若手地域連携コーディネーターの活躍があったからである。統括コーディネーターは、プロジェクト全体の進捗管理や若手の地域連携コーディネーターの育成に取り組み、若手地域連携コーディネーターは地域連携を実施するためマルチステークホルダーの橋渡しや学生が地域で活動する実践的インターン送出のサポートを行ったからである。

○今後も、沖縄における地域課題の解決に向けた取り組みを行うためには、コーディネーター的な担う人材の存在が重要であり、大学等高等教育機関及び公的支援機関、地域(市町村)、産業界とのネットワーク構築に取り組むことが重要である。知的産業クラスター支援ネットワーク強化事業の最終的な目標として、知的・産業クラスターの形成に向けて、地域課題解決のプロセスを明確化し、地域のイノベーションを創出する地域課題解決エコシステムの構築を目指すとされている。地域課題解決に向けたエコシステムを構築するためには、事業の円滑な継続性とコーディネート機関の機能強化、そして何よりも持続的にコーディネート活動ができるコーディネーターの配置と人材の育成が必要である。

○今後は、地域課題ソリューションワーキンググループから得られた知見ノウハウを基に、商品・サービスの開発を行い、地域内での展開に取り組み、地域の強みや素材を活かしつつ地域課題ソリューションを提供し、知的・産業クラスターの中核（コア）となる部分を創出することが重要である。最終的な知的・産業クラスターの形成に向けて、課題発見、課題抽出、課題研究、課題検証等の課題解決のプロセスを明確化し、地域のイノベーションを創出するエコシステムを構築することを目指していくことが期待されている。

２－３　大学コンソーシアム沖縄主催　県民向け公開講座

大学コンソーシアム沖縄では、地域社会の活性化及び沖縄県の発展と進行に寄与することをめざし、その取組の一つとして、構成機関による持ち回りでの県民向け公開講座を開催しています。

○沖縄大学

「誤解だらけの沖縄基地−地域の課題とジャーナリズムの役割−」

2017年（平成29年）5月13日（土）　会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演：富川　盛武（沖縄国際大学名誉教授、沖縄県副知事）

パネラー：吉田　央（沖縄タイムス　記者）、大野　亨恭（沖縄タイムス　記者）

コーディネーター：与那原　良彦（沖縄タイムス　記者）

「タフな支援者になれますか−沖縄の子どもの貧困、私たちの課題−」

2017年（平成29年）年6月17日（土）　会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演講：上間　陽子（琉球大学教育学部研究科教授）、湯浅　誠（社会活動家・法政大学教授）

コーディネーター：島村　聡（沖縄大学人文学部福祉文化学科准教授・沖縄大学地域研究所長）

「イスラエル占領下にあるパレスチナの歴史と現状・・・そして、日本・沖縄への期待」

2017年（平成29年）年7月15日（土）　会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演：Saleem,Awad Anati（医師）

「タフな支援者になれますか−沖縄の子どもの貧困、私たちの課題−」

2017年（平成29年）年8月12日（土）　会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演：石原　憲一郎（兵庫県参与・東京農業大学客員教授）、池田　孝之（琉球大学名誉教授）

安里　直美（コミュニティ・ラウンドスケープデザイナー）

「親の子育て、就業と貧困問題−社会的保護の展望−」

2017年（平成29年）9月9日（土） 会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演：戸室 健作（山形大学人文社会科学部准教授）、秋吉 晴子（しんぐるまざあす・ふぉーらむ沖縄代表）

宮城 光秀（（有）大宮工業専務取締役、沖縄中小企業家同友会副代表理事）

コーディネーター：島袋 隆志（沖縄大学准教授・地域研究所副所長）

「沖縄＆スリランカ 次世代教育について語り合う」

2017年（平成29年）年10月21日（土） 会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演：Sithy Fareena Nazeer（ﾏﾘﾔﾃｳﾞｧ女子学院（公立高等学校）教員）

Amitha Ekanayake（ｾﾝﾄｼﾞｮｾﾌ女子学院（公立高等学校）教員）

北岡 哲治（沖縄県立豊見城高等学校教頭）、赤嶺 智郎（糸満市立高嶺小学校教頭）

コーディネーター：ディリーブ・チャンドララール（沖縄大学人文学部教授）

「食から地域を変える～沖縄の地域再生を食から考える～」

2017年（平成29年）年11月25日（土） 会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演：松本 哲治（第14代浦添市長）、豊川 明佳（沖縄大学経済学部専任講師）

島田 尚徳（（株）海邦総研 地域経済調査部 主任研究員）

コーディネーター：山代 寛（沖縄大学人文学部福祉文化学科教授・沖縄大学副学長）

「予防医学の要とは・・・現代の医療体制への挑戦」

2017年（平成29年）年12月9日（土） 会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演：屋比久 勝子（琉球温熱療法院 院長）、秋野 公造（参議院議員/医学博士）

一石 英一郎（国際医療福祉大学病院内科/予防医学センター教授）

コーディネーター：劉 剛（沖縄大学人文学部国際コミュニケーション学科教授）

「いま子どもたちが求める学びとは？−子どもに寄り添う現場から考える−」

2018年（平成30年）1月20日（土） 会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演：山﨑　隆夫（都留文科大学教職支援センター特任教授）、
山本　隆（（一社）南風原子どもオンリーワン代表理事）、
上原　龍太朗（珊瑚舎スコーレ　結塾J&S学習支援担当）

コーディネーター：宮城　基（沖縄大学人文学部子ども文科学科准教授・地域研究所副所長）

「子どもの貧困政策論−これまでをどう評価し、将来に何を求めるのか−」

2018年（平成30年）年2月17日（土） 会場：沖縄大学アネックス共創館

基調講演：重永　将志（内閣府沖縄振興局総務課事業振興室　室長）
川満　孝幸（沖縄県子ども生活福祉部子ども未来政策課子ども未来政策班　班長）
山城　忠信（那覇市福祉部保健管理課担当副参事）、
金城　隆一（特非　沖縄青少年自立援助センター　ちゅらゆい　代表理事）

コーディネーター：島袋　隆志（沖縄大学准教授・地域研究所副所長）

「売場の科学」

2017年（平成29年）年6月16日（金）～11月17日（金） 会場：沖縄大学アネックス共創館

講師：渡部　隆之（沖縄大学客員教授・東京未来大学教授） 全6回（6/16,7/14,8/25,9/22,10/20,11/17）

「0円キッチン」

2017年（平成29年）年11月23日（木） 会場：沖縄大学アネックス共創館

「いのちと仕事　いのちをいただく」

2018年（平成30年）年1月6日（土） 会場：沖縄大学アネックス共創館

講演者：坂本　義喜（元熊本市食肉センター解体作業員）

○沖縄県立芸術大学

「沖縄と映像・映画」

2018年（平成30年）2月24日（土） 会場：沖縄県立芸術大学附属研究所

講師：世良　利和（沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）
藤城　孝輔（キングズ・カレッジ・ロンドン映画学科博士課程修了）
大濱　聡（元NHKディレクター＆プロデューサー、沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員）

２－４　第１４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

平成29年10月7日～8日に沖縄科学技術大学院大学において第１４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムが開催されました。

本フォーラムは、テーマを「大学コンソーシアムとボランティア」と設定し、全国にある47の大学コンソーシアムが一堂に会する機会として、全国の大学間ネットワークの構築及び活性化を図ることを目的として開催しました。２日間で、280人以上の方が参加し、交流を深めました。

○日　　時：平成29年10月7日～8日
○場　　所：沖縄科学技術大学院大学　講堂他
○参加者：２８６人（全国の高等教育関係者、学生、一般）
【プログラム】
１日目
■ 開会
　挨拶　（一社）大学コンソーシアム沖縄代表理事　大城　肇
　　全国コンソーシアム協議会　代表幹事　　川野　祐二
　来賓　内閣府大臣補佐官　島尻　安伊子
　来賓　沖縄県知事代読　沖縄県企画部長　川満　誠一

■基調講演「世界の平和と開発を推進するユースボランティア」
　　オリビエ・アダム（国連ボランティア計画（UNV）事務局長）

■ゲストスピーカー講演Ⅰ「みんな地球に生きる人」
　　アグネス・チャン（歌手・教育博士）

■ゲストスピーカー講演Ⅱ「OISTと日本の将来について」
　　ピーター・グルース（OIST学長）








■ポスターセッション
　於：トンネルギャラリー



■シンポジウム：テーマ「大学コンソーシアムとボランティア」
　シンポジスト
　　オリビエ・アダム（国連ボランティア計画（UNV）事務局長）
　　アグネス・チャン（歌手・教育博士）
　　中村　安秀（大阪大学名誉教授、国際ボランティア学会　会長）
　　木村　泰政（UNICEF（国連児童基金）東京事務所代表）
　　布村　幸彦（公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副事務総長）
　　今井　絢一（関西学院大学社会学部4年生、国連ユースボランティア）

2日目
■分科会





第1分科会：「持続可能な発展と環境法政策」
第2分科会：「ボランティアリズムによる人づくり」
第3分科会：「産学の『連携』から『共創』へ」
第4分科会：「地域貢献とボランティア」
第5分科会：「災害時に活躍できる学生ボランティア育成の現状と展望－京都、秋田における防災教育の取り組み事例から－ 」











２－５　子供科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト）

平成27年度～平成29年度の3年間、一般財団法人沖縄県公衆衛生協会と共同により沖縄県の委託事業である子供科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト）を実施しました。
今年度は、中学生プロジェクトでは、環境問題とドローンを、高校生プロジェクトでは、遺伝子を新たなテーマとして設定し、沖縄県内の中高校生に対して、サイエンス・リーダー育成講座を実施し、沖縄の科学技術を牽引していく科学人材の育成を行いました。

◇サイエンス・リーダー育成講座（中学生プロジェクト）
県内3箇所を拠点に、全3回の連続講座を実施（7月、8月）　46名の中学生が参加



・本島北部拠点　　テーマ「フィールド調査に行こう！～川で環境問題を調べよう～」
講師：田代　豊　名桜大学国際学群観光産業教育研究学系教授



・本島中南部拠点　　テーマ「“生きている“ことを実感しよう！　～呼吸のしくみを考えよう～
大湾　明美　沖縄県立看護大学　看護学部　教授
佐伯　宣久　沖縄県立看護大学　看護学部　教授





・離島（宮古島）拠点　　テーマ「ドローンを飛ばそう！　～人とロボットのプログラミング～
講師：姉崎　隆　沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科教授
釣　健孝　沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科技術員



・離島（石垣）拠点　テーマ「石垣島のエネルギー　～エネルギーの未来を考えよう～」
講師：清水　洋一　琉大教育学部学校教育教員養成課程教授







◇サイエンス・リーダー育成講座（高校生プロジェクト）

４つのコースに分かれて宿泊型講座（２泊３日×２回）を実施（８月、１０月） ４２名の高校生が参加

・自然科学「体感して学ぶ電気と磁気の現象」

講師　眞榮平　孝裕　琉大理学部教授、
前野　昌弘、辺土　正人、與儀　護　　琉大理学部准教授

・人工知能科学「人工知能とは何か？」

講師：當間　愛晃　琉球大学工学部知能情報コース准教授
澤崎　夏希　琉球大学理工学研究科大学院生１年

・脳科学「脳を身近に感じるには？」

講師：高木　博　琉球大学医学研究科脳神経外科学講座特命准教授

・遺伝子科学「遺伝子組み換え技術を使って細胞を光らせる」

講師：高江洲　義一 琉大熱帯生物圏研究センター分子感染防御学分野准教授

◇成果報告会の開催

宿泊講座の最終日に中学生・高校生プロジェクトの報告会を開催







２－６　グローバル・ピース・ダイアログ沖縄

平成30年3月9日、沖縄コンベンションセンターにおいてグローバル・ピース・ダイアログ沖縄が盛大に開催されました。
本ダイアログは、ノーベル平和賞受賞者であるタワックル・カルマン氏（2011年受賞）と国境なき医師団（1999年受賞）のクララ・ファン ヒューリック氏を招聘して講演とディスカッションを通して、県内の高校生と大学生と交流することにより、様々な角度から平和の重要性への認識を高めると共に、平和の島「沖縄」を内外に発信することを目的として開催しました。高校生及び大学生等251人が参加し、大盛況となりました。









〇日　時：平成30年3月9日（金）
〇場　所：沖縄コンベンションセンター　会議棟A　会議場A1
〇参加者：　人（県内の高校生と大学生）
〇主　催：一般社団法人大学コンソーシアム沖縄
〇共　催:内閣府、外務省、文部科学省
【プログラム】
■ オープニング
　挨拶　（一社）大学コンソーシアム沖縄代表理事　大城　肇
■基調講演「平和ー若者と女性ー」・ダイアログ
　タワックル・カルマン氏（ノーベル平和賞受賞者）
■講演「国境なき医師団の人道・医療援助活動」・ダイアログ
　クララ・ファン ヒューリック氏
■クロージング
　高校生及び大学生各代表による挨拶



















２－７　中国大学生友好交流訪日団の学生との昼食交流会「日中植林・植樹国際連帯事業」

沖縄県と中国・福建省が友好県省との締結20周年を記念し、外務省の「日中植林・植樹国際連携事業」により来日する中国福建省の大学生と沖縄の学生との交流として、昼食交流会を開催しました。



上り説

○日時：平成29年9月14日（木）11：30～13：30
○場所：ラ・フォンテ（那覇市首里桃原町）
○参加学生　中国人：46人、日本人：35人
【プログラム】
１．幕開（オープニング）　琉球舞踊

演奏者：沖縄県立芸術大学生・大学院生　　５人



かなよう

【演目】
①上り口説（二才踊り）
②かなよう（女雑踊り）
③鳩間節　（男雑踊り）
【地謡】歌三線







鳩間節

２．歓迎の挨拶・乾杯
３．交流会（昼食会）
４．訪日団長からの挨拶
５．閉会（記念撮影）

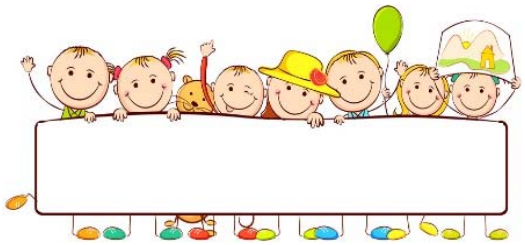


資料２-１-①

University Consortium Okinawa

一般社団法人
大学コンソーシアム沖縄

子どもの居場所学生ボランティアセンター概要資料



子どもの居場所学生ボランティアセンターとは

内閣府

沖縄子供の貧困緊急対策事業

沖縄県

子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄

子どもの居場所学生ボランティアセンター



一般社団法人大学コンソーシアム沖縄 概要

University Consortium Okinawa

設立・理事等

設　　立 ： 平成２６年９月２６日

代表理事 ： 大城　肇

理　　事 ： 各大学の学長及び校長

構　　成 ： 県内１１の大学・短大・沖縄工業高等専門学校

目　的

　沖縄県内の大学が、相互に建学の精神を尊重しつつ有機的連携により教育研究を一層充実発展させ、また産官学の連携により地域社会の活性化と発展に貢献することを目的とする。



一般社団法人大学コンソーシアム沖縄 概要

事業内容

①グローバル人材の育成
②単位交換
③学生間の連携・交流
④共同研究
⑤教職員の研修
⑥小中高大連携活動
⑦公開講座（県民フォーラム・出前講座）
⑧産官学連携
⑨各種の地域社会貢献
⑩その他

平成２６年度～平成２９年度事業実績

１．シンポジウム（第１回～第３回）
２．沖縄学生サミット（第１回～第３回）
３．県民向け公開講座（平成２６年度～平成２９年度）
４．子ども科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト：平成２７年度～平成２９年度）
５．子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（平成２８年度～）
６．知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）
（平成２９年度新規事業）
７．第１４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（平成２９年度）



子どもの居場所学生ボランティアセンター概要

設　立

設　　立 ： 平成２８年４月１４日

体　制

センター長	本村　真　（琉球大学　人文社会学部　人間社会学科　教授）
副センター長	上原　健二　（沖縄女子短期大学　児童教育学科　准教授）
	大城　美樹雄　（名桜大学　国際学群　国際学類　准教授）
	金城　芳秀（沖縄県立看護大学大学院　保健看護学研究科　教授）
	島村　聡　（沖縄大学　人文学部福祉文化学科　准教授）
コーディネーター	砂川　育子　　、　玉城　　福子
事務補佐員	渡慶次　美奈子　、　中村　夏希



子どもの居場所学生ボランティアセンターのしくみ

子どもの居場所学生ボランティアセンター



- 名桜大学
- 琉球大学
- 沖縄科学技術大学院大学
- 沖縄国際大学
- 沖縄女子短期大学
- 沖縄工業高等専門学校
- 沖縄大学
- 沖縄県立芸術大学
- 沖縄キリスト教学院大学
- 沖縄キリスト教短期大学
- 沖縄県立看護大学

学生サポートボランティア派遣

学生支援・メンター制度

子どもの居場所



- 学習支援教室
- 子ども食堂
- 子ども向け
  アクティビティ

沖縄県内専門職団体から
メンターの派遣

参加団体

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会、沖縄ソーシャルワーカー協会、沖縄県医師会、沖縄県看護協会、沖縄県臨床心理士会、沖縄県教職員組合、 沖縄県社会福祉士会、沖縄県精神保健福祉士会、等



学生派遣によって期待される効果



お兄さん
お姉さん
的存在



学校生活への参加意欲の高まり

居場所における他の活動

自己肯定感の向上

居場所における安心感の向上





学生が子どもの居場所へ派遣されるまでの流れ

学生からの応募

↓

事前研修会の受講

↓

学生サポートボランティアとしての登録

↓

学生の希望と子どもの居場所とのマッチング

↓

子どもの居場所へ学生を派遣



学生サポートボランティア事前研修会の開催

講義内容

- （ コーディネーター ）　ボランティアセンターの概要説明（心得等）
- （ 沖縄県職員 ）　子供の貧困緊急対策事業概要
- （ 社会福祉士 ）　ソーシャルワークの基礎
- （ 居場所スタッフ ）　子どもの居場所関係者による現場からの声
- （ 弁護士 ）　子どもたちの人権について

平成29年度開催

	日　時	場　所	参加人数
第１回	４月２２日	沖縄県立看護大学	８１
第２回	５月２０日	琉球大学	４４
第３回	７月８日	琉球大学	２１
第４回	１０月１４日	沖縄女子短期大学	４４
第５回	１２月１５日	沖縄キリスト教学院大学	８
第６回	１月２１日	沖縄大学	３０
	平成２８度合計１０５名　約２倍		２２８



学生サポートボランティア事前研修会の開催

講義内容

- （ コーディネーター ）　ボランティアセンターの概要説明（心得等）
- （ コーディネーター ）　子供の貧困緊急対策事業概要
- （ 社会福祉士 ）　ソーシャルワークの基礎
- （ 居場所スタッフ ）　子どもの居場所関係者による現場からの声
- （ 学生ボランティア ）　学生ボランティアによる現場からの声
- （ 弁護士 ）　子どもたちの人権について

平成30年度開催

	日　時	場　所	参加人数
第１回	４月２２日	琉球大学	５１
第２回	５月１９日	沖縄県立看護大学	６１
第３回	６月１０日	沖縄国際大学	３８
第４回	７月２２日	沖縄女子短期大学	-
合計			１５０



学生サポートボランティア事前研修会の様子











学生サポートボランティア派遣状況

	平成28年度	平成29年度	増加分	平成30年度
市町村より推薦を受けた居場所数	55	82	+27	86
派遣居場所数	22	48	+26	53
派遣市町村数	13	20	+7	21
事前研修会受講者数	105	228	+123	150
サポートボランティア登録学生数	76	172	+96	157
学生派遣人数	50	122	+72	89

（平成３０年６月３０日時点）



平成２９年度大学別派遣状況

大学名	派遣人数	定期	不定期	離島	事前研修受講者数	登録者数
琉球大学	40	37	4	7	80	51
沖縄キリスト教学院大学	3	3	0	0	10	5
沖縄キリスト教短期大学	4	3	0	1	10	8
沖縄大学	22	17	1	8	29	27
沖縄女子短期大学	9	9	0	5	10	10
沖縄国際大学	14	12	0	5	29	21
沖縄県立芸術大学	2	2	2	1	1	2
名桜大学	11	10	0	1	7	20
沖縄県立看護大学	17	15	0	5	52	28
【合計】	122	108	7	33	228	172

（平成３０年３月３１日時点）



平成３０年度大学別派遣状況

大学名	派遣人数	定期	不定期	離島	事前研修受講者数	登録者数
琉球大学	44	43	3	0	70	74
沖縄キリスト教学院大学	0	0	0	0	5	1
沖縄キリスト教短期大学	1	1	0	0	12	2
沖縄大学	3	3	0	0	1	5
沖縄女子短期大学	6	6	0	0	4	7
沖縄国際大学	14	14	0	0	29	26
沖縄県立芸術大学	2	1	2	0	0	2
名桜大学	7	7	0	0	10	17
沖縄県立看護大学	11	11	1	0	18	22
沖縄工業高等専門学校	1	1	0	0	1	1
【合計】	89	87	6	0	150	157

（2018年６月30時点）

学生サポートボランティアの活動の様子

名護市学習支援教室ぴゅあ・第二教室(きじむなー)



小学生向けの居場所。学生サポートボランティア８人が活躍中。
１５名ほどの子ども達が利用しており、宿題をした後は思いきり遊んでいる。
写真は、ポスカのインキの色を混ぜ合わせて遊んでいる様子。



学生サポートボランティアの活動の様子

NPO法人カナカナ（ 南風原町 ）



少数の子ども達を預かる夜の居場所。学生サポートボランティア１人が活躍中。
月に一度はキッズデーを設け地域の子どもたちへ開放している。
写真は、キッズデーでハロウィンパーティーをした時の様子。



学生サポートボランティアの活動の様子

R･Kアカデミー（ 那覇市 ）



中学生を対象にした学習支援を実施。学生サポートボランティア２人が活躍中。
10名ほどの中学生が勉強している。
写真は、学生サポートボランティアが中学生の勉強を見守っている様子。



離島派遣（石垣島・宮古島・多良間島）

大学のない離島の子どもの居場所では、普段大学生と触れ合う機会が少ないために、学生サポートボランティアの派遣を望む声も大きい。これに応えるべく、子どもの居場所学生ボランティアセンターでは、学生の長期休暇を利用し、短期集中派遣を行っている。

平成28年～29年度

離島名	平成28年度 派遣人数 （ 居場所数 ）	平成29年度 派遣人数 （ 居場所数 ）	増加
石垣島	2人 （1ヶ所）	10人 （ 1ヶ所 ）	＋8人 （±0ヶ所）
宮古島	4人 （3ヶ所）	20人 （ 5ヶ所 ）	＋16人 （＋2ヶ所）
多良間島	0人 （0ヶ所）	4人 （ 1ヶ所 ）	＋4人 （＋1ヶ所）
【 合計 】	6人 （4ヶ所）	34人※1 （7か所）	＋28人 （＋3ヶ所）





※1　宮古島と多良間島の２か所で活動した学生１名をダブルカウント。
実質の派遣人数は33名。

学生へのサポート・・・メンター制度

沖縄県内専門職団体
からメンターの派遣

悩み

仲間との
悩みの共有

アドバイス

異なる大学、学年で
少人数のグループを形成
＝
ピア・グループ

参加団体

- 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
- 沖縄県医師会
- 沖縄県臨床心理士会
- 沖縄県社会福祉士会
- 沖縄ソーシャルワーカー協会
- 沖縄県看護協会
- 沖縄県教職員組合
- 沖縄県精神保健福祉士会　　等





学生への処遇

受託事業費より

- ボランティア保険の加入費
- 自宅から子どもの居場所までの交通費

寄 付 金 よ り

- ボランティア活動において、１時間あたり７００円の謝金を支給



資料 2-1-②

平成３０年４月３日

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄
子どもの居場所学生ボランティアセンター事業計画書

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄

１．委託業務名

子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業委託業務

２．委託期間

平成３０年４月１日から平成３１年３月３１日まで

３．基本的な考え方

沖縄の子ども達を取り巻く環境は、全国の中でも極めて深刻とされ、沖縄振興で残された課題の一つとしてこの問題について、今後の沖縄振興計画期間中（平成 28～33 年度）を「集中対策期間」とし、地域の実情を踏まえた対策に集中的に取り組むとされている。その柱となるのは、(1)子供の貧困対策支援員の配置（支援員は地域に出向いて子どもの貧困の現状を把握し、学校や学習支援施設、居場所づくりを行う NPO 等の関係機関との情報共有や、子どもを支援につなげるための調整を行う。また、居場所の担い手を確保するなどして、新たな子どもの居場所づくりの準備等を行う）および、(2)子どもの居場所の運営支援（地域の実情に応じて、食事の提供、生活指導、学習支援等を行いながら、子どもの居場所を提供する取組を支援）である。

本事業は上記「子どもの居場所」を利用する子ども達の子どもの居場所における安心感を向上させると共に、一人一人の子どもの実情に沿った成長を個別にサポートすることを目的とするものである。そのために、「子どもの居場所学生ボランティアセンター」（以下、センター）において、大学コンソーシアム沖縄に所属する 11 の大学等に在籍する学生を中心に「学生サポートボランティア」の募集・登録を行い、各子どもの居場所の責任者が作成する「学生サポートボランティア派遣申請書」に示される要件と学生サポートボランティアの活動希望のマッチングを行った後に子どもの居場所への派遣を行う。派遣後においても子どもの居場所や各所属大学等との連絡調整等をセンターが継続して実施し、個々の学生サポートボランティアへの支援による活動の質の向上を通して、ボランティア活動がスムーズに実施されることを支援する。

４．ボランティア活動実施方針

子どもの居場所を利用する子ども達と年齢の近い学生が身近な「お兄さん、お姉さん」的な存在となり子どもの居場所における安心感の向上を達成するとともに、一人一人の子ども達のその時々の実情に沿った寄り添い型のサポートを提供することで、子どもの自己肯定感の向上を目指す。このことを通して、子どもの居場所における他の活動や、学校生活における種々の活動参加への意欲が高まることによる正のスパイラルが生じることを目指す。

５．事業内容および実施方法

（１）沖縄県内の大学生等を対象とした学生ボランティア活動に関する啓発活動

１）大学コンソーシアム沖縄に所属する 11 の大学等に対するリーフレット等の配布等

２）ボランティア啓発講演会
県内の実情や、国内外の先進的取り組みに関する研修会等の実施（学生向けと兼ねて年に 1 回実施）。

３）センターHP の更新
学生サポートボランティアの募集に関する情報の掲載等、随時更新。

４）センターコーディネーターによる情報発信
関連イベントへの取材依頼やコーディネーターによる記事をメディアに投稿。

（2）学生ボランティア活動に関するプログラムの作成・見直し

1）学生サポートボランティアの手引き（居場所向け・学生向け）の見直し

2）ＷＥＢ管理システムの見直し

（3）学生ボランティア活動に関する学生の登録

1）学生サポートボランティア申込書（活動希望形態を含む)、誓約書（守秘義務を含む)、口座振込依頼書の配布

2）学生サポートボランティア申込書等の受理

3）所属大学・学校等へ連絡・確認（随時）

4）データ登録（データ入力・管理）

5）ボランティア保険への加入手続き

（4）学生ボランティア活動に関する学生の研修

1）事前研修会（年 6 回程度）

2）県内の実情や、国内外の先進的取り組みに関する研修会（一般向けと兼ねて年に 1 回実施）

（5）子どもの居場所と派遣学生のマッチング

1）各子どもの居場所への手引きの配付と訪問・面談の実施
学生サポートボランティアと子どもとの不適切な関係（許可なく子ども居場所以外で会う、個別に連絡を取り合う等）に関する監督責任等について確認。

2）各子どもの居場所から提示された要件と学生サポートボランティアの活動希望とのマッチング

3）派遣調整後に「学生サポートボランティア活動計画書」作成

（6）子どもの居場所への学生の派遣

1）子どもの居場所への学生サポートボランティアの派遣

2）島嶼地域及び僻地の子どもの居場所への学生サポートボランティア派遣(学生の長期休暇中)

3）センターコーディネーターによる個別相談の実施（随時）

4）センターコーディネーターによる子どもの居場所への訪問（随時）

（7）学生を派遣する子どもの居場所との連絡調整

1）事務補佐員による定期的な連絡（月に 1 回程度）

2）センターコーディネーターによる個別対応の実施（随時）

（8）学生ボランティア活動の状況確認、集計

1）WEB 管理システムによる出勤簿や活動報告書の管理・取りまとめ

2）年度末に報告書作成

（9）派遣学生が所属する大学等との連絡調整

1）所属大学への活動状況報告（年に２回程度）

2）必要に応じた所属大学との連絡調整の実施（随時）

（１０）その他学生ボランティア活動に関する業務

1）参加学生サポートボランティア支援制度（ピアグループ・メンター制度）の実施（年に３回程度）
沖縄県内の専門職団体にメンター（学生支援専門員）の派遣を依頼し、学生サポートボランティアのサポート力向上を図る。

2）参加学生サポートボランティアによる企画提案型事業の実施
「沖縄県の子どもの貧困問題を解決するための取り組み」について参加学生サポートボランティアからの企画提案を募集する。その際、何らかの公益性を有する組織・団体（専門職団体、経済団体、プロスポーツ団体、教育関連企業、マスコミ等）との協同を含める企画内容とすることとし、学生サポートボランティアの課題解決能力の向上とともに、本事業の県内外への周知も企図する。

3）日本国内外の先進的な取り組みに関する情報収集の実施

4）調整会議の実施
構成員はセンター長、副センター長、コーディネーター、事務補佐員、その他センター長が必要と認める者とする。審議事項はセンターの管理運営に関すること、事業計画に関すること、その他センターに関すること。

5）その他、学生サポートボランティアの活動推進に寄与する活動の実施

資料 2-1-③

謝金の増額について

【経緯】

内閣府より謝金の増額について、内閣府、沖縄県、ＶＣにおいて検討してはどうかとのご提案があった。

【現状】

有償ボランティアであり、一定の範囲で留めるべきという考えの下、最低賃金を下回る程度ということでセンター設立当初 700 円と設定された。

参考：最低賃金の推移（平成 27 年 693 円、平成 28 年 714 円、平成 29 年 737 円）

【内閣府の見解】

以下の４点を基に、学生支援の充実という観点から、謝金額を上げることについて、関係者において速やかに検討を始めてはどうか。

- 謝金額の設定は、当時の最低賃金を基に決定したが、過去２年間で最低賃金が上昇している
- 活動報告会の中で、寄付者から謝金額を上げて学生支援を充実してほしい、との意見が出され、同意見が地元紙での報道にも取り上げられたこと。
- 学生へのアンケート結果から、学生の多くが生活費として謝金を活用しており、謝金が学生支援としての役割を果たしていること。
- 寄付金額が約 2,100 万円残っており、謝金額を上げる余力が十分ある。
- 最終的に謝金額を決定する主体は、大学コンソーシアム沖縄である。

ただし、謝金額を大幅に上げる場合は、これまでの考え方も踏まえ、しっかりと説明がつく形での整理が必要である。

【検討事項】

論点１．謝金額を上げるかどうか

論点２．上げる場合、いくらに設定するのか

案：840 円～900 円

補足①昨年度実施のアンケートによれば、105 名の回答者のうち 54%の学生が謝金について「生活費の助けとなっている」と回答。

補足②沖縄本島内のアルバイトの事例：コンビニ 750 円、飲食店 800 円

補足③現在加入しているボランティア保険への加入に関しても、日当数万円といった高額なものでなければ、加入は引き続き可能である。

補足④謝金の支出見込み（活動時間：13925 時間と仮定）

・700 円謝金の支払い額：9,747,500 円

・840 円謝金の支払い額：11,697,000 円

・900 円謝金の支払い額：12,532,500 円

論点３．上げる時期について

案：調整がつき次第改定。次回以降は、最低賃金の改定後に検討し、翌年度 4 月 1 日より変更する。

補足①最低賃金は毎年 10 月頃に改定されており、今年度も同様のタイミングで改定されると見られる。

論点４．寄付者のご理解をどのように得るか

資料2-1-④

寄附金一覧（平成28年度～平成30年度）

寄附金収入

（単位：円）

	寄附団体名	寄附金		備考
平成28年度	一般財団法人オリオンビール奨学金財団 （現在、公益財団法人オリオンビール奨学財団）	5,000,000	21,510,000	
	沖縄県酒造組合	4,500,000		
	株式会社國場組	10,000,000		
	株式会社日本トランスオーシャン航空	2,000,000		航空チケット（上限100万×3年＝300万円相当）
	寺田克彦（テラ・ウェブ・クリエイト）	10,000		
平成29年度	株式会社MUGEN	120,000	6,320,000	
	株式会社MUGEN	100,000		
	公益財団法人オリオンビール奨学財団	5,000,000		
	沖縄県酒造組合	1,000,000		
	J・TAP協力会	100,000		離島派遣時の宿泊費
平成30年度	沖縄法政学会	254,786	254,786	

寄附金支出（学生への謝金支払い額・航空チケット）

（単位：円）

年度	寄付収入	謝金	寄付残高	航空チケット	航空チケット残額
平成28年度	21,510,000	1,079,225	20,430,775		
平成29年度	6,320,000	4,952,500	21,798,275	913,500	2,086,500
平成30年度	254,786	714,525	21,338,536	0	2,086,500

※2018.6.3時点
（2018年5月分の謝金の支払いまで反映）

資料 2-1-⑤

子どもの居場所と学生の声

～2017 年度実施アンケート結果より～

作成：子どもの居場所学生ボランティアセンター



目次

Ⅰ.　アンケートの実施概要 3
Ⅱ.　アンケート結果の概要 4
　　子どもの居場所編 4
　　学生編 8
Ⅲ.　アンケート結果（自由記述） 15
　　子どもの居場所編 15
　　学生編 21
Ⅳ.　学生から寄付者へのメッセージ 30
Ⅴ.　添付資料（アンケート質問紙） 35





Ⅰ. アンケートの実施概要

- 目的
  - 沖縄県に対する事業報告や今後の事業内容の向上に活用すること
- 調査期間
  - 2018 年 1 月 15 日～2 月 20 日
- 調査対象
  - 子どもの居場所：45 箇所中、回答 34 箇所（回収率 76%）
  - 学生サポートボランティア：105 人中、回答 51 人（回収率 49%）
- 調査方法
  - 子どもの居場所学生ボランティアセンターにおいて設問を設定。子どもの居場所でボランティア活動を行った学生サポートボランティアや学生サポートボランティアを受け入れたことがある子どもの居場所にアンケート用紙を配布・回収し、集計。

II.　アンケート結果の概要

子どもの居場所編

【支援内容】

問１　現在、貴居場所で、子どもに対する支援で行われているものを教えてください。（いくつでも）

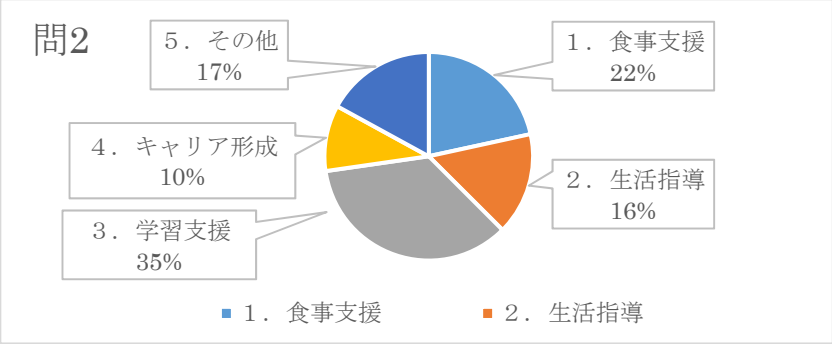
《その他》
- 高校生就学継続支援
- 遊び・ゲーム・お絵かき
- 地域散策・イベント参加

支援内容	回答
１．食事支援	24
２．生活指導	22
３．学習支援	33
４．キャリア形成	17
５．その他	15
合計	111

【学生ボランティアの役割】

問２　貴居場所で、学生ボランティアが担う役割を教えて下さい。（いくつでも）

学生が担う役割	回答数
１．食事支援	19
２．生活指導	14
３．学習支援	31
４．キャリア形成	9
５．その他	15
合計	88

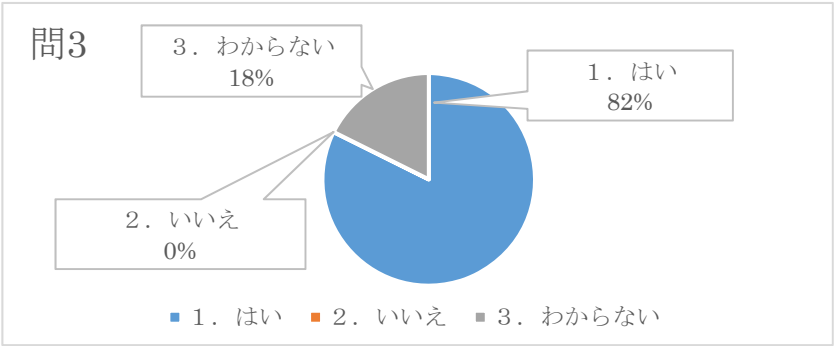


《その他》
- スポーツ、余暇活動
  レクリエーションへの参加　など

【子どもの変化の有無】

問３　学生が子どもの居場所の活動に参加したことで子どもに良い変化はありましたか。

	人数
１．はい	28
２．いいえ	0
３．わからない	6
合計	34



（１．はいと答えた理由例）
・職員には言えないような本音や素直な話が出来ていた。
・学習に意欲的になった。
・大学への興味（進学）を示す児童がでてきている。
・子どもが将来の夢や希望を持つようになった。
・寄り添うように関わるので子どもたちが落ち着いた。

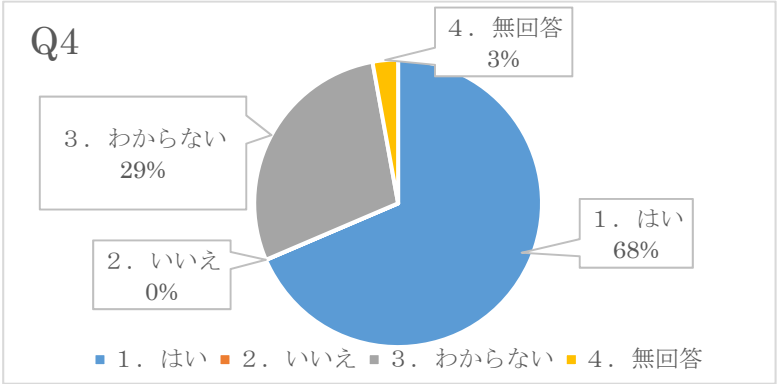
（２.いいえ、３.わからないと答えた理由例）
・学生だけの活動によって子どもに変化が見られたかどうかは分からないが、交流できる人材が増えた事でいろんな可能性は広がったと思う。
・短期間（２～３ヵ月）の関わりのため。
・来室回数が少なく、子どもと関わる時間も少なかったので。

【学生の変化の有無】

問４　子どもの居場所でのボランティア活動を通じて学生に良い変化はありましたか。

	人数
１．はい	24
２．いいえ	0
３．わからない	10
４．無回答	1
合計	35

※複数回答者１人



（１．はいと答えた理由例）
・接し方が上手になり、適切な指導や声かけができるようになっている。
・子どもが抱える問題を理解してもらえた。
・子どもに勉強を教えるための工夫が見られる。
・積極的に行事を計画し実施できた。目配りができるようになり、子ども達への寄り添い（接し方）が上手くなった。

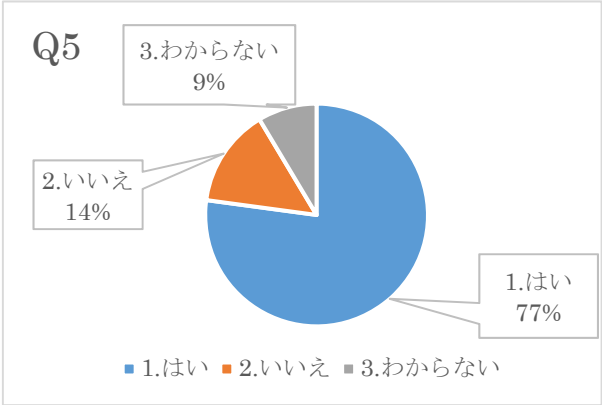
（２．いいえ、３．わからないと答えた理由例）
・活動を始めて間もないため変化がみられなかった。
・１日、数時間だけの学生活動では良し悪しは把握できなかった。
・学生が力を発揮する機会がなかった。

【学生の活動に対する満足度】

問５　子どもの居場所学生ボランティアセンターから紹介された学生の活動に満足していますか。

	人数
１．はい	27
２．いいえ	5
３．わからない	3
合計	35

※複数回答者１人



（１．はいと答えた理由例）

・居場所の雰囲気が明るくなった。
・特に学習指導面でとても満足している。
・生徒の状況や悩みなど、幅広く情報を得る事につながっている。
・子どもたちは大学生が毎週来るのを楽しみにしていたし、宿題も遊びも全力で一緒になってやってくれたのでとても嬉しかった。

（２．いいえ、３．わからないと答えた理由例）

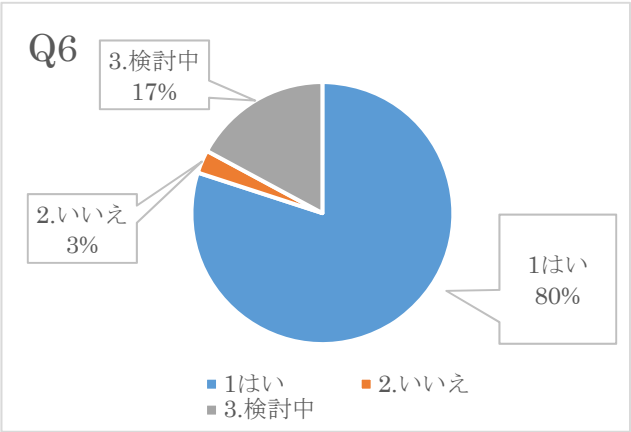
・複数人で来た時に対応しかねることと、学生の力量がバラバラなのでどの学生をどの子に任せてよいのか図りかねる。
・学習支援が厳しい学生もいた。
・講師と学生が協力できる体制が整っていなかった。
・活動時間が大学の授業に縛られて、こちらの希望する時間に来てもらえない。

【来年度の学生の受け入れについて】

問６　来年度も継続して学生を受け入れたいと思いますか。

	人数
１．はい	28
２．いいえ	1
３．検討中	6
合計	35

※複数回答者１人



（１．はい：今後の受け入れ見込み例）

・できれば毎日
・１名、週２～３回程度
・２～３名、週３～４回程度
・貴センターに一任する
・現場の状況に応じて

（１．はい：学生の活動に期待すること）

・子ども達に寄り添う態度や行動が持続して実行できること。
・居場所の雰囲気づくりや、子どもの声を聴くことなど。
・子どもとスタッフの間の役割。子どもと大人のつなぎ役。こども目線で感じることをフィードバックしてほしい。
・身近な先輩として良き相談相手になってほしい。
・楽しく関わってくれたらいいなと思う。

（２.いいえ、３.検討中の理由）

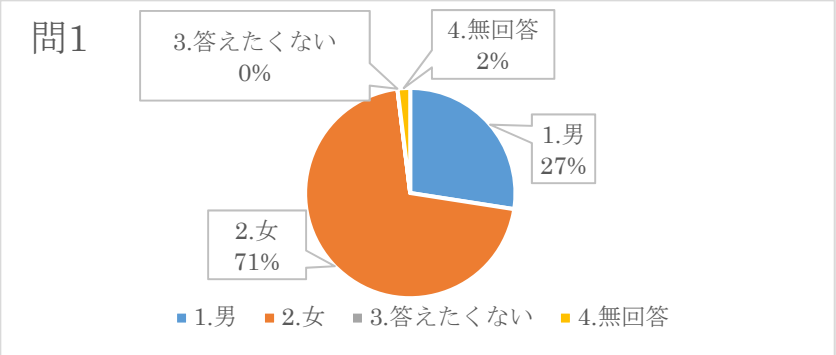
・学生に力を発揮してもらう活動内容が準備できたら受け入れたい。
・子ども事業を今はやっていない。
・安定した継続が見込める直接雇用を視野に入れて検討している。
・実際の活動より、事務的作業の負担が大きい。

学生編

【参加学生の性別】

問１　あなたの性別を教えてください。

性別	人数
１．男	14
２．女	36
３．答えたくない	0
４．無回答	1
合計	51

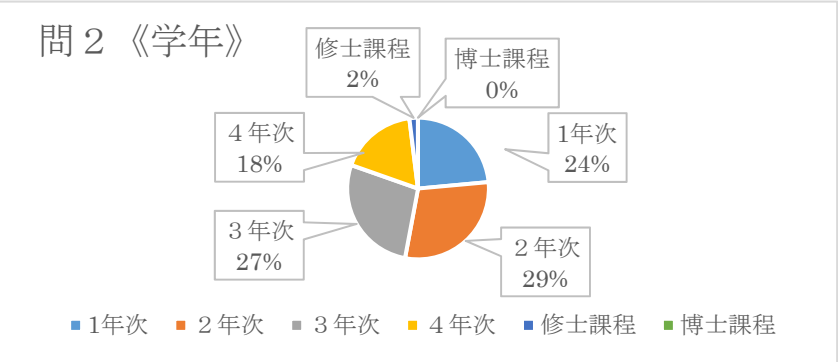


【参加学生の所属】

問２　あなたの学年、学部、学科を教えてください。

① 学年

学年	人数
１年次	12
２年次	15
３年次	14
４年次	9
修士課程	1
博士課程	0
合計	51



② 学部

学部	人文学部	法文学部	総合文化学部	看護学部	理学部	教育学部	国際学群	医学部	法経学部	人文社会科学研究科	記入なし	合計
人数	9	11	5	7	3	2	3	2	1	1	7	51

③ 学科

8 人：人間科学学科　7 人：看護学科
6 人：福祉文化学科　4 人：児童教育学科
3 人：人間福祉学科
2 人：国際言語文化学科、物質地球科学学科、国際学科、こども文化学科
1 人：総合社会システム学科、社会文化学科、英米言語文化学科、海洋自然科学科、
保育学科、保健学科、法経学科、医学学科、英語コミュニケーション学科、
学校教育教員養成課程、人間社会領域
※記入なし 4 人

【ボランティア活動の参加時期】

問３　子どもの居場所での活動をいつから始めましたか。

・平成 28 年４月前　：2 人
・平成 28 年４月～　：18 人
・平成 29 年４月～　：31 人

【ボランティア活動に参加したきっかけ】

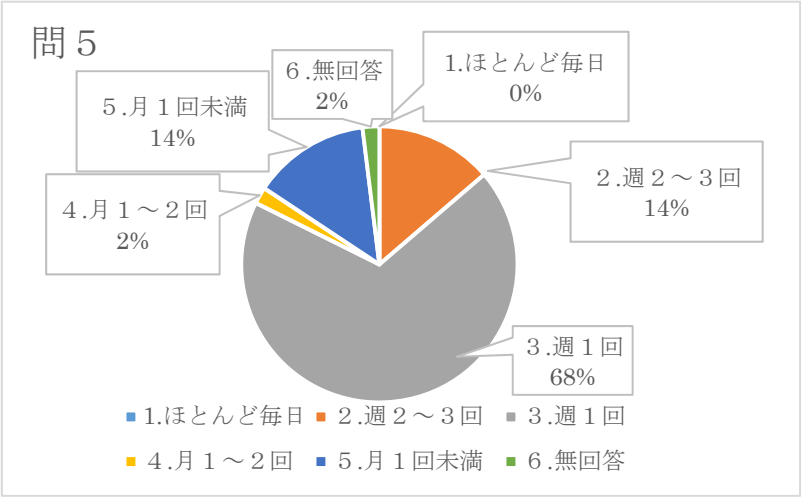
問４　子どもの居場所のボランティア活動に参加したきっかけを教えてください。

・子どもの居場所や貧困問題に興味があり、力になりたいと思った。（16 人）
・ゼミの先生、知り合い、友人、先輩からの紹介。（9 人）
・事前研修会の受講。（7 人）
・教員を目指している・子どもと関わる仕事に興味があるため。（5 人）
・チラシ、ポスターで見て興味があったから。（5 人）
・メディアの報道から、子どもの居場所に興味をもったため。（4 人）
・興味があった且つ謝金などの費用負担にひかれた。（2 人）
・社会貢献のため。
・大学生活のうちに何か活動をしてみたいと思ったから。
・もともとボランティア活動が好きだから。

【子どもの居場所での活動頻度】

問５　子どもの居場所での活動をどのくらいの頻度で行っていますか。
以下の中から一番近いものを選んでください。

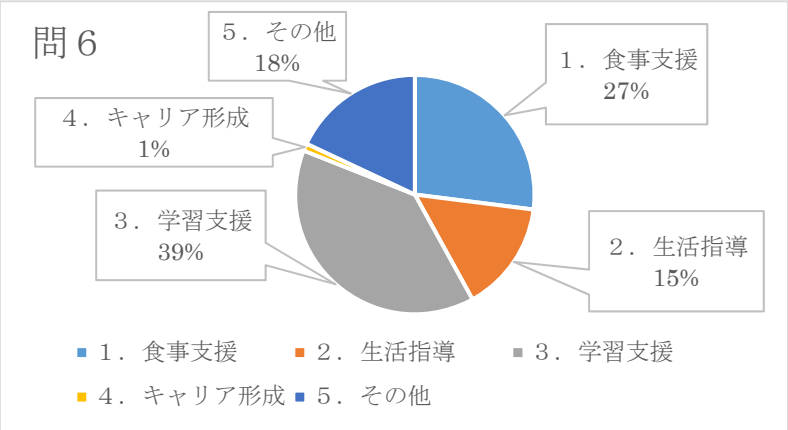
活動頻度	人数
１．ほとんど毎日	0
２．週２～３回	7
３．週１回	35
４．月１～２回	1
５．月１回未満	7
６．無回答	1
合計	51



【子どもの居場所での活動内容】

問６　子どもの居場所での活動を教えて下さい（いくつでも）。

支援内容	人数
１．食事支援	27
２．生活指導	15
３．学習支援	39
４．キャリア形成	1
５．その他	18
合計	100



【ボランティアで学んだこと】

問７　ボランティア活動を通じて、学んだことや得たものを教えてください。

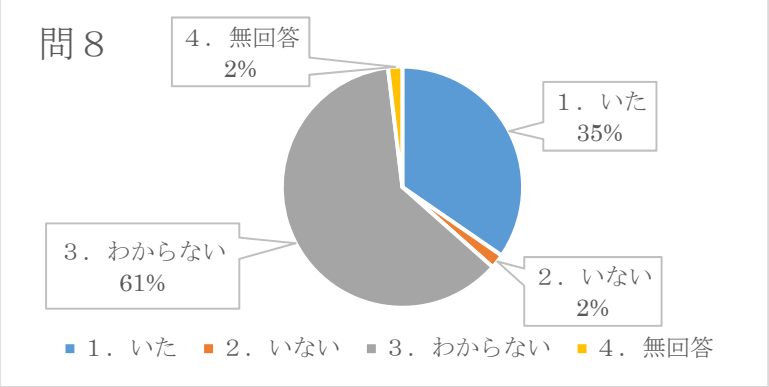
・子どもと一緒に過ごして、自分が普段気にもかけないような事に目を向けることができた。また、ボランティア活動を通して地域のイベントに興味を持つことができた。
・自分が通っている居場所の子どもたちは基本的に元気ではあるが、時にその子どもたちの抱えている課題や問題に触れることがある。大学では福祉を専攻しているが、この居場所を通して大学で学んだことが実感として理解できるようになった。
・自分が子どもたちに関わることで、子どもたち自身にも何かしらの変化があるようで、そのことがこの活動を続けることだけでなく、普段の生活での対人場面でも自信が持てるようになった。毎回行くたびに子どもたちにも何かしらの変化・成長が見られ、それを見る自分自身も成長していると感じる。

【良い変化が見られた子ども】

問８　子どもとの関わりの中で良い変化が見られた子どもはいましたか。

	人数
１．いた	18
２．いない	1
３．わからない	32
４．無回答	1
合計	52

※複数回答者１人



（１．はい：どのような変化か）

・以前より学習意欲が向上した。（2 人）
・大学について興味を持つようになった。挨拶をするようになった。
・言葉で感情を伝えられるようになった。
・時間になったらちゃんと食卓につけるようになった。
・学校に通いだすようになった。周りの子ども達と遊ぶようになった。

（１．はい：自身のどんな活動がその変化をもたらしたか）

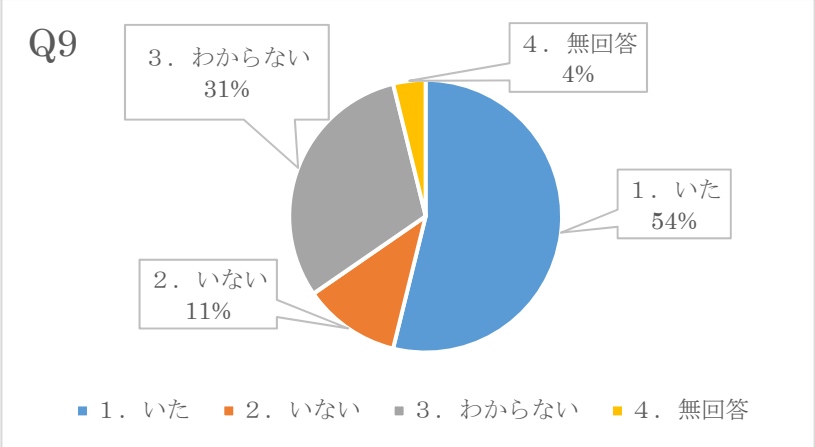
・生徒からの質問（勉強に関して）に答えられるように、より一層勉強した。
・ただ叱るのではなく、なんでこのような言動をするのかを考えながら関わった。
・勉強の楽しさや色々な人と関わることの楽しさを伝えた。
・毎週、食卓にいくまでずっと隣で話した。
・大学について話すときに好きなことを学べることを伝えた。お礼などを促している。

【課題が見られた子ども】

問９　子どもとの関わりの中で課題が見られた子どもはいましたか。

	人数
１．いた	28
２．いない	6
３．わからない	16
４．無回答	2
合計	52

※複数回答者１人



（１．はい：どのような課題か）

・気持ちをうまく伝えられず攻撃的になる。
・ほかの子供たちとうまく遊べず、毎回ケンカなどをしてしまう。
・使う言葉があまりいい言葉ではない。
・大人の言うことを素直に聞き入れてくれないことが多い。

（１．はい：課題解決に向けてすべきことは何か）

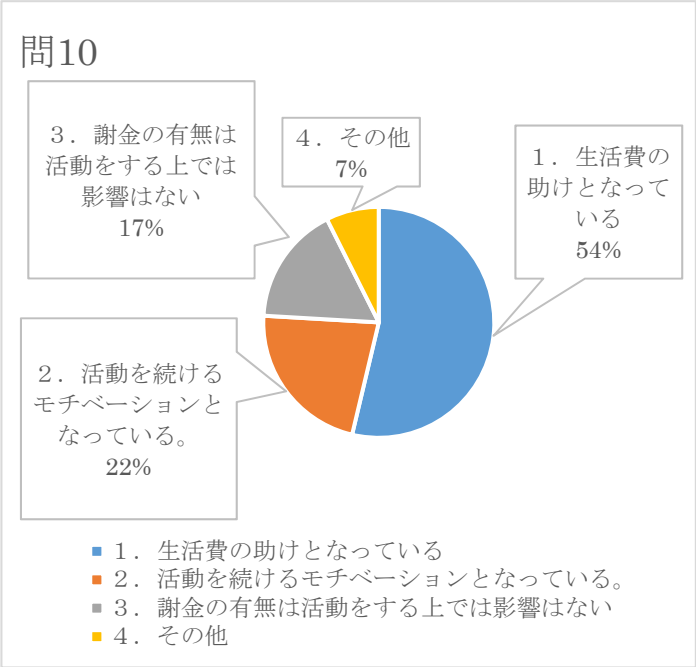
・気持ちを聞いて受け止めて、良い気持ちの伝え方を一緒に考える。
・時間をかけて、何回も話して、信頼関係を作る。その子のことを理解すること。
・まずは、自分が丁寧な言葉を使うこと。
・「こんにちは」や「おかえり」などのあいさつを必ずする。大人はちゃんと子どものことをみていると知ってもらう。

【謝金として報酬をもらうことについて】

問 10　謝金として報酬をもらうことについて、あなたはどう考えていますか。
以下の中から一番近いものを選んでください。

	人数
1．学費・食費等に充てるなど、謝金が生活費の助けとなっている。	29
2．活動の対価として謝金をもらうことが活動を続けるモチベーションとなっている。	12
3．自発的に活動していることから、謝金の有無は活動をする上で影響はない。	9
4．その他（※）	4
合計	54

※複数回

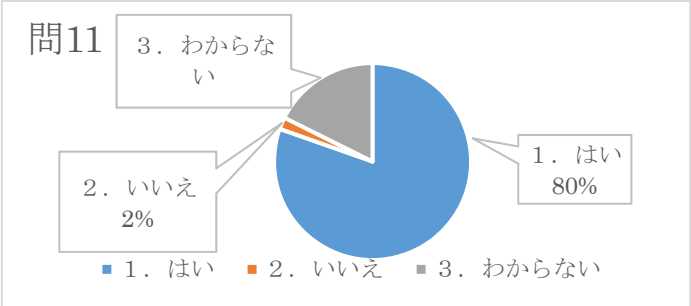


答者３人
（※）４．その他の記述
・子どもたちへの日頃の感謝の気持ちとして、クリスマスなどの行事がある際に、子どもたちへお菓子を買ってプレゼント。
・３つともあてはまる（１，２，３を選択）

【後輩や知人の学生への活動呼びかけについて】

問 11　学生サポートボランティアの活動を後輩や知人の学生に勧めたいですか。

	人数
1．はい	41
2．いいえ	1
3．わからない	9
合計	51



（１．はいと答えた理由例）

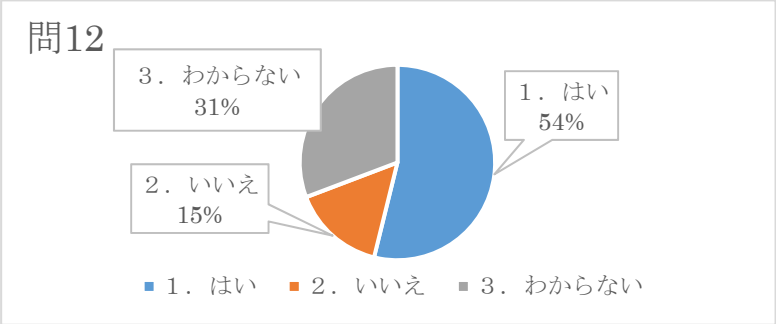
・自分自身が居場所の活動があることを知らなかったし、ボランティアに行く度に子ども達の成長も楽しみになっている自分がいたから。
・ボランティアだけど謝金もでるし、社会貢献になるし、もっと広く考えられるべき社会問題に関わることができるから。
・学生サポートボランティアの活動を通して、自身と向き合うことが出来るためこれから就職を考える学生には有意義な活動になるのではないかと考える。
・自分自身の住んでいる地域、隣接する地域での現状や取り組みを知るきっかけになる。知ることによって横のつながりができる。そしてより住みやすい地域、課題解決への糸口になる。福祉を学んでいる学生は、学校での理論と現場での実践が体験できる。教職を学んでいる学生は、放課後の子どもの様子、学校での課題、家庭での課題を知ることができる。

（２．いいえと答えた理由例）
・ボランティアは自発的に行うものだと考えているから。
（３．わからないと答えた理由例）
・アルバイト等で忙しそうに見えるから。
・ボランティアなので、活動のイニシアチブは本人にあると思うから。
・まだ始めて間もないから。

【ボランティア活動の継続の希望について】
問 12　来年度も継続してボランティア活動を行いたいですか。

	人数
１．はい	28
２．いいえ	8
３．わからない	16
合計	52

※複数回答者１人



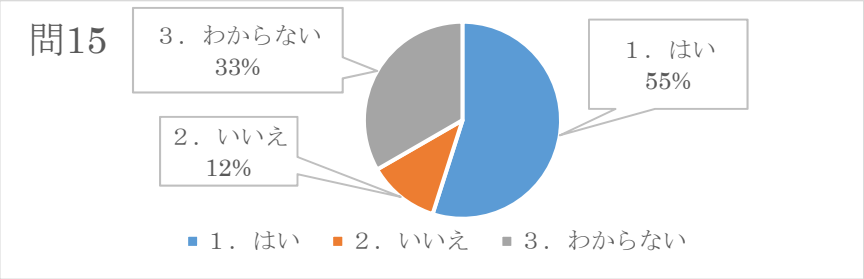
（１．はいと答えた理由例）
・もっと、アイデアだしを行い、よりよい居場所作りを責任者とともに作りたい。例えば、クリスマスイベントを企画して、大好評だったため来年も企画中。
・積極的にかかわりを持つ。
・長く同じ場所でのボランティアを続けることでその子の成長が見られると思う。また将来に繋げられるようなボランティアにしたい。
・子どもたちが抱えている課題を発見するためにも勉強会などへの積極的な参加。
・学習支援前に教えるところを学習しておく。
（２．いいえ・３．わからないと答えた理由例）
・就職活動や卒業研究、実習などで忙しくなる。（14 人）
・大学を卒業する。（７人）
・予定があわないから。
・今、活動していない期間が長く続いているから。
・教員を目指すことをやめたため。

【トレーニングコースへの意欲】

問 15　ボランティアセンターでは、ボランティア技能を認定するためのトレーニングコース（※）の開設について検討しています。開設された場合、参加したいと思いますか。

※居場所にいる子ども達と交流する際に必要なコミュニケーションスキルに関するトレーニングを想定。

	人数
１．はい	28
２．いいえ	6
３．わからない	17
合計	51



（１．はい：身に付けたいスキル）

- 子どもの注意の仕方や叱り方。（６人）
- 子どもがケンカしたときや殴ってきたとき、暴言的な言動への対応法。（５人）
- 自然な声かけの仕方、会話の幅を広げる方法等。　（５人）

III. アンケート結果（自由記述）

子どもの居場所編

【子どもの変化の有無】

問３　学生が子どもの居場所の活動に参加したことで子供に良い変化はありましたか。

問３－１　①はい：どのような変化がありましたか。

・大学進学に向けて以前より意欲的になった。
・人見知りの子が多かったが、来館した方に対して誰にでも積極的に話しかけるようになってきた。
・年齢が近い先生の指導は、勉強はもちろんその他の話題でも元気がでる。
・子ども達の生活リズムが少しずつ落ち着く態度がみられるようになった。
・大学生という一つのモデルになった。
・参加されてからまだ短期間ではあるが、明るい声かけにより表情や態度がリラックスした子どもがいる。
・個人差はあるが、学習に対して積極的に質問をしていた。
・お兄さんお姉さん役として子ども達に接してくれる。
・自分の意思を声にして伝えることができるようになった。学習を進んでできるようになった。
・大人とは異なる、身近なお兄さん、お姉さんとして悩みの相談や、大学生活の話、高校時代の勉強や生活などの話を通して、学校へくるきっかけや意欲の向上に繋がる。
・学生が来ると子ども達が喜び、元気になる等の変化があった。両親が忙しすぎて、もしくは片親の子どもにとっては、学校の先生でもない、おじさん、おばさんでもない、年の近い学生さんの存在は、兄弟、姉妹のように接せられる安心感があったようで、学生さんが来るのをいつも心待ちにしていました。勉強も「せっかく来てくれているからやろう」と意欲も見られました。
・子ども達の個々の要求（話を聞いてほしい、構ってほしい）に答えてくれる存在が増えたことで、情緒面の落ち着きを感じる。
・職員には言えないような本音や素直な話が出来ていた。
・こころを開いて打ち解けてくれた。
・学生ボランティアに個別で見てもらえる事で学習に意欲的になった。
・出会う大人の幅が広がり、人馴れした。大学をイメージできた。
・友達になっていただいて、大人に対する信頼が増えた。
・学生が活動に参加することにより、子どもの興味の幅が広がった。
・子ども達が私達には話さないことを学生には話す。学校での友達のことや恋話など。特に女子たちが活発になった。雰囲気が良い風に変わった。
・大学への興味（進学）を示す児童がでてきている。
・目指す対象としても存在となり、学習意欲もわくと同時に人との関わり方を自然体で学べ、笑顔が一段と増えた。

・勉強を子ども達一人一人に分かりやすく教えてもらって、学習する習慣が徐々についてきた。
・大学の話やアニメの話をしてくれ、子どもたちが興味関心を持ってくれた。
・〇〇さん（ボランティア）のいる琉球大学に行って、自分も〇〇（居場所名）のボランティアをすると目標を語る子もいた。
・異年齢、性別関係なく子ども達が活発に活動するようになった。
・子どもが将来の夢や希望を持つようになった、子どもの学習意欲がわいたなど。大学や働くということに興味をもち始めた。
・近い年齢ということもあり、楽しく学習するようになった。また、近い未来像の手本となっている。
・寄り添うように関わるので、子どもたちが落ち着いた。

問３－２　「②いいえ・③わからない」を選んだ理由
・学生が生徒と積極的にコミュニケーションをとらなかったため。
・短期間（２～３ヵ月）の関わりのため。
・学生だけの活動によって子どもに変化が見られたかどうかは分からないが、交流できる人材が増えた事でいろんな可能性は広がったと思う。
・来室回数が少なく、子どもと関わる時間も少なかったので。
・若者が中心の支援を行っています。学生ボランティアにとって同世代の支援の枠組みの活動ですので、判断しかねます。しかし、看護大学からの学生ボランティア参加で、命の側面から、障害の有無に関係なく健康であることが未来を築く礎という共通認識を持っています。

【学生の変化の有無】
問４　子どもの居場所でのボランティア活動を通じて学生に良い変化はありましたか。
問４－１　「①はい」：どのような変化がありましたか。
・時間が空いたときなど、自分のすべき事を自分で考えるようになった。
・担当コーディネーター様から学生の方たちが満足してくれていたとのお話をお聞きした為。実際に子ども達との関わりもとても良かった。
・子どもの居場所での過ごし方や行動する様子が理解できるようになった。また、学習への遅れに対し、学習姿勢や心がまえなどを教えることの取り組みが少し進歩してきた。
・広い視野で子どもと関われるようになった。
・積極的に子ども達に話をするようにしてコミュニケーションを取っていた。
・子ども達の表情を読み取れるようになった。
・積極的に行事を計画し実施できた。目配りができるようになり、子ども達への寄り添い（接し方）が上手くなった。
・カウンセラーの対応方法や事業趣旨の理解をすることで、子どもとの向き合い方などがスムーズに進められる。
・日頃、料理などする時間がないと言っていた学生さんも、一緒に料理を手伝ったり、余

暇活動は積極的に子ども達と遊んでくれた。
・接し方が上手になり、適切な指導や声かけができるようになっている。また、活動期間の短い学生さんも自主的になり考えて働きかけているように見える。
・基本、よく気付いて生徒対応をしてくれ、学習だけではない面にも注視してくれていた。
・子どもと接する上でのスキルアップ、体験・経験から見聞の広がりが見られた。
・回数を重ねるにつれて積極性が見られるようになったと感じる。
・子どもが抱える問題を理解してもらえた。
・積極的に活動を手伝ってくれた。また、居場所にいる子どもの背景を知らない状態から、少しずつ背景を理解する中でも、以前と変わることなく子どもと関係を築くことができていた。
・たぶん子どもたちのことを知る機会になるのではないか。子どもたちの特性についても勉強になると思う。
・最初はお互いに戸惑いが見受けられたが、今では子ども達の良き遊び相手、学習相手である。
・子どもとの接し方が上手くなった。積極的に居場所の活動を手伝ってくれた。
・子ども達と自然に関わりを持てるようになった。行事にも喜んで参加してくれた。
・積極的に子どもと関わる姿が見られるようになった。
・飲物の準備や片付けも積極的にしてくれた。子どもの対応も上手になった。
・年齢関係なく子ども達への関わり方が上手になった。
・子どもに勉強を教えるための工夫が見られる。
・当センターには、キャンプキンザーからアメリカ人の方も来館するので言語交流や異文化交流にもなり、互いの学びになっている。

問４－２　「②いいえ・③わからない」を選んだ理由
・１日、数時間だけの学生活動では、良し悪しは把握できなかった。
・学生が力を発揮する機会がなかった。
・活動を始めて間もないため変化がみられなかった。楽しんでくれている様子は伺える。
・最初からすばらしい働きをしてくれた。
・学生と関わる期間及び短時間での変化では分からない。
・ボランティアの学生が外国へ短期留学のため。
・来室回数が少なく、充分な関わりが取れていないのでわからない。
・月に数回の２時間程度なので自身もこどもの変化や自分も変化があったかどうかゆっくり話しをする時間がなかったため。
・本人に確認していません。私たちの理念は伝わっていると思う。

【学生の活動への満足度】

問５子どもの居場所学生ボランティアセンターから紹介された学生の活動に満足していますか。

問５－１　「①はい」を選んだ理由

・子どもたちに色んなアドバイスをしてくれた。
・子ども達が毎日楽しみにお兄ちゃん、お姉ちゃんが来るのを待つようになり、思い切り遊んでもらっている日々を見てとてもいい関わりをもってくれていると感じました。
・子ども達が心を開く機会が増えるよう心がけ、いろんな場面を設定してくれた。
・ごく自然に子どもたちへの声かけをしており、場の雰囲気が明るくなっている。
・準備や片付けなども進んで手伝ってもらい感謝している。
・子ども達目線で遊んでくれる。
・活動がある日は必ず参加するように調整してくれた。
・その子にあった指導方法を探りながら、他のメンバーと協力しながら学習支援を行っていた。
・生徒の状況や悩みなど、幅広く情報を得る事につながっている。
・居場所の雰囲気が明るくなること、学生さんの来ない日は宿題をしない子も、学生さんが来た時は勉強をするなど、子どもにとっても良い影響があった。
・職員が手の回らない子ども達に学習支援や遊び指導などを積極的に行ってくれた。
・自ら出来る事を見つけにいくなど自発的に動ける学生さんだった。
・積極的に子どもたちと関わってくれた。
・異年齢の子供を受け入れており学習講師が助かっている。
・現在３名の学生さんに活動してもらっていますが、それぞれが持ち味を発揮し安心できる居場所作りに貢献してくれている。こちらが意図していることをくみとり、子供たちに寄り添う、子どもの気持ちを聴く、引きだす。思いっきり遊ぶ、こどもに対する意見交換をすることでこども理解の広がりなどがあった。
・学習指導や人間関係を学ぶ。
・人手不足のとき助かる。
・子どもたちからもしっかり名前を覚えられ、「いつくるの？」とスタッフに聞く子どもの様子からも、子どもの楽しみとしても子どもにとっての様々な大人との出会いとしても満足しているし、非常にありがたい。
・子どもの居場所の雰囲気が明るくなった。学生が来ることによって、ボランティアの話を聞き、大学生がまわりにいない子どもたちが、大学についても知る機会になった。医者になりたい学生と看護師になりたい学生がきているので、具体的に異なる勉強をしていることが分かったと思う。
・昔と違う学習内容に良きアドバイスをくれて、又、いるときと、いないときでは、子ども達の場がとても明るくなった。
・居場所の運営補助を積極的に行ってくれた。子どもの学習指導を行ってくれた。居場所の雰囲気が明るくなるように盛り上げてくれた。
・子ども達の勉強を見てくれ、そして遊び相手になってくれた。お姉さん的存在になっている。
・とても満足です。特に学習指導の面ではとても助かった。
・子ども達がとても信頼している。

・子どもたちは大学生が毎週来るのを楽しみにしていたし、宿題も遊びも全力で一緒になってやってくれたのでとても嬉しかった。
・子どもの学習指導を行ってくれた。
・柔軟に対応してくれた。
・学習支援のみでなく、食事支援等の配膳等々に関わってくれる。

問５－２　「②いいえ・③わからない」を選んだ理由

・複数人で来た時に対応しかねることと、学生の力量がバラバラなので中学生にどの学生をどの子に任せてよいのか図りかねる。
・学習支援が厳しい学生もいた。
・講師と学生が協力できる体制が整っていなかった。
・１週間程の長い学習時間が欲しい。
・活動時間が大学の授業に縛られて、こちらの希望する時間に来てもらえない。
・居場所スタッフの指示を待っているばかりだった。
・短い期間であったため職員の指示を待つことが多かったが、継続してくれると流れ等がわかって動いてくれたのかなと思います。

【来年度の学生の受け入れについて】

問６　来年度も継続して学生を受け入れたいと思いますか。

問６－２　学生の活動に期待することを教えてください。

・高校生の教科書レベルの英・数などの知識は有していて欲しい。
・子ども達に楽しく遊んでくれたお兄ちゃん、お姉ちゃんがいたといつか振り返り、いい思い出になってくれたら最高だ。
・子ども達に寄り添う態度や行動が持続して実行できること。活動の継続。
・楽しくかかわってくれればいいなと思う。
・居場所の雰囲気づくりや、子どもの声を聴くことなど。
・真面目で子ども達にも積極的に話しをしてくれる。
・子ども達が高校、大学など、近い将来を想像できるようになる。
・高校生の悩みの相談や、将来に対する肯定的な意欲の向上のため、身近な存在として活動してほしい。
・何らかの事情で、普通に家庭生活が送れていない子どもにとっては、お兄さん、お姉さん的な憧れの存在です。子ども達がいつか大人になって、良い記憶として残るような、それが遊び相手だけでも、本気さの伝わる接し方を期待する。
・学習指導、生活指導以外に、ぜひ学生さんの得意分野の活動などを子どもたちと一緒に活動してもらいたい。
・勉強をみるだけでなく、生徒１人１人の特性を理解しながら対応し、気付きを得て欲しい。
・とくにない。同じように接してほしい。
・個別で学習を見てもらえる事で、苦手科目の克服及び意欲へ繋げる。
・子どもと我々スタッフの間の役割。こどもと大人のつなぎ役。とにかく子どもと楽しく

すごし、こども目線で感じることをフィードバックしてほしい。
・明るさと優しさで子ども達を愛すること。
・子どもとの信頼関係を深め学習指導や遊びを楽しみにできるようになる。
・今、居場所での学生の活動に期待するというよりも、将来に活かせる糧となるように居場所側も努めたい。
・今やってくれていることをしてくれたら十分だと思う。
・明るく楽しく臨んでくれること。
・今まで同様、子ども達に勉強を教えたり、遊んだりしてほしい。お姉さん的存在でいてほしい。
・身近な先輩として良き相談相手になってほしい。
・学習指導、スポーツなど。
・２月に畑で野菜を育てる予定です。農学部の学生さんとかいらっしゃいませんか。
・学習指導・引率補助。
・来てくれるだけでありがたい。
・互いの学びや成長になり、例えば将来教職を目指す学生が、本当に困り感のある子どもたちの気持ちが分かる教師になるなど、素敵な感性で社会で活動して欲しいと思う。

問６－３　「②いいえ・③検討中」を選択した理由。
・学生に力を発揮してもらう活動内容が準備できたら受け入れたい。
・事前研修等があり、調整が難しい。
・安定した継続が見込める直接雇用を視野に入れて検討している。
・実際の活動より、事務的作業の負担が大きい。

学生編

【学んだこと・得たこと】

問７　ボランティア活動を通じて、学んだことや得たものを教えてください。

・施設の職員さんの子どもとの関わり方から多くのことを学べた。
・子どもと仲良くなれた。
・子どもの居場所の環境について興味を持つようになった。
・勉強が苦手な子への分かりやすい説明の仕方、「注意して見る」ときに、どこに注意すればよいかを学んだ。
・子どもと一緒に過ごして、自分が普段気にもかけないような事に目を向けることができた。また、ボランティア活動を通して地域のイベントに興味を持つことができた。
・元々人と関わることに苦手意識があり、会話やおしゃべりをする機会が他の人に比べて圧倒的に少なかった。このボランティアを始めて、多くの子どもたちと関わることにより以前に比べてどの人に対しても会話をすることが多くなったと実感できた。また、自分が通っている居場所の子どもたちは基本的に元気ではあるが、時にその子どもたちの抱えている課題や問題に触れることがある。大学では福祉を専攻しているが、この居場所を通して大学で学んだことが実感として理解できるようになった。自分が子どもたちに関わることで、子どもたち自身にも何かしらの変化があるようで、そのことがこの活動を続けることだけでなく、普段の生活での対人場面でも自信が持てるようになった。毎回行くたびに子どもたちにも何かしらの変化・成長が見られ、それを見る自分自身も成長していると感じる。
・子どもとの関わり方、進路を変更した。地域参加をするようになった
・いろんな方と出会えてお話を聞けた。また、将来子どものために何かしたいという気持ちがうまれた。
・子どもとの関わり方が上手くなった、子どもの見本になれるように言葉遣いや姿勢に気を配るようになった。
・自閉症スペクトラムなどの発達障害児への関わり方について興味を持つようになった。
・子どもへ関心が上がった。
・居場所のスタッフの方々の子どもとの関わり方を参考にしている。
・子供と接することの難しさ。いろいろな性格の子供がいることがわかった。
・視野が広くなった。子どもとの関わり方が少しずつ分かるようになってきた。将来の進路を考えやすくなった。
・子どもとのコミュニケーションの取り方が上手くなった
・沖縄の子どもに関することを少し知ることができた。
・ボランティア活動をもっと行いたいと思った。また、社会問題への関心を持つようになった。
・もっと子供たちと接してみたい、将来はもっと手助けしたいと思った。
・県外や沖縄本島だけではなく、離島にも子どもを受け入れる場所があることが分かり、

子どもの居場所がその地域の資源（金銭的なものだけでなく、人のつながりなど）を活かして、様々な形で発展していくことが大事だと思うようになった。
・以前より子どもと関わりやすくなった。その地域について知ることができた。
・子どもたちとの関わり方が上手くなった。子どもたちとの接し方などが上手くなった。また、自分自身の将来の進路を考えるようになった。
・どんな家庭状況の子どもでも、素直で元気だということ。その子達の夢を応援したい。
・自分の活動を必要としていることがわかった。また、学生の活動が地域と子どもを結ぶ役割を果たしていることがわかった。
・人と少しだけどうまく関われるようになった。
・子どもとの関わり方。
・沖縄と自分の出身の子どもの元気さの違いに驚いた。
・高校生などに勉強を教えられるほどの知識がないことを実感した。目指す職業に近い場所でのボランティアがいいのではないかと学べた。
・子ども食堂に通うようになって、子どもとのかかわり方が上手くなった。この活動についてもっと理解を深めたいと感じるようになった。
・生徒に対する態度や接し方を学べた。
・子供との関わり方、距離感などには子供達の個別性に合わせたものが必要だと学んだ。
・子どもたちとどう接すればいいのかを肌で感じることができた。
・こどもの貧困問題についてさらに関心を持つようになった。
・子どもとの関わりが増え、対応が上手くなった。子どもの考えを少し理解できるようになった。
・子どもとの関わり方を学ぶことができ、自分の欠点も見えてきた。
・どちらかといえば苦手だった子どものことが好きなった、子どもの貧困問題に関心を持つようになった。
・福祉のことについて関心がでてきた。支援制度にはどのようなものがあるのか勉強したいと感じた。
・どのように教えると子供たちに理解してもらえるか考えるようになった。
・子供たちに関心を持つようになった。何故わからないのか、どうすれば伝わるのかなど考えるようになった。
・子どもとの関りに幅が持てた。
・子どもの貧困に対してどういう取り組みをしているのか、どういう人たちがかかわっているのかを知ることができた。
・子どもとの関わり方が以前より上手くなった。
・元々、児童福祉の分野に興味があり、ボランティア活動を行うことで改めて、子どもたちと関わる楽しさを感じたり、この分野の仕事に就きたいと思った。
・子どもたちの違いを知った。家族の在り方り方について疑問をもった。将来の夢が明確になった。
・子どもの視線に立ち、考えながら接することができるようになった。将来も問題を抱え

る子どもの支援ができるような職に就きたいと思うようになった。
・将来の進路を考えるようになった。
・子どもとの関わり方がわかった。知らなかったことを具体的に知ることができ、他人の生き方に興味を持った。
・自分が心を開くと相手も開いてくれるということを学んだ。
・子どもの背景を考えながら関わること。

【良い変化が見られた子どもと学生が行なった工夫】

問８　子どもとの関わりの中で良い変化が見られた子どもはいましたか。

問８－１　どのような変化が見られましたか。

問８－２　自身のどんな活動がその変化をもたらしたと思いますか。

（「・」：問８－１の回答　「→」：８－２の回答）

・以前より学習意欲が向上した。（２人）
→学習の時間に何をやるか子ども自身に決めてもらい、その学習の見守りをしたこと。
→子どもの立場に立ち、真摯に向き合ったから。
・学校に通いだすようになった。周りの子ども達と遊ぶようになった。
→周りの子ども達と一緒に遊びの場を提供していたこと。
・全体として、多くの子どもたちはさらに活発化していると感じる。また、年長の子の年下の子に対しての接し方にも変化があり、より先輩らしく接していくようになった。
→勉強よりも直に触れ合うこと、例えばおんぶや抱っこなどで子どもたちとの距離が縮まった。子どもたちはもしかしたら自分のことを「甘えていい大人」と思っているのかもしれないが、そのことが子どもの中の抑え込んでいた感情を外に出していっているのではないかと考えられる。また、自分の役回りとしては「ドジとボケ」をかますものになっているため、それを見て子どもたちの中の大人心（？）が動いて、大人として成長しているのかもしれない。
・大学について興味を持つようになった。挨拶をするようになった。
→大学について話す時に好きなことを学べることを伝えた。お礼などを促している。
・ボランティアの影響ではないと思うけど、A 君は勉強するようになった。B 君は思いやりのある子になった気がする。
→自分自身の活動が変化をもたらしたようには思えない。ほとんど週に１回の活動であるから自分自身がというより、その子自身の中身だと思う。
・最初は、中々接してくれなかったが、次第にちゃんと話すようになってくれて、勉強についての質問をしたりする生徒がいた。また、生徒たちから、自身の将来の夢について相談をしてくるなど生徒達みずから接するようになってくれた。
→改めて、自分自身の将来の進路について考えるようになった。また、生徒たちからの質問（勉強に関して）に答えられるように、同じ単元を勉強したりなど、より一層勉強するようになった。

・学習を教える際に、分からない問題でも理解しようと頑張っていた。
→理解がしやすいように分かりやすい例えなどを交えて説明をした。
・言葉で感情を伝えられるようになった。
→どのように言葉で伝えるかを繰り返し教えた。
・いやいややっていた宿題を自分からやるといってくれたこと。
→解き方や考え方だけ教えて答えは本人に出してもらい問題を解けたらほめてあげること。
・話せるようになった。自分から行動するようになった。
→回答なし。
・時間になったらちゃんと食卓に着けるようになった。
→毎週、食卓に行くまでずっと隣で話した。
・笑顔が増えた。積極的に話すようになった。
→話しかけて、その子に関心を持っていることを伝えるようにした。
・他児に対して、思いやりをもって接するようになった。
→その子に何かイヤなことがあったら、１対１で話を聞いたり、他の子とも仲良くできるようにした。
・友達とのかかわり方がうまくなった。勉強するときと遊ぶときのメリハリがついた。
→勉強あとの楽しみをもたせた。わからないところを共感してから取り組んだ。
・言動共に荒っぽかった子が、一年経つと落ち着いてきた。
→ただ叱るのではなく、なんでこのような言動をするのかを考えてながら関わった。
・学習意欲が湧いて中学受験をしたいという子がいた。
→勉強の楽しさや色々な人と関わることの楽しさを伝えた。

【課題が見られた子どもと学生が行なった工夫】

問９　子どもとの関わりの中で課題が見られた子どもはいましたか。
問９－１　どのような課題が見られましたか。
問９－２　課題解決に向けて自分がすべきことは何だと思いますか。
（「・」：問９－１の回答　「→」：９－２の回答）

・気持ちをうまく伝えられず攻撃的になる。
→気持ちを聞いて受け止めて、良い気持ちの伝え方を一緒に考える。
・急に話かけても、子ども達が話すとは限らない。
→子ども達の名前を覚えて、名前を呼んで挨拶をして距離を縮めていった。
・上手く他の子どもとコミュニケーションを取ることができなかったり、自分中心の行動をしたりしていた。
→その子と一緒に行動して、他の子どもたちをその輪のなかに徐々に入れていき少しずつコミュニケーションの輪を広げていけばよいのではないかと考える。
・1. お迎えが来るまで部屋の隅でじっとしている子。
2. 最年長で、周囲と距離を置き一人で座っている子。
3. 言葉遣いが悪い子。

→1. さりげないきっかけを作り、少しずつ関わる機会を増やす。最初はボールをあえて転がす。徐々にボール転がしで遊ぶようになったら、会話の機会を捉えるなど。
2. その子は中学３年生で、大人しめの性格である。周囲の子どもはほとんどが小学生以下である。何か先輩としての役割をこの子に与えることが必要ではないかと思う。
3. これは多くの子どもに当てはまる。小さな子どもでさえ使うことがあるので、その際はちゃんと叱りつける必要がある。

・大人に対しては素直に話しかけてくれても、子どもたち同士の関係性がうまくつくれない子がいる。
→双方の話をよく聞くこと。
・他の先生と自分への反応が違う。
→まだ心を開けていないからだと思うから焦らず少しずつ会話をしたりしながら距離を近づけていきたい。
・ほかの子供たちとうまく遊べず、毎回けんかなどをしてしまう。
→その子だけを責めるのではなくて、ちゃんと話を聞いてなるべく味方になってあげる。
・大人が見ている前での暴言暴力はなかったけど、ボランティア学生の前では、普通に暴言暴力が自分より年下の子にひどかった。
→今は居場所から離れて学校帰りに学校の友達と遊んでいるみたい。居場所の方は理解をしていて、その代わり、間接的にその子の下の兄弟が居場所に通うことで関わりは切れていない。
・挨拶が、おいブスとか、デブという。
→時間をかけて、何回も話して、信頼関係を作る。
・言葉使いが荒い。
→まずは、自分が丁寧な言葉を使うこと。
・使う言葉があまりいい言葉ではない。
→まだどうしたらいいかわからない。
・集中力がなかなか続きにくい子の学習支援は大変だった。
→もっと時間をかけてその子のことを理解する。
・乱暴な言動。仲間はずれ。約束を守れない。家庭環境。等々。
→よくわからない。
・自分の世界（読書）に入ってしまい、授業中に話しかけても勉強してくれず、対応に困っている。
→その本がどんな話なのか、どんな内容なのかなど、簡単な質問から聞いて、そこから一緒に勉強をするように心がけたり、読んだ本の感想を書かせたりなど、工夫して勉強に結び付けていくこと思う。
・主に、生活面のマナーを知らないこどもが多くいる。
→張り紙を使って、あいさつやご飯を食べる時のルールを確認することを実施中。
・話しかけると反応はするが、まだ、うまくコミュニケーションの取り方が分からない。
→最近、この子が好きなゲームを知ることができたので話が少し続くようになった。
・自分から話してくれる子と話してくれない子との差を埋めるのが難しかった。
→どの子にも同じくらい話しかけ、その反応を見てどのように接していけばいいかを考えることが大切だと思った。

・注意されても本気にしてくれない（反省していない）。
→何で注意されているのかの理由を説明して、理解してもらうこと。
・大人の言うことを素直に聞き入れてくれないことが多い。
→きつい口調で注意しないようにする。
・話を聞いていることはわかるが、それを理解していないときにどのように説明すれば理解してくれるか。
→どのように説明するほうが子どもにとって理解しやすいか工夫をする。
・仲が悪い子供を仲直りさせるには。
→時間をかけて少しずつ信頼関係を築いていくことと子供たちがどういったものに関心があって、何がいけないのか教える必要がある。
・本人は遊びのつもりだが叩くなどの行為によって、コミュニケーションを取る時がある子。
→叩いたら痛いということをしっかり伝える。
・職員の話を聞かず、反抗的な子がいた。
→「こんにちは」や「おかえり」などのあいさつを必ずして、子どもの方から話しかけてくれたときには時間をかけて色んなことを話す。大人はちゃんと子どものことをみていると知ってもらう。
・すごく静かな子で信頼関係を築くのに時間が必要だった。
→塾に行く時間をおおくすること。
・長い間アタマジラミがいる。
→かゆくない？と聞いて、状況を聞いたりしている。
・ずっとひとりで本を読んでいて、声をかけても、一緒に遊ぶことはなかった。
→その子が話しているときはしっかりと耳を傾けて、少しずつ心を開いていけるような関係づくりに努めること。
・食事の好き嫌いが激しくて、嫌いなものが出たときは全く食べない。
→少しでも食べてくれたときには嬉しいという気持ちを伝える。

【後輩や知人の学生への活動呼びかけについて】

問１１学生サポートボランティアの活動を後輩や知人の学生に勧めたいですか。

問１１－１　問１１の回答を選んだ理由を教えてください。

「①はい」を選んだ理由

・子どもたちとの関わりから、学ぶことが多いため。（３人）
・色んな背景を持つ子ども達と関われる貴重な場だから。
・自分自身が居場所の活動があることを知らなかったし、ボランティアに行く度に子ども達の成長も楽しみになっている自分がいたから。
・ボランティアだけど謝金もでるし、社会貢献になるし、もっと広く考えられるべき社会問題に関わることができるから。
・学生サポートボランティアの活動を通して、自身と向き合うことが出来るためこれから就職を考える学生には有意義な活動になるのではないかと考える。
・最初はあまり興味がなくても、色々なことを学ぶことで、興味を持つことができると思うから。

・子どもと関われる良い機会だから。
・自分自身の住んでいる地域、隣接する地域での現状や取り組みを知るきっかけになる。知ることによって横のつながりができる。そしてより住みやすい地域、課題解決への糸口になる。福祉を学んでいる学生は、学校での理論と現場での実践が体験できる。教職を学んでいる学生は、放課後の子どもの様子、学校での課題、家庭での課題を知ることができる。
・ボランティアで、幅広い年齢の人と関われるから。
・自分自身にとってとても良い経験になるから。
・大学生活が忙しく活動との両立が大変なため。学年の時期によって勧めたい。
・とても楽しく、また自分のためにも他の人のためになるので。
・私は、子どもたちと一緒になって勉強することで、自分自身の考えをなおすきっかけになり自分自身の勉強にもつながるから。
・普段の学校生活とかだけでは経験できないことができると思うから。
・興味がある人がいるため。
・将来役立つことだと思うから ボランティアから学べることはたくさんあると思うから。
・子どもと関わる機会は大学生になるとほとんどない、子どもたちとのかかわりの中で自分自身の課題にも気づける。
・いい経験になると思ったから。
・大学に通っている人など、様々な体験をしている人で、子どもに関心がある人にはこのような居場所の役割を認識、理解をしていてほしいと思うから。
・ボランティアは人がいればいるほど活動の幅が広がるため。
・週１の 3 時間だけでいいし、気楽にボランティア活動ができるから。
・ボランティアを始めるきっかけになるし、子どもたちとのふれあいを通して、得るものが多いから。
・自分の視野が広がると考えるから。
・様々な経験が出来ていると思うから。
・現場に入ってみないとわからないことが多いため。
・学べる環境とそれに対する謝礼がもらえるから。
・楽しいから。
・ボランティア活動を通して自分も成長できたと思うから。
・子ども達と関わるのはとても楽しいし、勉強にもなるから。
・身近にある知らない世界を知れる。今後の将来に関わってくることだから。
・長期のボランティアは子どもたちの抱える問題は何かと考えながらできるから。また報酬があると、学費も心配せずに長期のボランティアをすることができるから。
・学びの多いボランティア活動をして、かつ報酬があるから。
・子どもの貧困のことをもっと他の人にも知ってもらいたいから。
・普段関わることのできない小学生とか関わることができるから。

・子どもたちの現状を知ることができるから。

「②いいえ」を選んだ理由

・ボランティアは自発的に行うものだと考えているから。

「③わからない」を選んだ理由

・アルバイト等で忙しそうに見えるから。
・本人がしたいかしたくないかだと思うから。
・子どもの居場所支援に疑問を持ち始めた。
・ボランティアなので、活動のイニシアチブは本人にあると思うから。
・まだ始めて間もないから。

【ボランティア活動の継続の希望について】

問１２　　来年度も継続してボランティア活動を行いたいですか。

問１２－１　問１２で①を選んだ方にお聞きします。今後、居場所での活動にさらに貢献するためにすべきことは何か、これまでの活動を踏まえ、あなたの考えを教えてください。

・ボランティアという立場だからといって遠慮せず、毎回目標を持って活動する。
・活動範囲を広げることと活動時間を増やすことは検討する。
・やっていいこと、ダメなことを教える、時には叱ること。子どもたちと遊ぶだけではなく、お互いに話し合って気持ちや言いたいことを聞くこと。
・不定期でもいいからできる限り顔を出す（就職活動に入るため）。
・子どもとの関わりかたのさらなる向上。
・自分から積極的に子どもと関わり、その子のペースを尊重した関わりを考えながら接する。
・ただ子どもとかかわるのではなくて、自分の行動の意味や役割を考えながらかかわる。
・子供たちにとって頼りやすいようなお兄さん・お姉さんになれるよう努力する。
・いろんなこと、いろんな遊びを通して、長く付き合っていく。
・本島で定期的に入れる支援場所を見つけたい。
・もっと、アイデアだしを行い、よりよい居場所作りを責任者とともに作りたい。例えば、クリスマスイベントを企画して、大好評だったため来年も企画中。
・積極的にかかわりを持つ。
・長く同じ場所でのボランティアを続けることでその子の成長が見られると思う。また将来に繋げられるようなボランティアにしたい。
・子どもたちが抱えている課題を発見するためにも勉強会などへの積極的な参加。
・学習支援前に教えるところを学習しておく。
・派遣される居場所で、いま以上に子どもたちと関わって、自分にできることはなにか考えていきたい。
・自分の特技をより活かし、様々な活動にさらに協力していきたい。
・積極的に子どもと関わり、子どもとの距離を縮める。

・これまで以上に子どもたちと積極的に交流する。
・派遣される居場所以外にも活動範囲を広げること、注意できるようにする。
・居場所の支援方針を理解し、スタッフと共有すること。
・いろんな居場所の活動を見ながら、自分がかかわっている子供たちに還元できることを考えたい。
・できる限りひとつの場所に集中してその場のお姉さんとして信頼を築いていくこと。
・子どもに積極的にかかわっていく。活動範囲を広げる。
・昨年、ボランティア活動を一定期間しかできなかった。今年も続けるにあたり、まずは長い期間を通して子どもたちと関わる。そして、日々変化する子ども達との関わりから新たな発見をして今後に役立てる。
・子どもと積極的に関わる。子どもや職員とたくさんコミュニケーションをとる。
・時間があるときは積極的に参加する。

問１２－２　問１２で②・③を選んだ方にお聞きします。よろしければ、その理由を教えてください。

・就職活動や卒業研究、実習などで忙しくなる。（１４人）
・大学を卒業する。（７人）
・予定があわないから。
・今、活動していない期間が長く続いているから。
・教員を目指すことをやめたため。

Ⅳ.　学生から寄付者へのメッセージ

問１６　謝金は企業等による寄附金で賄われています。最後に、謝金を提供された企業や個人の方へメッセージをお願いします。

・ ありがとうございました。（４人）
・ 私は、この学生サポートボランティアを通して子どもの貧困問題の深刻さに気付き、この様な子ども達の力になりたいという将来の夢も見つかりました。また、活動の中で、子ども達の素直さや優しさに何度も感動させられ、とても貴重な経験になっています。これからはもっと子ども達にとってどういう存在であるべきかどういう関わり方をするとよいかなどいろんな角度から考えてよりよい活動に繋げていきたいと思います。ありがとうございます。
・ ありがとうございます。生活費にあてています。とっても助かっています。
・ とても助かります。もし何かの縁で就職することになったら宜しくお願いします。
・ 学生であるため、どうしても学費や雑費で出費が多くなってしまいます。そのようななかでボランティア活動を行いながら謝金を頂けるのはとても感謝すべきことだと考えています。
・ 謝金があるお陰でボランティア活動により励むことができます。子どもたちはもちろんのこと、私たちボランティア学生を支えてくださり心から感謝しております。これからも将来を担う子どもたちのために頑張っていきます。
・ 私たち学生ボランティアを支えていただき、ありがとうございます。友人たちとの話の中でも、謝金がなければボランティアをせずにアルバイトを増やしていただろうという話が出ます。謝金のおかげで、一人暮らしの学生や奨学金をもらっている学生など、ボランティアが広がっていると感じます。最初は謝金があるからというきっかけでも、居場所に入れば色々なことを考えると思います。私も、子ども・学生双方の成長のためにボランティアはとても良い経験になると、この一年間の経験を通して強く感じています。
・ ボランティアをしている学生の中には自分も含めて謝金のおかげで活動出来ている人がいると思います。そして、その活動が子ども達への支援になっています。ありがとうございます。
・ 謝金が活動の対価となり、居場所での活動に責任感とやりがいを持つことができています。ありがとうございます。
・ 大学生になって、子どもと関わる機会が減ったのでとてもいい機会となっています。また、教科書も買うことができ、勉強にもいい影響があります。ありがとうございます。
・ 子どもたちをサポートすることで頂いた謝金は生活費にあてており、とても助かっております。おかげさまで約 2 年続けることが出来ました。今後とも支援を続けていただけたら幸いです。
・ ボランティアに参加したことで、たくさんの出会いや学びがありました。本当に有難うございます。

・ 私は貴重な大学生活の間に何かをしたかったのでボランティアを始めました。本当はバイトなどでお金を稼ぎたいとも思いましたが、大学生活をバイトで埋め尽くすということをあまりしたくなかったので、謝金があるボランティアは自分の勉強にもなり、少しでもお金が入ってとても助かっています。
・ 寄附をしていただいてありがとうございます。今派遣されている居場所は、私自身にとっても自分の居場所のように感じています。というのも、スタッフの方が若く、年が近いこともあり、職員の方、子どもたち全員が兄弟のように感じられるからです。また、ボランティア活動を通して、学校で学ぶ理論と現場での実践を結びつけることができ、また会議などにも参加させてもらえているのでより、理論と実践を学ぶことができています。私は寄附金で頂いた謝金は、自分自身の日頃の生活に使うと同時に子ども達に少しでも喜んでもらいたい気持ちと、日頃の感謝からお菓子をプレゼントするために使わせてもらっています。実際、子どもたちが喜んでいる姿は、私自身も嬉しくなり、子どもと一緒に喜んでいます。このボランティア活動を通していく中で、今年始まる就活に向けて、私自身の進路選択の１つになりました。最後に寄附をしていただいて本当にありがとうございます。
・ 謝金を提供された方々の気持ちに応えるよう、残り短い期間ではありますが、活動に真摯に取り組んでいきたいと思います。
・ いつも有難うございます。ボランティアを行う上で、謝金があるのはすごくやりがいに繋がっています。これからも、よりいっそう励んでいきたいと思います。
・ やはり、ボランティアをするという気持ちで取り組んではいますが、謝礼をいただけるのは学生の厳しい経済状態の中でありながらも支援を続けていけることにつながっていると思います。ありがとうございます。そして、センターの存在や支援してくださっている方々がいるということに「子供の貧困」という課題解決に取り組もうとする沖縄の社会の様子が見られ､同じような境遇であった私はとてもうれしいことだなと思います。
・ 子どもの居場所ボランティアへのご寄付、ありがとうございました。私は、謝金を頂くことで学生という忙しい時間の中でもボランティアに参加しようとする気持ちになれました。ボランティアに参加したことで、ご寄付をして下さった方はじめ、社会には子どもを支えていきたいという思いのもと活動されている方がたくさんいることを知り、とても温かい気持ちになりました。また、自分も将来何らかの形で活動したいと思うことができました。来年度からは社会人になりますが、いつか私もボランティアを支える側になれるよう、頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。
・ いつもありがとうございます。活動を通して、子供たちが大学生との交流を通して社会とのつながりを増やすことができる機会にもなると思いますが、活動している我々大学生にとっても視野を広げている中で、地域での活動や現状を見つめる機会となっています。私は今年で卒業しますが、このような活動が継続していくことを願っています。
・ 寄付金を提供してくださり誠にありがとうございます。私自身、これまで離島派遣に３回参加してきました。離島派遣を通して子どもたちの勉強をしている姿は、日々の自身への励みにつながっています。また、子ども達と同じ離島派遣に参加して、再会した時

に子ども達が成長していく姿を見ていくのが楽しみに繋がっています。誠にありがとうございます。

- ボランティアが有償なお陰で、学生は長く居場所で活動を行うことが出来ています。簡単に成果を出せるわけではないですが、長期的に、こどもたちのよりよい放課後の居場所を作ることを目指していきます。
- いつもありがとうございます。これからも活動できればと思います。
- 貴重な経験をさせてくれた上に謝礼金まで出していただき、ありがとうございます。この経験を活かし、将来社会に貢献できる人材となるよう努めます。
- 謝金のおかげでボランティア活動ができ、日々の学習にも力が入っています。ありがとうございます。
- 私たち学生のためにサポートしてくださりありがとうございます。このボランティア活動を通してより多くの体験、経験をしてこれからの活動に生かせていけたらと思っています。また いろいろなことを学ぶことが出来るので 将来へと繋げて頑張っていきたいと思っています。これからもどうぞ 応援よろしくお願いいたします。
- 皆様の謝金のおかげで私は那覇から沖縄市にある子ども食堂にまで通いながらボランティアに参加することができています。私自身、この活動を通して数多くのこと学びました。また、自分の将来についても明確なビジョンが持てるようになりました。ありがとうございます。
- 貴重な経験が出来ております。本当にありがとうございます。今後に生かしていこうと思っております。
- 居場所にいる子供たちは笑顔で活発で、学生にも力と学びを与えてくれています。これらの活動を支えて下さっている皆様のご理解とご協力に感謝致します。
- いい経験をさせてもらった上に謝金を提供していただきありがとうございます。
- 居場所にいきたくても、そこにいくまでの交通費が自分にとっては負担に感じている部分があるので、とても助かっています。謝金に関しても、自分の生活の一部として活用させてもらっております。本当にありがとうございます。
- このように謝金がボランティアに払われることはまずないです。本当にありがとうございます。
- お金をもらっているからには、その額に見合った活動をし、少しでも子どものためになるような活動にしたいと思っています。ありがとうございます。これからも宜しくお願いします。
- 私たち学生の活動のためにご協力していただき、本当にありがとうございます。これからもそれに見合った活動ができるように、日々の活動を頑張りますのでよろしくお願いします。
- 謝金があることで、モチベーションの維持にもつながっています。ありがとうございます。
- 謝礼をもらいながら活動をすることで、自分の生活のことを考えずに活動に集中できるので助かっています。この経験のおかげで、普段の生活にも生かすことが出来ています。

ありがとうございます。

- いつも、お世話になっております。子供たちの現状を知るきっかけやモチベーションの向上、生活費など大変、助かっております。今後とも引きつづき支援のほうよろしくお願いいたします。
- 居場所づくりに寄付金をしていただいた方たちに感謝します。これからも未来の沖縄の子どもたちのためにこのような寄付金をしていただけるよう願っています。
- 私たちの活動を支援していただきありがとうございます。
- ボランティア先では、楽しく活動ができています。また謝金があることで長期でのボランティア活動を続けられており、本当に感謝しております。これからも頑張ります。
- 子どもの居場所での活動では、「子どもの貧困」の現状を知ることができたり、子どもたちと楽しく関わることで自分にとてもプラスになることばかりでした。頂いた謝金はボランティアをする上でのモチベーションに繋がったり、１人暮らしであるため、生活費として活用することができとても助かりました。ありがとうございます。私は今年で大学を卒業するので活動はできませんが、これから後輩たちが、子どもの居場所で活動し、将来に活かしていって欲しいなと思います。
- 居場所を提供してくださる企業の皆さま。コンソーシアムスタッフの皆さま。私たち学生を地域問題に参加しやすい取り組みをつくってくださり本当にありがとうございます。こどもたちが安全に過ごせるように取り組んでいく中で自分の夢を見つけることもできました。トレーニングコースの開設検討もすごくうれしいです。これからも子どもたちの可能性を伸ばしていけるよう活動していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- 長期のボランティアは短期ボランティアとは違い、子どもと長い期間で関わることができるので、子どもが抱える問題やニーズを見極めていくことができるというメリットを私は感じています。しかし、私は学生であり、学費やその他の費用の心配もあるので、報酬がなかったら、おそらく長期のボランティアを続けることは簡単ではないと思います。報酬がある長期のボランティアというのは、学べる且つ報酬を得ることができるということからも勉学、生活共に実のあるものへ繋げていけると思っています。毎回のご協力ありがとうございます。
- 謝金を提供してくださった企業・個人の皆様ありがとうございます。私自身、お金に余裕がある家庭の出身ではないため、完全なボランティアだった場合はこの活動に参加することは難しかったと思います。皆様のご厚意のおかげで、この活動に参加することができ、様々な経験をすることができます。本当にありがとうございます。
- 私たち学生はボランティア活動をする場があることで、より多くのことを学ぶことができています。このような場を設けて下さったこと、感謝申し上げます。
- 寄附金のおかげでいつも充実した活動をすることができ、夏には離島派遣にも行くことができました。ありがとうございます。
- 寄附金を提供してくれてありがとうございます。謝金があることで活動を続けることが出来、子ども達と関わることができています。これからもよろしくお願い致します。

・ 寄附金をして下さり、ありがとうございます。大学の学費の支払いを行っているのが私自身なので離島派遣などに行きたいと思った時にサポートがあると多くの子どもたちと関わることができるので自分の学びにもつながっています。これからもよろしくお願いします。

V. 添付資料（アンケート質問紙）

【子どもの居場所】アンケート

作成：子どもの居場所学生ボランティアセンター

子どもの居場所の皆様には、ボランティア活動を行う学生を受け入れていただくともに、日々、学生派遣後に簡潔に活動報告をしていただいております。この度、居場所の皆様から学生ボランティアの派遣を受けてどのような感想、具体的な意見等をお持ちか、アンケートをさせていただければと思います。

本アンケートで回答いただいた内容等につきましては、回答情報を取りまとめた上で、沖縄県に対する事業の結果報告等に使用するほか、今後の事業内容の向上に活用させていただきます。

つきましては、以下の項目について、ご意見・ご感想などをお聞かせください。

居場所名	
記入者役職・氏名	
連絡先	

【居場所について】

問１　現在、貴居場所で、子どもに対する支援で行われているものを教えてください。（いくつでも）

① 食事支援　② 生活指導　③ 学習支援　④ キャリア形成　⑤ その他

問２　貴居場所で、学生ボランティアが担う役割を教えてください。（いくつでも）

① 食事支援　② 生活指導　③ 学習支援　④ キャリア形成　⑤ その他

【ボランティアの受け入れについて】

問３　学生が子どもの居場所の活動に参加したことで子どもに良い変化はありましたか。

① はい　② いいえ　③ わからない

問３－１　問３で①を選んだ方にお聞きします。どのような変化がありましたか。

例：子どもが将来の夢や希望を持つようになった、子どもの学習意欲がわいた　など

（　　）

問３－２　問３で②・③を選んだ方にお聞きします。選んだ理由を教えて下さい。

例：学生だけの活動によって子どもに変化が見られたどうかはわからない　など

（　　）

問４　子どもの居場所でのボランティア活動を通じて学生に良い変化はありましたか。

①　はい　②　いいえ　③　わからない

問４－１　問４で①を選んだ方にお聞きします。どのような変化がありましたか。

例：子どもとの接し方が上手くなった、積極的に居場所の活動を手伝ってくれた　など

（　　）

問４－２　問４で②・③を選んだ方にお聞きします。選んだ理由を教えて下さい。

例：活動を始めて間もないため変化が見られなかった　など

（　　）

問５　子どもの居場所学生ボランティアセンターから紹介された学生の活動に満足していますか。

①　はい　②　いいえ　③　わからない

問５－１　問５で①を選んだ方にお聞きします。理由を教えて下さい。

例：居場所の運営補助を積極的に行ってくれた、子どもの学習指導を行ってくれた

居場所の雰囲気が明るくなるように盛り上げてくれた

（　　）

問５－２　問５で②・③を選んだ方にお聞きします。理由を教えて下さい。

居場所スタッフの指示を待っているばかりだった　など

（　　）

問６　来年度も継続して学生を受け入れたいと思いますか。

①　はい　　②　いいえ　　③　検討中

問６－１　問６で①を選択された方にお聞きします。今後の受け入れの見込み（週当たりの受け入れ学生数・派遣回数）を教えて下さい。

（　　）

問６－２（問６－１の続き）　学生の活動に期待することを教えて下さい。

※回答する際には、問５－１の例を参考にしてください。

（　　）

問６－３　問６で②・③を選択された方にお聞きします。理由を教えてください。

例：学生の活動に満足できなかった　など

（　　）

【ボランティアセンターの要望に関わる質問】

問７　子どもの居場所学生ボランティアセンターによる学生派遣に係る事前の手続きについて改善等の要望はありますか。自由に記載下さい。

例：学生派遣に係る事前手続きをより簡潔なものにしてほしい

居場所の希望する学生が派遣されるようにマッチングしてほしい　など

（　　）

問８　学生派遣後に行う報告について改善等の要望はありますか。自由に記載下さい。

例：学生派遣後に毎回行っている報告の回数を減らしてほしい　など

（　　）

問９　学生が居場所に派遣される前に、事前研修等を通じて、学生が習得すべきスキルや学生として承知しておくべき事項があれば教えてください。

（　　）

問１０　その他子どもの居場所ボランティアセンターへの要望があれば自由に記載下さい。

（　　）

【学生サポートボランティア】アンケート

作成：子どもの居場所学生ボランティアセンター

学生の皆様には、日々、子どもの居場所でボランティア活動をした後に簡潔に活動報告をしてもらっておりますが、この度、ボランティアセンターでは、子どもの居場所の活動に係るアンケートを実施することとしました。学生の皆様には、子どもの居場所での自身の活動を振り返る機会としていただければと思います。また、ボランティアセンターでは、アンケート結果を沖縄県に対する事業報告等に使用したり、今後の事業内容の向上に活用することも予定しています。

つきましては、以下の項目について、ボランティア活動に参加してどのような感想、意見等をお持ちになったかお聞かせください。

【あなたについて】

問１　あなたの性別を教えてください。

① 男　② 女　③ 答えたくない

問２　あなたの学年、学部、学科を教えてください。

① １年次　２年次　３年次　４年次　修士課程　博士課程

②（　　）学部

③（　　）学科

【あなた自身のボランティア活動について】

問３　子どもの居場所での活動をいつから始めましたか。

例：平成２８年６月から

（　　）

問４　子どもの居場所のボランティア活動に参加したきっかけを教えてください。

例：事前研修会の受講、別のボランティア活動に従事していて興味があったから　など

（　　）

問５　子どもの居場所での活動をどのくらいの頻度で行っていますか。以下の中から一番近いものを選んでください。

① ほとんど毎日　② 週２～３回　③ 週１回　④ 月１～２回　⑤月１回未満

問６　子どもの居場所での活動を教えて下さい（いくつでも）。

①　食事支援　②　生活指導　③　学習支援　④　キャリア形成　⑤　その他

問７　ボランティア活動を通じて、学んだことや得たものを教えてください。
例：子どもとの関わり方が上手くなった、授業を一生懸命受けるなど学習意欲が増した、
社会問題への関心を持つようになった、将来の進路を考えるようになった　など
（　　）

問８　子どもとの関わりの中で良い変化が見られた子どもはいましたか。
① いた　②いない　③　わからない
問８－１　①を選んだ方にお聞きします。どのような変化が見られましたか。
例：将来の夢や希望を持つようになった、学習意欲がわいた　など
（　　）
問８－２（問８－１の続き）　自身のどんな活動がその変化をもたらしたと思いますか。
例：粘り強く子どもに勉強の楽しさを伝えた　など
（　　）

問９　子どもとの関わりの中で課題が見られた子どもはいましたか。
① いた　②いない　③　わからない
問９－１　①を選んだ方にお聞きします。どのような課題が見られましたか。
例：子どもに話かけても関わってくれなかった　など
（　　）
問９－２（問９－１の続き）　課題解決に向けて自分がすべきことは何だと思いますか。
例：むやみに話しかけず、時間をかけて少しずつ信頼関係を築いていくこと　など
（　　）

問１０　謝金として報酬をもらうことについて、あなたがどう考えてますか。以下の中から一番近いものを選んでください。
① 学費・食費等に充てるなど、謝金が生活費の助けとなっている。
② 活動の対価として謝金をもらうことが活動を続けるモチベーションとなっている。
③ 自発的に活動をしていることから、謝金の有無は活動をする上で影響はない。
④ その他（　　）

問１１　学生サポートボランティアの活動を後輩や知人の学生に勧めたいですか。
① はい　②　いいえ　③　わからない
問１１－１　問１１の回答を選んだ理由を教えてください。

（　　）

問１２　来年度も継続してボランティア活動を行いたいですか。

① はい　②　いいえ　③　わからない

問１２－１　問１２で①を選んだ方にお聞きします。今後、居場所での活動にさらに貢献するためにすべきことは何か、これまでの活動も踏まえ、あなたの考えを教えて下さい。

例：課題が見られる子どもに対して、臆することなく積極的に関わる
派遣される居場所以外にも活動範囲を広げる　など

（　　）

問１２－２　問１２で②・③を選んだ方にお聞きします。よろしければ、その理由を教えてください。

例：就職活動で忙しくなる、大学を卒業する　など

（　　）

【子どもの居場所への要望について】

問１３　今後、継続的にボランティア活動を行っていく上で子どもの居場所に要望することはありますか。

① ある　②　ない　③　わからない

問１３－１　問１３で①を選んだ方にお聞きします。要望を教えて下さい。

例：活動中に学生が困ったときのサポート　など

（　　）

【ボランティアセンターへの要望について】

問１４　今後、継続的にボランティア活動を行っていく上で、センターに要望することはありますか。

① ある　②　ない　③　わからない

問１４－１　問１４で①を選択された方にお聞きします。要望を教えてください。

例：派遣先の子どもの居場所を増やす
ボランティア活動の専門性を高める研修の実施回数を増やす
メンター等の相談回数を増やす　など

（　　）

問１５　ボランティアセンターでは、ボランティア技能を認定するためのトレーニングコース（※）の開設について検討しています。開設された場合、参加したいと思いますか。

※居場所にいる子ども達と交流する際に必要なコミュニケーションスキルに関するトレーニングを想定。

① はい　②　いいえ　③　わからない

問１５－１　問１５で①を選択された方にお聞きします。トレーニングを通じてどのようなスキルを身に付けたいですか。

例：子ども達が話を聞いてくれなくなった時の対応の仕方　など

（　　）

問１６　謝金は企業等による寄附金で賄われています。
　　最後に、謝金を提供された企業や個人の方へメッセージをお願いします。
（　　）

資料2-2

沖縄県委託事業

知的・産業クラスター
支援ネットワーク強化事業

琉球大学　（一社）大学コンソーシアム沖縄

平成29年度事業報告書



平成29年度知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業

事業報告書目次

第1章 事業概要 1

1 -1 本事業の目的..... 1

1-2 事業概要 1

1-3 事業内容及び実施方法 2

第２章 [取組１] 地域課題ソリューションワーキンググループ立ち上げ支援.....４

２-１ 地域(市町村)・企業等へのヒアリング調査 4

・ヒアリング調査の実施方法/41市町村ヒアリング調査シート/見えてきた地域課題

２-２地域課題解決のための研究者の調査 15

・ 調査の実施方法/大学シーズ調査シート

２-３ 地域課題ソリューションワーキンググループの開催 15

・ワーキンググループの実施概要

２-４国内外の先進的取り組みに関する研修会等の実施 26

・研修実施概要/成果(アンケートより)

第３章 [取組２] 大学と地域・産業との結び付きを強化するための取り組み 36

３-１ 若手コーディネーターの配置と育成.....36

・コーディネーターの配置方法/育成方法(研修概要)/成果(アンケートより)

３-２大学・企業交流会の開催.....38

・交流会参加概要/成果

３-３ 実践的インターン送出 39

・実践型インターン研修内容(シラバス)/成果物（学生の提案内容）/講義の成果

第４章 その他の取り組み 58

４-１ 高等教育機関への活動報告.....58

４-２ 必要に応じた県内高等教育機関との連絡調整 58

第５章 総括 60

５-１ 本事業における成果.....60

５-２ 本事業における課題と展望 61

第1章 事業概要

1-1 本事業の目的

本委託業務は、知的・産業クラスターの発展に向け、地域課題を解決するワーキンググループを立ち上げ、地域連携コーディネーターによる県内大学研究者等と地域の連携(産学連携)を促進することを目的とする。

1-2 事業概要

沖縄県では知的・産業クラスターの形成に向けて各種事業に取り組んでおり、地域における様々な課題に対して産学官民連携による課題解決（ソリューション）が求められている。沖縄県が策定した「沖縄21世紀ビジョン」には、産業間連携の強化や科学技術と産業界を仲介するコーディネート機能及びコーディネーターの配置が必要とされている。

本事業では、大学コンソーシアム沖縄と琉球大学が連携したコーディネート機能強化に取り組み、地域連携コーディネーターを中心に、県内大学が有する「知」を活用した地域課題解決に向けて、県内大学研究者等と地域(市町村・企業等)の連携による地域課題解決を検討するワーキンググループを立ち上げ、県内大学研究者等と地域の産学官民連携を促進することで、大学発イノベーションの活性化を図るとともに、地域振興への貢献を目指す。また、事業の実施にあたっては、複数の大学間・異分野研究者間の連携を促進し、複雑な地域課題に対する総合的な解決に向けた取り組みを実施する。

さらに、大学と地域・産業との結びつきを強化する取り組みとして、「若手コーディネーターの育成」や「大学企業交流会の開催」、「実践的インターン送出」など、産学連携を強化する取り組みを検討・実施し、地域・産業連携の促進を図る。

なお、本事業では、地域課題解決に向けたプロジェクトを統括する地域連携コーディネーターを1名配置するとともに、同プロジェクトをサポートする若手地域連携コーディネーターを年間3名程度育成し、大学等高等教育機関及び公的支援機関、地域(市町村)、産業界とのネットワーク構築に取り組む。

最終的な目標として、知的・産業クラスターの形成に向けて、地域課題解決のプロセスを明確化し、地域のイノベーションを創出する地域課題解決エコシステムの構築を目指す。

1-3 事業内容及び実施方法

本事業では、知的・産業クラスターの発展に向け、地域課題を解決するワーキンググループを立ち上げ、地域連携コーディネーターによる県内大学研究者等と地域の産学官民連携を促進するため、以下の項目を実施した。

（１）地域課題ソリューションワーキンググループ立ち上げ支援

① 地域（市町村）・企業等へのヒアリング

② 地域課題解決のための研究者の調査

③ 地域と研究者のマッチング（地域課題ソリューションワーキンググループ開催）

④ 国内外の先進的取組に関する研修会等実施

（２）大学と地域・産業との結びつきを強化するための取り組み

① 若手コーディネーターの育成

② 大学企業交流会の開催

③ 実践的インターン送出

（３）地域連携コーディネーターの配置

（４）県内高等教育機関との連絡調整

① 県内高等教育機関への活動報告

② 必要に応じた県内高等教育機関との連絡調整の実施

【事業内容イメージ】



【年間スケジュール】

		平成29年							平成30年		
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1．地域課題ソリューショングループ立ち上げ支援	①地域(市町村)・企業等へのヒアリングによる課題調査 ②研究者の調査 ③ワーキンググループ開催 ④先進的取組に関する研修会等		地域・企業等へのヒアリング調査		研究者へのヒアリング調査	●WG（関係者調整の上、随時開催）			先進事例調査・研修会等への参加		
2．大学と地域・産業との結びつきを強化するための取組	①若手コーディネーターの育成 ②大学企業交流会 ③実践的インターン送出			若手コーディネーターの育成				★ベンチャーマーケット			
				関係機関調整			インターンシップ実施				
3．地域連携コーディネーターの配置			統括コーディネーター、若手コーディネーターの配置								
4．県内高等教育機関との連携調整	①県内高等教育機関への活動報告 ②必要に応じた連絡調整			◎地域イノベ協議		◎円卓会議			◎フォーラム		◎フォーラム
			定期的に連絡調整								

第2章 [取組１]地域課題ソリューションワーキンググループ立ち上げ支援

2-1 地域（市町村）・企業等へのヒアリング調査

- これまで琉球大学ではCOC事業及びCOC+にて一部市町村のヒアリングを行い、研究推進機構では企業ニーズアンケートも実施している。本事業でのヒアリングを実施するにあたって、過去に実施していない市町村の総合計画及び「まち・ひと・しごと創生創業戦略」、企業等のニーズを調査した。
- 沖縄本島だけでなく、コーディネーターで担当地域を分担し、島しょ地域についてもヒアリング(現地・電話・Webヒアリングを含む)を実施した。

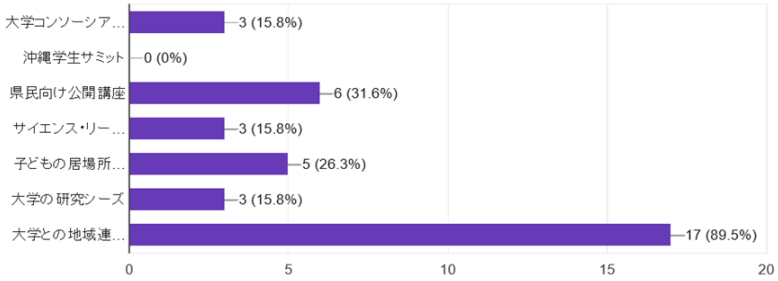
【地域（市町村）ヒアリング】

- 地域（市町村）ヒアリングについては、41市町村の主に市町村の総合計画や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を担当する部署の担当者に行った。
- アンケートによる調査結果は以下。また、41市町村個別のヒアリングシートは、巻末掲載。

[質問１] 大学コンソーシアム沖縄は、大学等の沖縄県内の高等教育機関が連携して事業を実施しています。以下のどの事業に興味がありますか。

○大学コンソーシアム沖縄シンポジウム　○沖縄学生サミット　○県民向け公開講座
○サイエンス・リーダー育成講座（子ども科学人材育成事業）　○子どもの居場所学生ボランティアセンター
○大学の研究シーズ　○大学と地域連携、産学連携　○その他

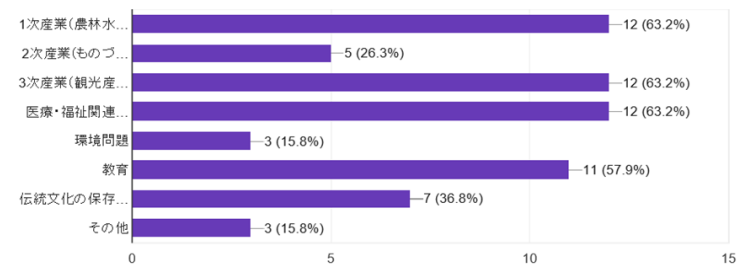
19 件の回答



[質問２] 大学コンソーシアム沖縄と琉球大学では、地域および企業ニーズとマッチングを行い、地域連携や産学連携に取り組んでいます。皆様の関心の高いニーズをお聞かせください。

○1次産業（農林水産業）　○2次産業（ものづくり産業）　○3次産業（観光産業、物流、サービス等）
○医療・福祉関連産業（地域医療、高齢化、子どもの貧困等）　○環境問題　○教育　○伝統文化の保存・継承　○その他

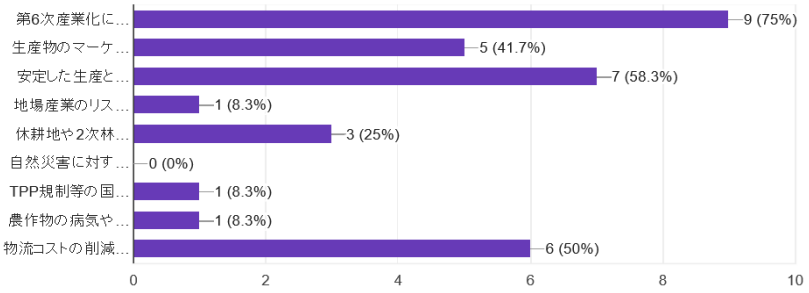
19 件の回答



[質問３]「1次産業（農林水産業）」と答えた方は、以下の中から特に関心がある項目を最大３つ選択してください。

○第6次産業に向けた取り組みの企画・開発　○生産物のマーケット分析とブランド化　○安定した生産と生産性の向上
○地場産業のリスク管理（経営）分析・研究　○休耕地や2次林業等の利活用　○自然災害に対する○弱性の分析と対策
○TPP規制等の国際動向分析と対策　○農作物の病気や害虫対策　○物流コストの削減と販路開拓　○その他

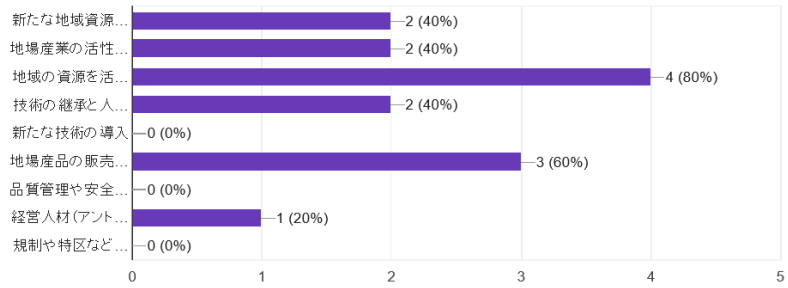
12 件の回答



[質問４]「第2次産業（ものづくり産業）」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を最大3つ選択してください。

○新たな地域資源の探索と検討　○地場産業の活性化に関する調査・研究　○地域の資源を活かした製品の企画・開発
○技術の継承と人材育成プログラムの開発　○新たな技術の導入　○地場産品の販売や流通に関する調査・研究
○品質管理や安全性の向上　○経営人材（アントレプレナー）の育成と分析　○規制や特区などの政策分析　○その他

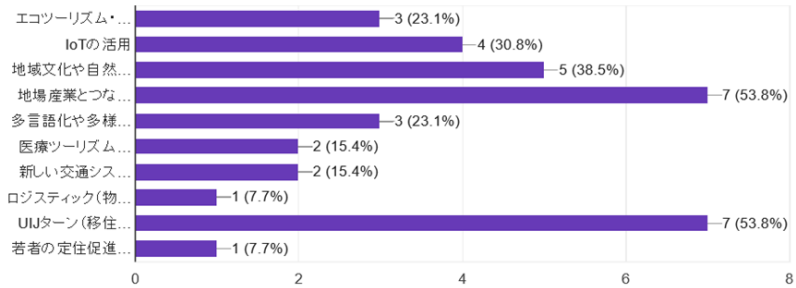
5 件の回答



[質問５]「3次産業（観光産業、物流、サービス等）」と答えた方は、以下の中から特に関心のある項目を最大3つ選択してください。

○エコツーリズム・ブルーツーリズムプログラムの開発　○IoTの活用　○地域文化や自然環境と調和した循環型観光産業の分析
○地場産業と繋がる観光の分析・開発　○多言語化や多様な文化ニーズへの対応可能な観光プログラム
○医療ツーリズムの開発と地場産業の連携　○新しい交通システムの開発（ランドシェアや相乗りタクシー等）等）
○ロジスティック（物流）分析・研究　○UIJターン（移住者）の定着・就職・雇用創出支援　○その他

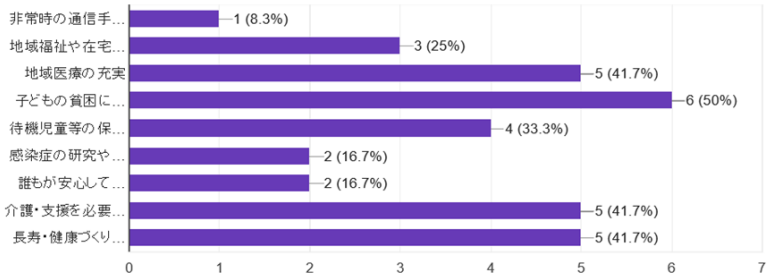
13 件の回答



[質問６]「医療・福祉関連産業（地域医療、高齢化、子どもの貧困等）」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を３つ選択してください。

○非常時の通信手段や安全の確保　○地域福祉や住宅福祉の充実　○地域医療の充実
○子どもの貧困に関する分析と対策　○待機児童等の保育に関する実態分析と対策　○感染症の研究や予防に関する保険活動
○誰もが安心して暮らすことができる都市計画と住宅環境の整備
○介護・支援を必要とする高齢者や障がい者へのサービスや自立支援の分析・開発　○長寿・健康づくりのための研究と普及
○その他

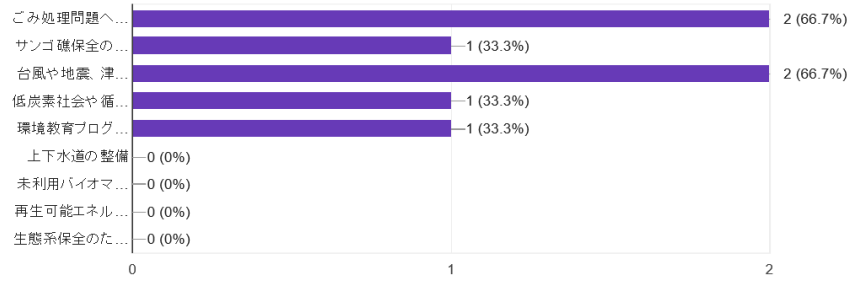
12 件の回答



[質問７]「環境問題」と答えた方は、以下の中から特に関心がある項目を最大３つ選択してください。

○ごみ処理問題への対策　○サンゴ礁保全のための研究と保全活動　○台風や地震、津波等の防災機能の強化
○台風や地震、津波等の防災機能の強化と環境保全　○低炭素社会や循環型社会実現のための技術開発
○環境教育プログラムの研究・開発　○上下水道の整備　○未利用バイオマス（サトウキビの搾りかす等）の利用
○再生可能エネルギーの開発　○生態系保全のための外来種駆除等の研究・活動　○その他

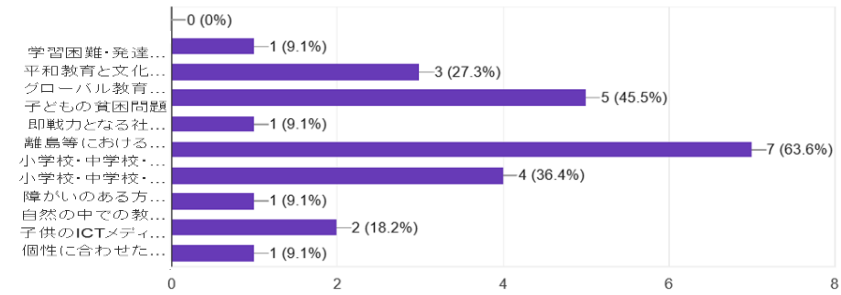
3 件の回答



[質問８]「教育」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を最大3つ選択してください。

○学習困難・発達障害等に対応したプログラムの開発と普及　○平和教育と文化活動　○グローバル教育プログラムの開発
○子どもの貧困問題　○即戦力となる社会人育成のための教育プログラムの開発　○離島等における教育機会の均等
○小学校・中学校・高等学校における基礎学力向上のための分析と教育プログラムの開発
○小学校・中学校・高等学校における「教師の教育力」向上のための研修プログラムやシステム開発
○障害のある方への自立支援プログラムと就労先確保（産業界との連携等）　○その他

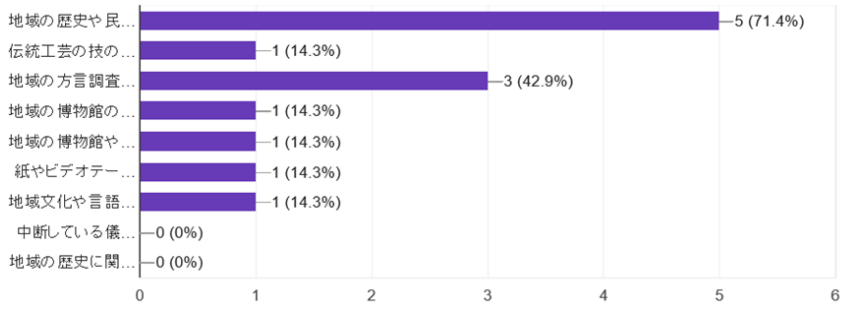
11 件の回答



[質問９] 「伝統文化の保存・継承」と答えた方は、以下の中から特に関心のある項目を最大3つ選択してください。

○地域の歴史や民族文化、芸能などの記録・調査　○伝統芸能の技の継承　○地域の方言調査と継承のためのプログラム開発
○地域の博物館の在り方の検討　○地域の博物館や資料館の所蔵資料の整理・データベースの構築
○紙やビデオテープなどの資料のデジタル化　○地域文化や言語に関するワークショップ等の教育プログラムの開発
○中断している儀礼の記録・継承　○地域の歴史に関する聞き取り調査・研究　○その他

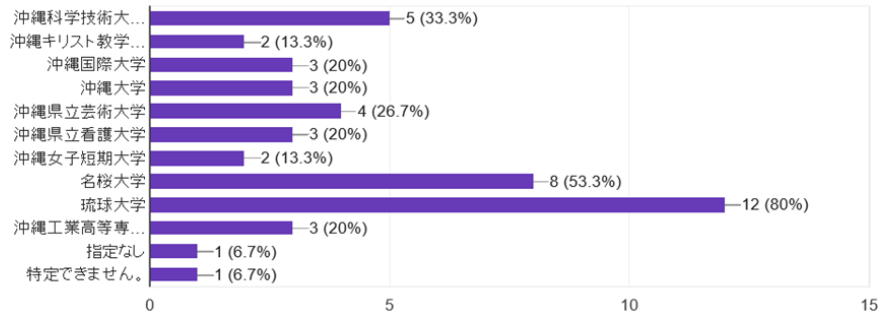
7 件の回答



[質問１０] 大学コンソーシアム沖縄の加盟中で連携をしたい高等教育機関について教えてください。

○沖縄科学技術大学院大学　○沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学　○沖縄国際大学
○沖縄大学　○沖縄県立芸術大学　○沖縄県立看護大学　○沖縄女子短期大学　○名桜大学　○琉球大学
○沖縄工業高等専門学校　○その他

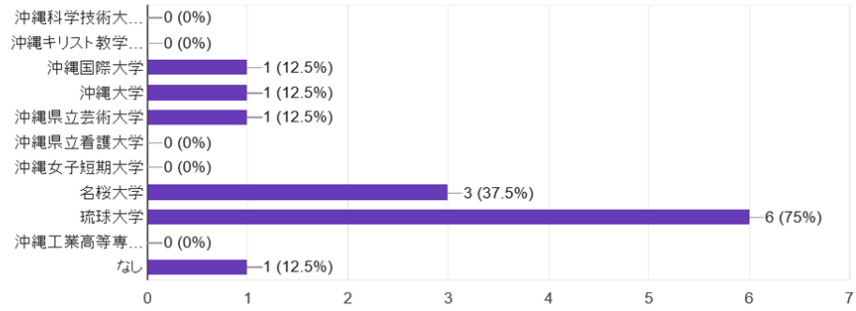
15 件の回答



[質問１１] 過去に、大学コンソーシアム沖縄の加盟校の中で連携をした高等教育機関について教えてください。

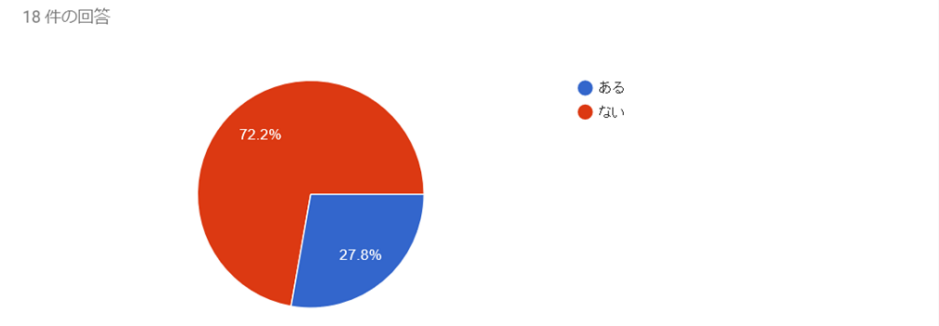
○沖縄科学技術大学院大学　○沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学　○沖縄国際大学
○沖縄大学　○沖縄県立芸術大学　○沖縄県立看護大学　○沖縄女子短期大学　○名桜大学　○琉球大学
○沖縄工業高等専門学校　○その他

8 件の回答



[質問１２]地域事業者間連携を促進するために実施している事業などがあるかを教えてください。

18 件の回答



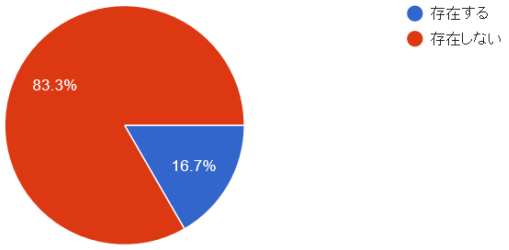
[質問１３]「ある」と回答した場合、どのような連携をしているか教えてください。

5 件の回答

テリハボク高度活用プロジェクト事業
環境（サンゴ）、観光等
人材育成センターにおける後継者育成等
町の特産品を通した地域振興を図るため、特産品の開発や琉球絣等を活用し、異業種間の連携を促進しつつ、本町の特産品の良さを引き出すための調査・研究及び、本町特産品のブランド化を図るための組織づくりを行い、ブランド認証スキームを確立するとともに、南風原ブランドの新商品の開発、販路開拓を行っている
様々な主体のつなぎ手となるコーディネーターを育成するため、「ぎのわん地域づくり塾」を開催している。

[質問１４] 地域連携および産学連携等を促進するためのコーディネーターが存在するか教えてください。

18 件の回答



[質問１６] コーディネーターを配置・育成する上で留意している点などありましたら教えてください。

3 件の回答

地域に寄り添う姿勢を身に付けること。内の目線、外の目線を持ち合わせること
指導員を嘱託にて配置
コーディネーターの育成の際には、コーディネーターは事業活動の主体ではなく、地域の人たちが自分の力で頑張ろうとする場面を作っていくという、コーディネーターとしての役割や考え方を大切にしている。

[質問１７] [自由記述]大学コンソーシアム沖縄に期待すること、ご意見、ご要望をご記入ください。

6 件の回答

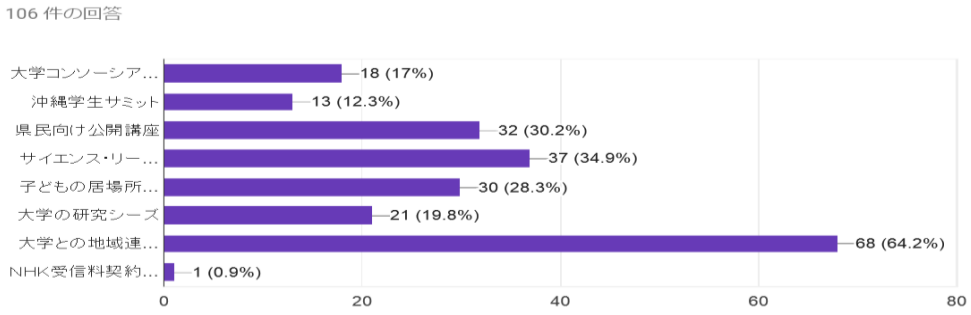
地域振興に繋げていく企画・人材・継続性
本町では今後、協働のまちづくりに向けて、住民の行政への参加がテーマとなると考えており、どのように意識の高揚を図るか等、課題がございます。このようなテーマで活動される機会がございましたら、ぜひ、お声かけをお願いします。
現在、琉球大学との連携事業は実施しているものの、他大学とは未実施のため、今後は大学コンソーシアムを活用して連携していきたい。
各課に確認すれば、どの分野も関心があると思います。
子供たちの考え方や視野を広げて頂ければ幸いです。
COC＋の協定をきっかけに大学との連携がしやすくなった。今後もますます連携を進めていきたい

【企業へのヒアリング】

- 企業等ヒアリングについては、ヒアリングシートを作成し、個別訪問およびベンチャーマーケットへの出展時にヒアリングを行い、106件のニーズ結果を集約した。調査結果は以下。

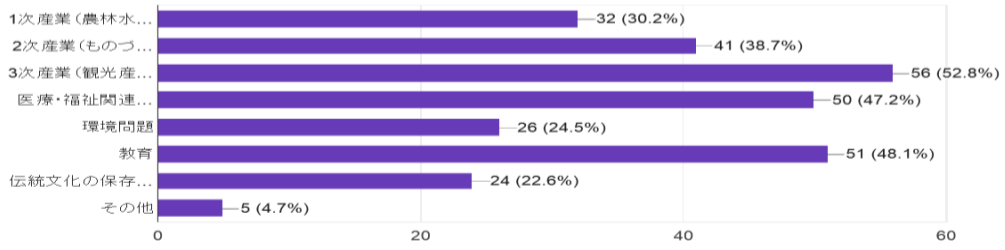
[質問１] 大学コンソーシアム沖縄は、大学等の沖縄県内の高等教育機関が連携して事業を実施しています。以下のどの事業に興味がありますか。

○大学コンソーシアム沖縄シンポジウム　○沖縄学生サミット　○県民向け公開講座
○サイエンス・リーダー育成講座（子ども科学人材育成事業）　○子どもの居場所学生ボランティアセンター
○大学の研究シーズ　○大学と地域連携、産学連携　○その他



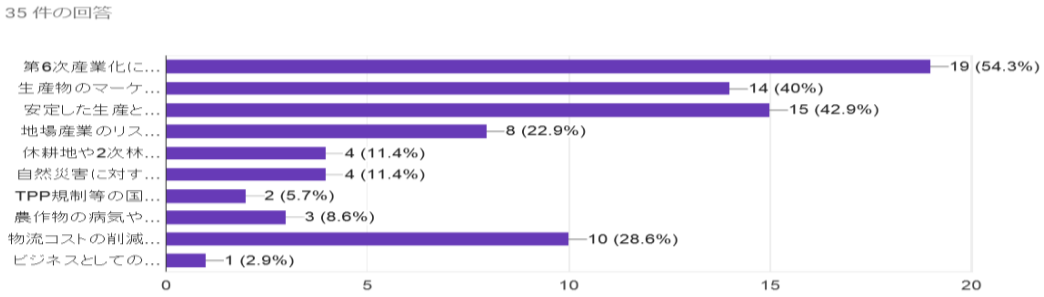
[質問２] 大学コンソーシアム沖縄と琉球大学では、地域および企業ニーズとマッチングを行い、地域連携や産学連携に取り組んでいます。皆様の関心の高いニーズをお聞かせください。

○1次産業（農林水産業）　○2次産業（ものづくり産業）　○3次産業（観光産業、物流、サービス等）
○医療・福祉関連産業（地域医療、高齢化、子どもの貧困等）　○環境問題　○教育　○伝統文化の保存・継承　○その他



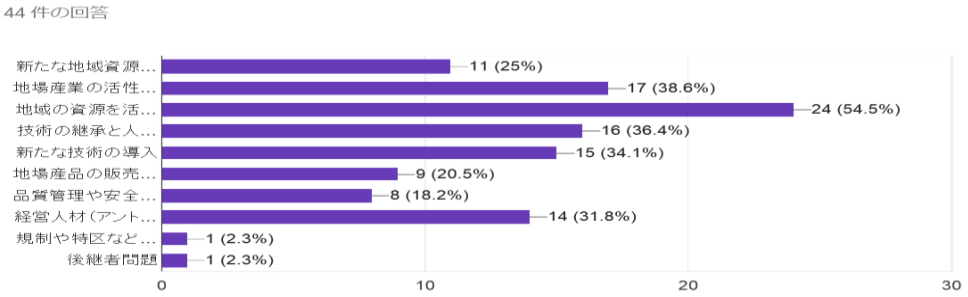
[質問３]「1次産業（農林水産業）」と答えた方は、以下の中から特に関心がある項目を最大３つ選択してください。

○第6次産業に向けた取り組みの企画・開発　○生産物のマーケット分析とブランド化　○安定した生産と生産性の向上
○地場産業のリスク管理（経営）分析・研究　○休耕地や2次林業等の利活用　○自然災害に対する○弱性の分析と対策
○TPP規制等の国際動向分析と対策　○農作物の病気や害虫対策　○物流コストの削減と販路開拓　○その他



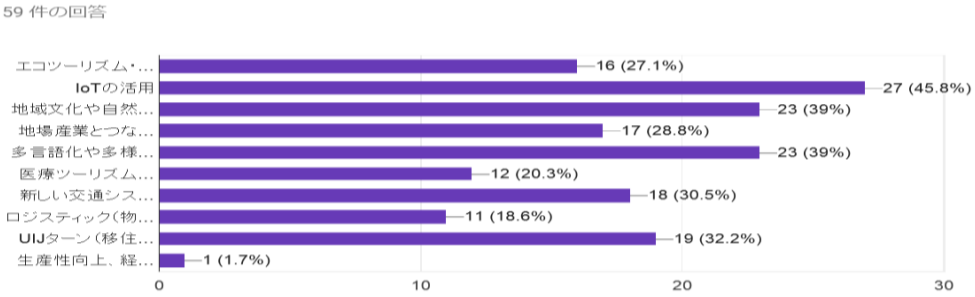
[質問４]「第2次産業（ものづくり産業）」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を最大3つ選択してください。

○新たな地域資源の探索と検討　○地場産業の活性化に関する調査・研究　○地域の資源を活かした製品の企画・開発
○技術の継承と人材育成プログラムの開発　○新たな技術の導入　○地場産品の販売や流通に関する調査・研究
○品質管理や安全性の向上　○経営人材（アントレプレナー）の育成と分析　○規制や特区などの政策分析　○その他



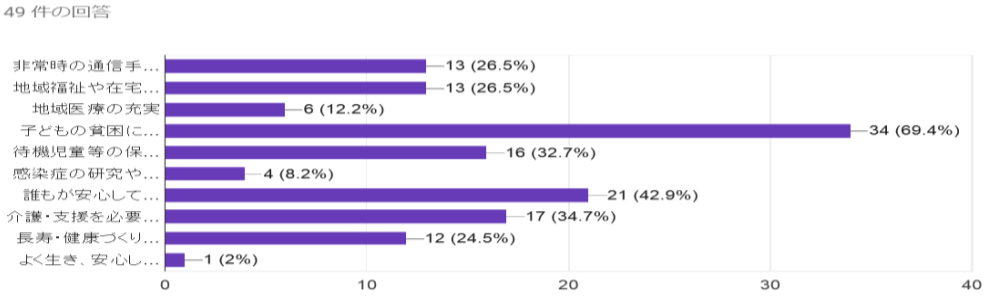
[質問５]「3次産業（観光産業、物流、サービス等）」と答えた方は、以下の中から特に関心のある項目を最大3つ選択してください。

○エコツーリズム・ブルーツーリズムプログラムの開発　○IoTの活用　○地域文化や自然環境と調和した循環型観光産業の分析
○地場産業と繋がる観光の分析・開発　○多言語化や多様な文化ニーズへの対応可能な観光プログラム
○医療ツーリズムの開発と地場産業の連携　○新しい交通システムの開発（ランドシェアや相乗りタクシー等）等）
○ロジスティック（物流）分析・研究　○UIJターン（移住者）の定着・就職・雇用創出支援　○その他



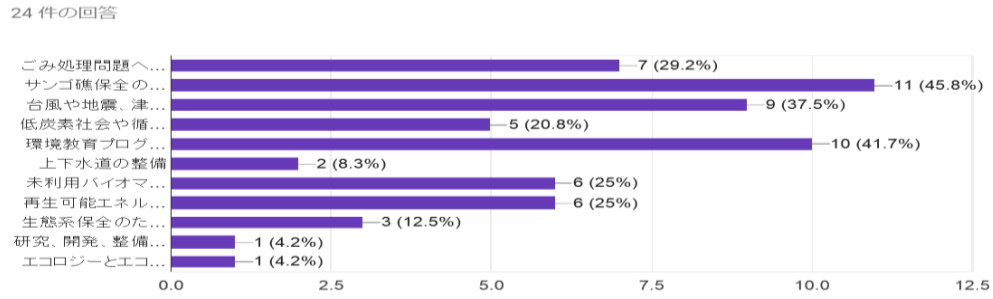
[質問６]「医療・福祉関連産業（地域医療、高齢化、子どもの貧困等）」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を３つ選択してください。

○非常時の通信手段や安全の確保　○地域福祉や住宅福祉の充実　○地域医療の充実
○子どもの貧困に関する分析と対策　○待機児童等の保育に関する実態分析と対策　○感染症の研究や予防に関する保険活動
○誰もが安心して暮らすことができる都市計画と住宅環境の整備
○介護・支援を必要とする高齢者や障がい者へのサービスや自立支援の分析・開発　○長寿・健康づくりのための研究と普及
○その他



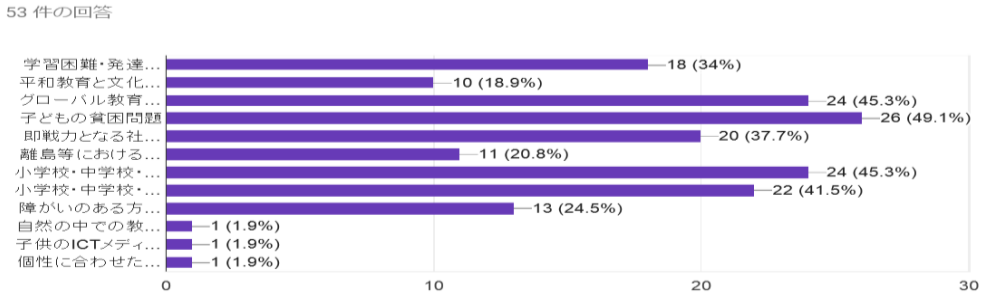
[質問７]「環境問題」と答えた方は、以下の中から特に関心がある項目を最大３つ選択してください。

○ごみ処理問題への対策　○サンゴ礁保全のための研究と保全活動　○台風や地震、津波等の防災機能の強化
○台風や地震、津波等の防災機能の強化と環境保全　○低炭素社会や循環型社会実現のための技術開発
○環境教育プログラムの研究・開発　○上下水道の整備　○未利用バイオマス（サトウキビの搾りかす等）の利用
○再生可能エネルギーの開発　○生態系保全のための外来種駆除等の研究・活動　○その他



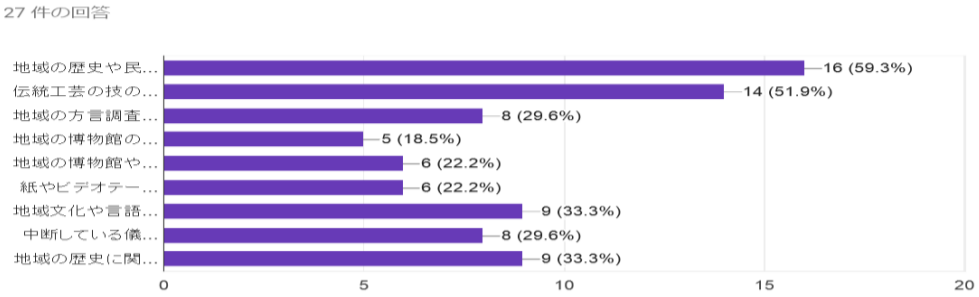
[質問８]「教育」と答えた方は、以下の中から、特に関心がある項目を最大3つ選択してください。

○学習困難・発達障害等に対応したプログラムの開発と普及　○平和教育と文化活動　○グローバル教育プログラムの開発
○子どもの貧困問題　○即戦力となる社会人育成のための教育プログラムの開発　○離島等における教育機会の均等
○小学校・中学校・高等学校における基礎学力向上のための分析と教育プログラムの開発
○小学校・中学校・高等学校における「教師の教育力」向上のための研修プログラムやシステム開発
○障害のある方への自立支援プログラムと就労先確保（産業界との連携等）　○その他



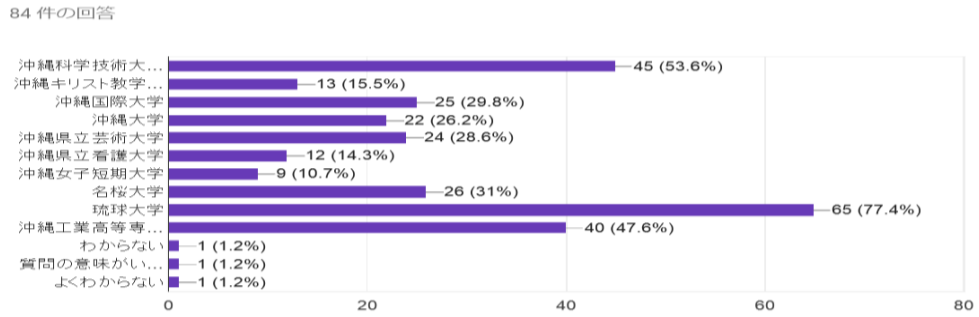
[質問９]「伝統文化の保存・継承」と答えた方は、以下の中から特に関心のある項目を最大3つ選択してください。

○地域の歴史や民族文化、芸能などの記録・調査　○伝統芸能の技の継承　○地域の方言調査と継承のためのプログラム開発
○地域の博物館の在り方の検討　○地域の博物館や資料館の所蔵資料の整理・データベースの構築
○紙やビデオテープなどの資料のデジタル化　○地域文化や言語に関するワークショップ等の教育プログラムの開発
○中断している儀礼の記録・継承　○地域の歴史に関する聞き取り調査・研究　○その他



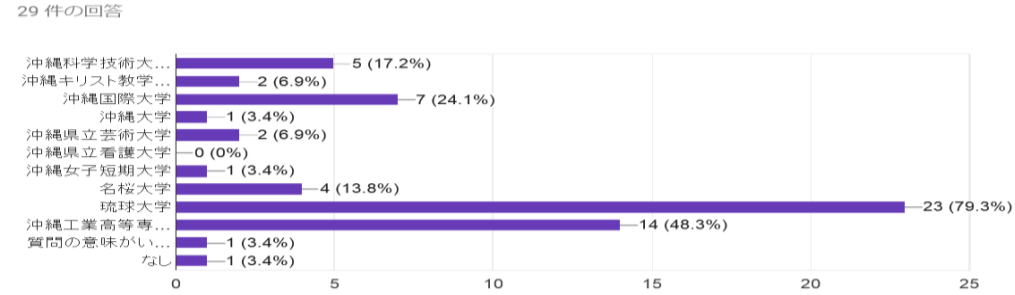
[質問１０] 大学コンソーシアム沖縄の加盟中で連携をしたい高等教育機関について教えてください。

○沖縄科学技術大学院大学　○沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学　○沖縄国際大学
○沖縄大学　○沖縄県立芸術大学　○沖縄県立看護大学　○沖縄女子短期大学　○名桜大学　○琉球大学
○沖縄工業高等専門学校　○その他



[質問１１] 過去に、大学コンソーシアム沖縄の加盟校の中で連携をした高等教育機関について教えてください。

○沖縄科学技術大学院大学　○沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学　○沖縄国際大学
○沖縄大学　○沖縄県立芸術大学　○沖縄県立看護大学　○沖縄女子短期大学　○名桜大学　○琉球大学
○沖縄工業高等専門学校　○その他



[質問１２][自由記述]大学コンソーシアム沖縄に期待すること、ご意見、ご要望をご記入ください。

より現実的で、実践的なプログラム及びコンテンツ。
AIを活用したデータ分析などを産業に結びつける事業を期待します。
大学との連携に対して大学側の壁が厚い、または興味の対象が把握しずらい。
地域自治体と連携を密にし、課題の抽出や解決策の立案を積極的に展開してほしい。 産官学それぞれの立場において、できることはたくさんあると思いますので、協働で色々取り組みを進めていければと考えます。
ヒトの繋がりが広がっていくのを楽しみにしています
成果のアウトプット
実際の取り組みの詳細が知りたいです。一般の人には難しくわかりにくい言葉が多いので、興味関心が広がりにくいのかもしれません。
事業の透明性，プロジェクト毎の反省点の洗い出し，議事録の公開
何をされていて、今どんなシーズがあって、民間とのどんな連携があれば地域貢献の実績となりそうか教えて頂けると嬉しいです。
ビジネス化
もっと学生を使えるような制度作り（費用や参加人数枠の増設、業務内容の拡大とか）をして、学生をたくさん巻き込めるようにしてほしい。 デザイン思考ワークショップなど最先端ワークを行ってほしい。
人工知能AIやIoT(モノのインターネット)などの話をすると理系の研究をイメージしますが、大学の文系の先生方にも関心を持っていただきたいと思います。AIやIoTの普及が沖縄に与える影響(経済・物流・雇用など)について文系の先生方に研究してほしいと思います。
個人的に、沖縄県に於いての最大の課題は、教育・人材育成にあると考えています。 沖縄県の学生は他府県と比較して、進学や就職等で県内志向が強く、内向きで視野が狭いように感じます。 もちろん、経済的な問題もあると思いますが、だからと言って、その事を理由にすると、沖縄県の現状は変わらないと思います。 最近では、日本全国あるいは、海外で活躍している沖縄県出身者は増えています。 その流れを更に加速させる為にもWeb上でもいいので「ビジネススクール等」を開設してはいかがでしょか？ 活躍しているビジネスリーダーや官僚等の実務的な講演を配信することで、職業意識が向上して視野が拡がるのではと思います。
学生のビジネスマインドを高めていただきたい、特に中核の琉球大学の学生に！ 各学校が連携することは非常に有意義な取り組みです。学生の交流もさることながら、先生同士の積極的な交流も期待しています。
情報があれば、その都度メルマガ等でも配信してほしい。

2-2　地域課題解決のための研究者の調査

- 県内高等教育機関の研究者情報をホームページ及び大学総覧等から収集し、コーディネーターが研究室及び研究者訪問を行い、研究領域、研究分野、地域、素材などの分野ごとの研究シーズの集約に取り組んだ。調査内容については、巻末掲載。

2-3 地域と研究者のマッチング(ワーキンググループの立ち上げ支援)

- 地域（市町村）・企業等のニーズに合わせて大学シーズを選択し、ワーキンググループの立ち上げを支援した。教職員だけでなく学生も参画できるように体制構築を行い、学生の主体性を醸成する場にも繋げた。
- 地域課題ソリューションワーキンググループは、テーマ毎に自治体、企業・団体、大学、NPO等の産学官民（マルチステークホルダー）のメンバーで構成し、2ヶ月に1回程度でディスカッションを行い、テーマによってはモデル構築のためのイベント等も開催した。
- 各ワーキンググループの活動概要は次項より掲載。

水循環プロジェクト	
■概要	■課題：沖縄県の水問題（水に対する意識の薄れ等） ■課題に対する（短期的）解決方法：学生の意識調査を実施 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法: 琉球大学の自然科学系や社会科学系分野の研究者を中心とした学際的な研究チーム「水循環プロジェクト」と連携。 ■地域に対して当該大学等をマッチングした理由: 琉球大学の研究者が八重瀬町をフィールドとした市町村調査のプレ調査として学生の意識調査を希望したため。 ■H29（年度）に取り組んだ内容： 「地域の水資源への関心の向上」に向けたプロジェクトへ参加している。具体的には八重瀬町をフィールドとして、理学部・農学部教授の主導のもと、自治体や教育関係者に向けたワークショップ、意見交換会等を企画・運営し、教育プログラムの開発等に取り組む。 琉球大学の理学部・農学部・法文学部等の研究者が学際的にワーキンググループを立ち上げてプロジェクトを進行している。インターンシップ送出の一環で、10月からスタートした後期の講座「地域企業（自治体）お題解決プログラム」と連動した活動を実施し、県内大学生に向けての水資源についての意識調査のアンケート調査を大学コンソーシアム加盟大学にて広く行い、アンケートの分析・解析を研究者とともに実施し、課題解決の手立ての一つとなるよう提案を行った。調査項目を作成し、16講義にてアンケート調査の実施、また大学コンソーシアム沖縄の大学に学内のメールなどで協力依頼を行い、556人から回答を得た。の後、集計・分析を行い、報告書を作成、島嶼地域の水資源の利用と健全な保全のあり方を探った。
■連携自治体	八重瀬町
■連携大学	・琉球大学理学部 物質地球科学科地学系・琉球大学法文学部 総合社会システム学科 ・農学部 地域農業工学科
■WG開催回数	全5回開催







沖縄市観光プロジェクト	
■概要	■課題：沖縄市観光産業の停滞 ■課題に対する解決方法：SNSを活かした新規観光ターゲットへの広報 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法: 琉球大学の観光学科学生による課題解決案の提示。課題抽出及び課題解決に向けたプロセス構築。 ■地域に対して当該大学等をマッチングした理由： 観光を学ぶ学生が存在し、フィールドワークの実践ノウハウを有する研究者がいるため ■H29（年度）取り組んだ内容： 沖縄市の地域課題を抽出し、沖縄市観光物産振興協会に協力いただき、沖縄市の観光事業を更に促進するプロジェクトに取り組んだ。プロジェクトを通し、企画（イベント等）立案、プロジェクトマネジメントを演習し、行政、各団体、企業と連携しながら地域活性を実践。 インターンシップ送出の一環で、10月からスタートした後期の講義「地域企業（自治体）お題解決プログラム」と連動した活動を実施。女子大学生がインスタグラム等のSNSを活用した観光プロデュースをし、「＃コザに恋して」というハッシュタグで沖縄市の魅力を発信し、コザへの訪問者を増やした。また、クラウドファンディングを達成し、企画ポスター作製による更にファンを増やすことにも挑戦。メディアを通した発信なども行った。 ■今後の計画： クラウドファンディングで得た資金で、インスタアカウント周知の為のポスターを18年3月に作成。新規ターゲットの女子学生に広めるため、4月に沖縄県内大学へ掲載拡散する計画。
■連携自治体	沖縄市（沖縄市観光物産振興協会）
■連携大学	・琉球大学地域連携推進機構
■WG開催回数	全6回開催






沖縄市こども食堂プロジェクト	
■概要	■課題：子供の貧困対策 ■課題に対する解決方法： 子供達の日々の充実感を向上させる創造性促進イベント。 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法: 大学コンソーシアム沖縄の子どもの居場所学生ボランティアセンターのノウハウや連携方法などを活用 ■地域に対して当該大学等をマッチングした理由： 子ども食堂を運営する機関から、子どもたちに年齢の近い学生とのマッチングを希望していたため。 ■H29（年度）取り組んだ内容： 沖縄市の地域課題を抽出し、子どもの貧困対策のプロジェクトに取り組んだ。沖縄市内子供食堂への現場ヒアリングによるニーズ調査を実施。プロジェクトを通し、企画(イベント等)立案、プロジェクトマネジメントを演習し、行政、各団体、企業と連携しながら、地域活性を実践している。 インターンシップ送出の一環で、10月からスタートした後期の講座「地域企業（自治体）お題解決プログラム」と連動した活動を実施している。子どもの貧困対策としての子どもたちの孤食対策をおこなう「ももやま食堂」「ゆがふぅサロン」と連携し、子どもたちと年齢が近い大学生による子どもたちへのイベントや遊びのコンテンツを提案、実践し、こども達の社会性向上に取り組んだ。
■連携自治体	沖縄市（ももやま食堂ゆがふぅサロン）
■連携大学	・琉球大学地域連携推進機構・琉球大学法文学部人間科学科
■WG開催回数	全5回開催





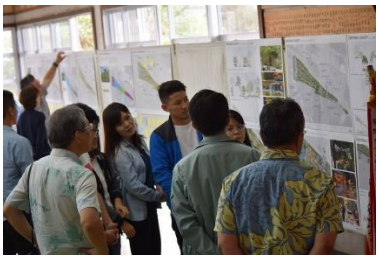
沖縄市リノベーションプロジェクト	
■概要	■課題：空き店舗及び遊休不動産の増加 ■課題に対する解決方法：エリアリノベーションによる地域活性 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法: 琉球大学工学部で建築コースの研究者及び学生の建築工学のノウハウ、リサーチ研究の活用 ■地域に対して当該大学等をマッチングした理由： 建築デザインや都市計画のノウハウを活用するために琉球大学の工学部とのマッチングを行った ■H29（年度）取り組んだ内容： 沖縄市の地域課題を抽出し、商店街リノベーションプロジェクトに取り組んでいる。沖縄市が取り組む商店街のリノベーションまちづくり「リノベーションスクール」と連携し、中心市街地の活性化や空き店舗解消などの地域課題を解決するため、実際の空き物件を学生がリノベーションして活用することを検討した。 プロジェクトを通し、企画(イベント等)立案、プロジェクトマネジメントを演習し、行政、各団体、企業と連携しながら、地域活性を実践している。 インターンシップ送出の一環で、10月からスタートした後期の講座「地域企業（自治体）お題解決プログラム」と連動した活動を実施している。 建築学の都市設計やエリアデザインの視点から、フィールドワークによるエリア分析、地域住人ヒアリングによるニーズ調査を実施し、スモールエリアリノベーションとして遊休不動産の活用を実践している。
■連携自治体	沖縄市
■連携大学	・琉球大学工学部工学科建築コース・琉球大学地域連携推進機構
■WG開催回数	全5回開催







今帰仁村地域拠点構築プロジェクト	
■概要	■課題：地域の拠点（コミュニティ）づくり ■課題に対する解決方法： 地域住民が主体的に地域拠点を構築できるファシリテーション能力の向上 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法: 社会教育やフィールドワーク調査の手法を社会学の研究者からレクチャーしてもらい、コミュニティづくりの手法を活用する。 ■地域に対して当該大学等をマッチングした理由: 実践的なフィールドワークの技法を持つ研究者やコミュニティデザインを担える人材が存在する大学とのマッチングを実施した。 ■H29（年度）取り組んだ内容： 今帰仁村にて実施するコミュニティづくりのプロジェクトへの参加している。米国オレゴン州ポートランドのコミュニティづくりを行うプロフェショナル人材と連携し、地域づくりの担い手となるリーダーの養成、地域の様々なステークホルダーを連携するファシリテート能力について学修する。また、今帰仁村の人口ビジョン・総合戦略から地域課題を発見し、その課題解決に向けてのプロジェクト。 インターンシップ送出の一環で、10月からスタートした後期の講座「地域経営基礎」「地域企業（自治体）お題解決プログラム」と連動した活動を実施している。コミュニティづくりについては、5回のワーキングを実施し、地域住民や地域企業等との会議ファシリテーションのサポートを行い担い手育成に取り組んでいる。1月には、コミュニティづくりのフォーラムを開催した。 ■今後の計画： 地域リーダーとなれる人材を発掘し、行政、民間、NPOなどを橋渡しするファシリテーターの育成を行う。
■連携自治体	今帰仁村
■連携大学	・琉球大学教育学部社会科教育・琉球大学理学部物質地球科学科 ・琉球大学地域連携推進機構・名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科
■WG開催回数	全5回開催





今帰仁村移住定住促進プロジェクト	
■概要	■課題：今帰仁村若者の移住定住 ■課題に対する解決方法：若者向け日帰りツアーイベントの実施 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法： 学生による課題解決案の提示。イベント内で村民と大学教授との対談を実施。人間行動領域における具体的知見をいただく。 地域に対して当該大学等をマッチングした理由： 課題を抱える地域にできるだけ近い大学。今後のコミュニケーションのとりやすさを考慮した。時間的金銭的コストの低減にも繋がる。 ■H29（年度）に取り組んだ内容： 今帰仁村の人口ビジョン・総合戦略から地域課題を発見し、その課題解決に向けてのプロジェクトを構築した。人口ビジョン・総合戦略からの地域課題として、若者の人口流出を抑え、移住・定住を増やすために、婚活イベントによる地域活性化プロジェクト（婚活のモデルイベントとして、若者向け日帰りツアーのイベント）を実施した
■連携自治体	今帰仁村・今帰仁村教育委員会
■連携大学	・琉球大学地域連携推進機構・名桜大学国際学群国際学類
■WG開催回数	全5回開催







糸満市次世代キャリア教育プログラム	
■概要	■課題：糸満市の子どもたちの個々の能力を高める教育支援 ■課題に対する解決方法： 沖縄県平均以下の学力である地域に対して、学力テストだけでなく、個性を尊重した学びの場の創出。 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法： 子どもの学力向上だけでなく、ICTやものづくり等の子どもたちの個性に合わせた教育カリキュラムを構築する。 ■地域に対して当該大学等をマッチングした理由： 子どもたちが自信を持って学べる環境づくりや教育手法のノウハウを持ち、地域の中核人材やサポート機関との人的ネットワークを有しているため。 ■H29（年度）に取り組んだ内容： 糸満市が取り組むICT及びものづくりなど、子どもたちのイノベーションを生み出すキャリア教育関連の活動支援に取り組んでいる。電気自動車のエコカー製作のものづくりを通してキャリア教育に取り組んでいる。 インターンシップ送出の一環で、10月からスタートした後期の講座「地域企業（自治体）お題解決プログラム」と連動した活動を実施している。ICT教育及びものづくりにおけるキャリア教育は、工学部の教員と連携し、12月末にエコカーの国際競技会を開催した。 ■今後の計画等： ワーキンググループで得られた人材育成の成果や人的ネットワーク構築によるイノベーション教育を推進するため、イノベーション教育フォーラムを開催する。 フォーラムには、糸満市だけでなく沖縄県南部地域の教育関係者、全国から先進的な取り組みを行う事例報告を行い、全国的なネットワークを構築する。
■連携自治体	糸満市・糸満市教育委員会
■連携大学	・琉球大学工学部工学科エネルギー環境工学 ・琉球大学地域連携推進機構
■WG開催回数	全12回開催

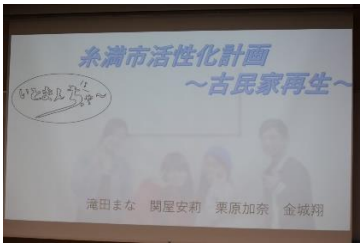






糸満市観光コンテンツ開発プロジェクト	
■概要	■課題：糸満市の新たな観光コンテンツ開発及び空き家対策 ■課題に対する解決方法： 沖縄県の南部地域に位置する糸満市は観光コンテンツが不足しており、特に増加する外国人観光客への観光プロモーション活動。 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法： 地域フィールドワークの手法や観光を学ぶ学生による新たな観光コンテンツの商品開発を研究者がサポートして、新たなサービスを創出する。 ■地域に対して当該大学等をマッチングした理由： 観光学科で学ぶ学生に、既存の枠にとらわれない発想を自治体が求めており、研究者ではなく学生メインでの活動を要望していたため。 ■H29（年度）に取り組んだ内容： 沖縄県の南部地域に位置する糸満市は観光コンテンツが不足しており、特に増加する外国人観光客のインバウンド対策ができていない状況である。また、自治体内でも人口の増減が顕著にみられ、地域の課題としてある空き家対策としての取り組みを期待されていた。今回、学生たちによる古民家を活用したインバウンド観光の企画提案を実施した。 インターンシップ送出の一環で、10月からスタートした後期の講座「地域企業（自治体）お題解決プログラム」と連動した活動を実施している。空き家対策プロジェクトは、観光コンベンションビューローへのヒアリングやフィールドワークを通して、地域の課題を洗い出し、解決に向けて関係者との調整を行い、最終的に自治体へ企画提案をプレゼンテーションした。 ■今後の計画等： 学生から提案された内容を、自治体で精査し、糸満市が行っている空き家対策調査事業と連動した取り組みや、観光協会との連携したインバウンド向け観光プロモーション活動を検討している。
■連携自治体	糸満市（糸満市観光協会・沖縄県観光コンベンションビューロー）
■連携大学	琉球大学地域連携推進機構
■WG開催回数	全6回開催







うるま市自然体験プログラム開発協働研究プロジェクト	
■概要	■課題：地域資源を活かした観光コンテンツの創出 ■課題に対する解決方法： 自然環境を活かした教育コンテンツ(体験プログラム)を開発、科学的根拠に基づいた教育効果の提示 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法： 教育工学、行動心理学、教育心理学等の連携を予定する。 ■地域に対して当該大学等をマッチングした理由： 教育学部、観光産業科学部、法文学部等を有する総合大学として琉球大学があり、学部横断的にプロジェクトを構築できる可能性が高いため。 ■H29年度に取り組んだ内容： うるま市にて、将来的に社員研修等の誘致を目的に、自然体験をベースにした研修プログラムの開発を行うプロジェクトを検討している。自然体験研修における身体的負荷と心理学的側面との関係性を大学・研究機関と連携し、共同開発を行う。自然体験活動等の成果を、科学的根拠をベースに検証できるツールやノウハウの開発ができれば、県外企業の社員研修や修学旅行・研修旅行等の誘致にも繋がり、地域活性のひとつにする。また、県内の他の地域にも汎用できる研究としても検討し、教育工学、行動心理学、教育心理学等の連携を予定する。 今年度は主に、事業計画(案)の策定・連携する研究分野の情報収集を行った。 ■今後の計画： 連携する研究分野の選定、事業予算確保の方法を検討、体験プログラムの開発、効果測定指標の開発、プログラム及び効果測定指標の実証を行う。
■連携自治体	うるま市
■連携大学	琉球大学を予定（現在、研究室・教授の選定中）
■WG開催回数	全2回開催　※次年度に継続







泡盛消費拡大プロジェクト	
■概要	■課題：泡盛の消費量減少 ■課題に対する解決方法： 消費者離れ（特に若者）が進む泡盛を身近に感じてもらうイベントの開催。 ■解決方法に対する大学等知的資源の活用方法： 泡盛の健康的な効用の提示、飲み方の提案などを研究者や沖縄県酒造組合との連携した取り組みを行っていく。 ■地域に対して当該大学等をマッチングした理由： 泡盛における「フレーバーホイール」を琉球大学、沖縄国税事務所、沖縄県工業技術センター、沖縄工業高等専門学校の4機関で開発しており、まずは琉球大学の研究者を中心にマッチングを行っていたため。 ■H29年度に取り組んだ内容： 若者のアルコール離れにより泡盛やビールの消費が落ちており、特に泡盛は厳しい状況になっている。そのような中、琉球大学及び工業技術センター等の研究機関が開発した泡盛フレーバーホイールを活用して、消費者に身近に感じてもらうための新しい泡盛の飲み方を提案する企画を検討している。 また、泡盛業界の活性化を目指すだけでなく、オリオンビールなどのノンアルコールビールを活用することによる、健康志向の人々へ提供できるドリンクメニューを検討し、商品化、モデル販売を始めている。特定の居酒屋との連携し、泡盛女子部との情報共有、関連する講座やフォーラムへの参加、沖縄県酒造組合へのヒアリングを実施した。
■連携自治体	全域（沖縄県酒造組合・沖縄県工業技術センター・沖縄国税事務所）
■連携大学	・琉球大学農学部　亜熱帯生物資源科学科　・沖縄工業高等専門学校生物資源工学科　・琉球大学地域連携推進機構
■WG開催回数	全3回開催 ※次年度に継続







2-4 国内外の先進的取り組みに関する研修会等の実施

・ 外部講師を招聘し、国内外の先進的取り組みに関する研修会を全5回開催し、沖縄県内の高等教育機関及び産業界が連携し、お互いに学びあう研修会を開催した。

【第1回 開催概要】

講師	概要	人数	開催日
堀切川一男 （東北大学）	日本の産学連携では「大学の研究シーズを企業へ技術移転し、企業が自力で製品化・実用化する」という認識が強く、企業は経営資源や研究開発人材を保有している大企業が対象であった。大学と大企業との共同研究も両者の思惑が合致し、活発に行われてきた。 一方、地域中小企業のニーズありきの製品化・実用化を産学連携で行うことは積極的になされてこなかったが、地域中小企業の救世主ともいえる“仙台堀切川モデル”が生まれた。 地域中小企業からの2,000件以上の技術相談に対応し、産学連携で製品化・実用化200件の実績を上げている東北大学大学院工学研究科堀切川一男教授が、仙台市地域連携フェロー、福島県の地域産業復興支援アドバイザーとして地域中小企業を中心に御用聞き型企業訪問等を行い、次々と製品化・実用化している仙台堀切川モデルの成功の秘訣等について事例報告を行った。	23人	9月26日









【アンケート内容】（一部）

	１．１）講義内容はご自身の業務や活動に役に立つ内容でしたか	１.2)講演内容は、今後の沖縄県内の産学官連携を促進する内容でしたか	２．講演についてご感想をお聞かせください。	３．産学官連携(特に大学との連携)について、今後やっていきたいこと・ご要望などありましたらお聞かせください。	４．ご所属をお聞かせください。	５．どのように今回の研修の告知を知りましたか。
1	1大いに役立つ	1とてもそう思う	-	-	自治体関係者	-
2	1大いに役立つ	1とてもそう思う	ものづくりは沖縄にとって課題の大きな分野だと考えています。ここを元気にして労働環境の改善につなげられればと考えます。	企業・大学・行政それぞれ加えたワークショップの開催	民間企業 中小企業支援事業受託	
3	1大いに役立つ	1とてもそう思う	参考になった上楽しかった	-	自治体関係者	関係者からの紹介
4	1大いに役立つ	1とてもそう思う	ユーモアたっぷりで大変興味深い内容だった	小さな(伸びしろのある)実績の積み重ねが重要であることが分かった	経済団体	関係者からの紹介
5	1大いに役立つ	1とてもそう思う	興味深い話が多く、勉強になった	地域貢献を軸としたプロデューサーの役割を大学発でしっかり取り組んでもらいたい	TLO	関係者からの紹介
6	2役に立つ	2思う	時間は長かったですが、具体的成功事例が聞けて非常に前向きになれる講演でした	中小企業との連携で、小さい目標からやっていくという話が印象的でした	大学関係コーディネーター	関係者からの紹介
7	1大いに役立つ	1とてもそう思う	沖縄のような大企業がない地域では非常に効果的なモデルだと思いました。特にミニマム目標の設定という部分は興味深く、どんな点に気をつけて製品開発の可否を判断しているのか気になりました。会社単体での研究開発と国プロでの研究開発では視点も違ってくるのでは。	産のニーズと課題を正確に捉え、学のシーズと結びつけていきたい	地域づくり系団体	関係者からの紹介
8	1大いに役立つ	1とてもそう思う	大変面白く、堀切川モデルについて伺く事ができました。今後の業務に役立てていきたいと思います。	小さな成果をひとつひとつ積み上げていこうと思います。	沖縄TLO	関係者からの紹介
9	1大いに役立つ	2思う	非常におもしろかった。産学官はニーズオリエンテッドと思っていたので考えが正しいと後押しを受けたのでよかった	今すぐは思いつかないが考えていきたい	自治体関係者	関係者からの紹介
10	1大いに役立つ	1とてもそう思う	大変面白い内容と同時に、参考になるお話しが盛りだくさんでした。すごいインパクトです！貴重な機会を頂きどうもありがとうございました。	-	その他	大学からの案内
11	1大いに役立つ	1とてもそう思う	ユーモアを交えて大変おもしろい内容のお話しでした	堀切川モデルを是非沖縄へも導入できるといいですね	自治体関係者	関係者からの紹介
12	1大いに役立つ	1とてもそう思う	産学連携の事例の紹介が多々あり、とても分かりやすかった。「Me to Me」「イノベーションはローテクで」の考え方が新鮮で、今日お話しを聞けて良かったです。面白いキャラクターもとても魅力的でした。ありがとうございました。	-	その他	その他(社内回覧)
13	1大いに役立つ	2思う	地域産学官連携の本質が分かりました	-	大学関係	大学からの案内
19	1大いに役立つ	1とてもそう思う	コーディネーターの立場で出席しました。立場を越えて大変ためになりました。	-	大学関係	大学からの案内
21	-	-	モノづくり成功の秘訣において、ローテクの重要性についてが参考になりました。	-	大学関係者	大学からの案内

【第2回 開催概要】

講師	概要	人数	開催日
世耕石弘 （近畿大学）	大学志願者数1位の近畿大学。立役者は広報戦略があり、背景として、「近大マグロ」による知名度アップや完全ネット出願の実施などが挙げられるが、影の立役者には、大学広報の“攻め”の姿勢がある。近畿大学は大学の固定化した概念を壊す広報展開に全力で取り組んでいる。様々な業界に様々な固定化した壊すべき概念があり、近畿大学ではその概念を壊そうという想いをともに、進歩を妨げる概念（壁）を壊し、自由な競争環境を創り出している。 世耕氏からは、（1）情報収集力（2）コミュニケーション能力（3）広報を信じる力の3つについての事例報告を行った。	20人	10月24日









	１．１）講義内容はご自身の業務や活動に役に立つ内容でしたか	１.2)講演内容は、今後の沖縄県内の産学官連携を促進する内容でしたか	２．講演についてご感想をお聞かせください。	３．産学官連携(特に大学との連携)について、今後やっていきたいこと・ご要望などありましたらお聞かせください。	４．ご所属をお聞かせください。	５．どのように今回の研修の告知を知りましたか。
1	1多いに役に立つ	2そう思う	本学にもぜひ活かしていくべき事例が多くありました。是非インターンに伺わせていただきたいです。		大学関係者（職員）	大学からの案内
2	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	「仕事をやるんはプロでなければならない」は感動やった。		民間企業	フェイスブック
3	2役に立つ	2そう思う	私はずっと総合商社で働いていまいた。ドンとやれ！の世界で働いてきたので、大学は本当に足の引っ張り合い、揚げ足取りばかりで、リーダーシップもなく、トップダウンもなく、ひたすらボトムアップで、何かをやれば叩かれ、何もしないことが一番だと最近では思っていたので、何事も二面性ということや、時間差で正当な評価が得られるということに少し救いを感じました。ありがとうございました。	-	大学関係者（職員）	大学からの案内（メール）
4	1大いに役に立つ	3あまり思わない	大学が今後いきていくための、今後の重要さが理解できた。		大学関係者	大学からの案内
5	1大いに役に立つ	2そう思う	面白かった。琉大の参考になるポイントはたくさんあります。	広報の仕事が増えそう。さばく能力はあるか？	大学関係者	大学からの案内
6	1大いに役に立つ	1とてもそう思う			民間企業	関係者からの紹介
7	1大いに役に立つ	2そう思う			民間企業	関係者からの紹介
8	1大いに役に立つ	2そう思う	お話もおもしろく、広報マンとしての姿勢にも感動した		大学関係者（職員）	大学からの案内（メール）
9	1大いに役に立つ	2そう思う	「常識」の話は同感というか、自分は間違っていないと安心しました。	-	大学関係者（職員）	大学からの案内（メール）
10	2大いに役に立つ	2そう思う	広報ファーストで、ニュースになることで学生数が伸びてくると思った	-	その他	
11	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	今まで気になっていた近大の事例の話が聞けてよかったです。	様々な業界の話を聞きたいです。	民間企業	関係者からの紹介
12	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	とても面白かったです。ブランディングの方法など、お金をかけないで最大限の効果という視点に立つと、物事が違って見えると感じました。	教員例としては、マッチングを提案してもらえると楽しそうだと思いました。	大学関係者	大学からの案内
13	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	学外とのコミュニケーションの捉え方が参考になりました。	-	大学関係者（職員）	大学からの案内
14	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	事務職にとって広報が１番難しい仕事だと思っています。同じようにはできなくても、意識の持ちかたや真似できることを少しづつやっていきたいと思いました。	-	大学関係者（職員）	その他（県庁内のホームページ）
15	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	とても興味がありました。期待通りのご講演ありがとうございました。沖縄のめんどくさがり文化も、こういった刺激を受けて、沖縄の良さを活用した取り組みができるように微力ながら取り組みます。	-	自治体関係者	関係者からの紹介

【第3回開催概要】

講師	概要	人数	開催日
西出香 （オランダ応用科学研究機構）	世界2位の農産物輸出国であるオランダ流産学連携の取り組みについて、オランダ応用科学研究機構（TNO）の日本代表の西出氏に行っていただいた。TNOは産業技術・自然科学分野における応用科学研究を行うことを目的に1932年にオランダ議会により設立された欧州では最大級の中立の総合研究機関である。 政府系機関や企業等に対し技術シーズの実用化事業、オープンイノベーション・シェアードリサーチの推進、共同研究、技術協力、受託研究、プロジェクトマネジメント、知財ライセンシング、規制科学におけるコンサルティング等のサービスを提供している。 西出氏からは、オランダと日本企業との連携した事例について報告を行った。	10人	11月29日









	１．１）講義内容はご自身の業務や活動に役に立つ内容でしたか	１.2)講演内容は、今後の沖縄県内の産学官連携を促進する内容でしたか	２．講演についてご感想をお聞かせください。	３．産学官連携(特に大学との連携)について、今後やっていきたいこと・ご要望などありましたらお聞かせください。	４．ご所属をお聞かせください。	５．どのように今回の研修の告知を知りましたか。
1	2役に立つ	2そう思う	今まで見聞きしてこなかった分野の話、オランダから学ぶ対人関係や、どういう態度で、仕事と向き合うか多くを学べた。		学生	フェイスブック
2	2役に立つ	2そう思う			自治体関係者	関係者からの紹介
3	2役に立つ	3	今後の色について考えさせられる内容でした。3Dプリンターの話に集中しすぎて今回のテーマの部分があまり聞くことができなかったのが残念でした。		学生	フェイスブック
4	2役に立つ	2そう思う	おもしろかった。3Dフードプリンターの時代ですね。議論が面白かったのでやりとりが多く専門家が多いと深みも出てきておもしろい。		大学関係者	大学内回覧
5	1大いに役に立つ	1とてもそう思う	企業意欲を刺激される後援内容でした。設備提供、コスト面での損益分岐点を知りたいです。	N/A	民間企業	関係者からの紹介
6	2役に立つ	1とてもそう思う	考えや技術がとても進んでいて新鮮でした。			関係者からの紹介
7	3	3	今日のテーマははじめて聴く内容でしたので、おもしろかったです。又、有益な情報をいただけました。		職員	メール、大学内回覧
8	2役に立つ	記載なし	3Dプリンターがここまで進んでいるとは驚きでした。課題は多いと思いますが将来が楽しみです。食事まではいかずとも製薬や加工品から活用が進みそうだと思いました。市場の受入が難しそうなので、消費者の選択枝の1つとしてはありだと思います。		自治体関係者	関係者からの紹介
9	2役に立つ	1とてもそう思う	オランダの情報を知ることができてよかったです。	農業とICTの連携を進めていきたいです。	民間企業	フェイスブック

【第4回開催概要】

講師	概要	人数	開催日
塚本亜紀 （日本IBM株式会社）	「グローバルの力を地域の支援に～テクノロジーとスキルで社会課題を解決～」をテーマに、企業が地域課題・社会課題を解決している取り組みについて報告を行っていただいた。 IBMは自社の持つテクノロジーや社員のスキルを活用し、社会課題解決や地域コミュニティでの活動を支援している。 企業市民として、地域コミュニティに貢献し、自社にとっても人材育成や市場開発などの効果を見据えた継続的活動を行うためには、パブリックセンター・ソーシャルセクターにまたがる外部組織との連携が重要になる。 塚本氏からは、IBMがキャリア教育や非営利組織へのプロボノ活動で取り組んでいる事例報告を行った。	16人	12月13日









	１．１）講義内容はご自身の業務や活動に役に立つ内容でしたか	１.2)講演内容は、今後の沖縄県内の産学官連携を促進する内容でしたか	２．講演についてご感想をお聞かせください。	３．産学官連携(特に大学との連携)について、今後やっていきたいこと・ご要望などありましたらお聞かせください。	４．ご所属をお聞かせください。	５．どのように今回の研修の告知を知りましたか。
1	2役に立つ	1とてもそう思う	官や大学に限らず企業においても教育支援など各種プログラムの実施により社会貢献活動を積極的に展開している企業があることがわかり、様々な分野で社会課題解決に関する取組が求められている事を実感しました。沖縄においても大学、企業、地域との連携による課題解決の取り組みが求められていることを実感しました。沖縄においても大学、企業、地域とか連携による課題解決の取り組みが広がればいいなと思います。	企業の潜在的なものも含めた課題や地域・社会の課題の解決に向けて大学の知を活用した取組が進むことを期待しています	自治体関係者	関係者からの紹介
2	1大いに役に立つ	2そう思う	内容も講師も素晴らしかったです。ありがとうございます	-	大学関係者職員	フェイスブック
3	2役に立つ	2そう思う	組織を強化するには人材育成が必要で、その手法として地域貢献に効果があるということが分かった	-	自治体関係者	その他 沖地ネットからのメール
4	2役に立つ	2そう思う	初めて知る取組ばかりで、今後さらに調べつつ連携可能性を探りたいと思った	人材、サービスのエコシステムの構築	自治体関係者	フェイスブック
5	1大いに役に立つ	2そう思う	企業の人材育成やCSCの取り組みをしることが出来てとても参考になった	大学のシーズを産学化する支援	自治体関係者	関係者からの紹介
6	2役に立つ	2そう思う	企業のノウハウ等をNPOにというお話しはとても魅力的に思いますし、県内でも是非流行って欲しいと思います。	-	中間支援団体	関係者からの紹介
7	1大いに役に立つ	2そう思う	社会貢献、CSRの現場、実際について詳しく知ることができました	-	民間企業	関係者からの紹介

【第5回 開催概要】

講師	概要	人数	開催日
山崎満広 （Creative City Labo 代表理事）	ポートランド沖縄連携フォーラムにて、「ここまで進んだ！沖縄とポートランドのまちづくり連携」をテーマに、今年度実施している今帰仁村とポートランドのコミュニティづくりの取り組みについて報告を行っていただいた。 山崎氏は、2012年～2017年にポートランド市開発局国際事業開発オフィサーを務め、日本国内でも柏の葉スマートシティキャンパスのマスタープラン、国交省の公共空間創出プロジェクト「MIZBERING」、和歌山県有田川町地方創生プロジェクト「有田川という未来」等に携わる。 2017年6月より独立起業し、Creative City Laboを設立し、代表理事を務める。都市開発、地域経済開発、国際事業戦略コンサルタントとして、日米を中心としたプロジェクトを手がけ、今帰仁村のコミュニティ拠点づくりにも立ち上げから取り組んでいる。 山崎氏からは、コミュニティづくりのためのファシリテーション能力の必要性、マルチステークホルダーとの信頼関係構築、コミュニケーションの重要性について事例報告を行った。	54人	1月21日









	１．１）講義内容はご自身の業務や活動に役に立つ内容でしたか	１.2)講演内容は、今後の沖縄県内の産学官連携を促進する内容でしたか	２．講演についてご感想をお聞かせください。	３．産学官連携(特に大学との連携)について、今後やっていきたいこと・ご要望などありましたらお聞かせください。	４．ご所属をお聞かせください。	５．どのように今回の研修の告知を知りましたか。
1	1大いに役立つ	1とてもそう思う	新都心・今帰仁の県内の事例を聞くことができとてもためになった。プロジェクトを行う上で、最初から排除する理論ではなくてすべての意見を聞き受ける大切さを認識させられた	現状の地域地域の点を面という形で展開していければと思います。-	地域づくり系団体	関係者の紹介
2	1大いに役立つ	1とてもそう思う	街づくりの専門家たちの意見・思い・動きが自らのアクションのヒントになった	-	民間企業	関係者からの紹介
3	1大いに役立つ	2そう思う	市民との協働によるまちづくりを沖縄ではどうやって実施できるか考えさせられた	学内だけでなく地域におりてきて欲しい	浦添市議	フェイスブック
4	1大いに役立つ	1とてもそう思う	街との取り組みの中で、地元の住人（所有者）や使用者との距離感を大切にすることが心にのこった	行政財産の活用（使用許可、転用、民間開放）については関わっていきたい	地域づくり系団体	フェイスブック
5	1大いに役立つ	1とてもそう思う	「街づくり」には地域の人達が自分たちで主体的に作っていくことだ思いました。これから「街づくり」を考える時には絵を描く前から住民の意見や行政デベロッパーの意見を対話をしながら合意形成の図れる街づくりをしていくべき。	真と視点講演の活性化プロジェクトの中でもSNSやインスタ映えするスポットというのも必要になると思いますので、沖縄芸術大学の皆さんもお手伝いしたいと思います。	その他（デビロッパー）	関係者からの紹介
6	1大いに役に立つ	2そう思う	ポートランドのまちづくりから那覇市今帰仁と広がりを見せていることに驚きよろこびました。	行政・企業・大学と連家してまちづくりについて考えたい	地域づくり系団体	-そと
7	1大いに役立つ	2そう思う	外と内の両方の事例の紹介はとても良かったと思います。学びをどのように実践するかまで知ることで、個人のアクションにも繋がる可能性が広がると思いました。	弊社と新サービスや新規事業のWSにトライしてみたいです。（新規事業の担当ではないのですが、若手有志との意見交換だという形は実現可能だと思いました。	民間企業	関係者からの紹介
8	1大いに役立つ	1とてもそう思う	素晴らしい内容でした。都市の役割をどう設定（位置づけ）するかによって都市で過ごす意味や価値が大きく変わってくるのだと実感しました、素晴らしい街で人々の気持ちや考え方がオープンになるといいなと思います。	市民の生活と大学との距離を縮めていきたい。行政はもっと大学に目を向けないといけないですね。	自治体関係者	関係者からの紹介
9	1大いに役立つ	1とてもそう思う	ポートランドのまちづくりが沖縄のまちづくりの参考となり事例報告がきけて良かったです。住みよい街、住民とのコミュニティを取りながら考えていくのは時間をかけて行うことが大切ですね。行政の関わり方も大切だと思います。	勉強会。ワークショップなど	大学関係者	その他（建築士会）
10	1大いに役立つ	1とてもそう思う	街づくりを自分たちが行うという意識をもつコトが大切だと思った	その地域の人達におススメの店とかを聞ける街づくり	民間企業	関係者からの紹介
11	1大いに役立つ	2そう思う	南城市のまちづくりにも活かしたい。市民の巻き込み方はとても参考になる。	地域を良くするイベントを一緒にやりたい	民間企業	関係者からの紹介
12	2役立つ	2そう思う	ポートランドの町づくりのコンセプト、プロセス、仕組みなどそ知ることができて良かった。	スポーツと街をどう密につなげるかを知りたい	民間企業	フェイスブック

第3章 [取組２]大学と地域・産業との結び付きを強化する為の取り組み

3-1　若手コーディネーターの配置と育成

- 若手コーディネーターとして必要な能力を高めるために、3名の若手コーディネーターを配置し、座学研修(Off JT)と、メンターとなる統括コーディネーターと共に現場の業務に携わる実践研修（OJT）の両輪で実施した。また、フィールドワークとして先進地視察等も実施した。

【研修概要】

項目	目的	内容		講師	実施時期
OffJT	国内外の産学官連携の先進事例を講師を招聘して学ぶ。	先進事例研修	コーディネート活動に必要となる基礎的知識を先進事例の中から習得する。 ※本書2-4と連動して実施。p.26-p.35参照。	招聘	9月～1月（全5回）
	コーディネートに関する知識やスキルをOJTのフィードバックを行いながら習得する	定例ミーティング	毎週1時間の研修時間を設け、OJTにおけるコーディネート活動のフィードバックを基に、随時必要となるコーディネートスキル・プロジェクトマネジメント力の向上や知識習得のための研修を行った。	プロジェクトマネージャー・統括コーディネーター	通年 毎週火曜日9:00-10:00
		中間振り返り	事業の中間振り返り研修を行い、事業の目的・目標の共有、コーディネーター活動における成果と課題の共有、今後の活動における改善計画の共有などを行った。	統括コーディネーター	10/30 3/17
OJT	産学官連携コーディネーターに必要なスキルを実践をものに習得する	ヒアリング	自治体・大学シーズ・企業等のヒアリングを行った。	プロジェクトマネージャー・統括コーディネーター	通年
		マッチング	自治体の抱える課題を分析し、大学シーズ等を情報収集・ヒアリングの上、適切なマッチングを行った。		
		ワーキンググループ運営	担当するワーキンググループの立ち上げ、フォロー、運営を行う。開設される講義「企業(地域・企業等)のお題解決プログラム」と連動するため、学生コーディネートを行った。		
フィールドワーク	県内外の産学官連携・地域連携の先進事例について知る	先進事例収集	・　県内で行われるフォーラムや研修会等に参加し、産学官連携のコーディネート方法や先進事例について情報収集を行う。	-	通年
		先進地視察	特定非営利活動法人大学コンソーシアムやまなしの視察を行い、クラウドファンディング機能を活用した大学と地域活性の連携取組について学修を行った。	大学コンソーシアムやまなし	12/16
			公益財団法人大学コンソーシアム京都が開催する「高大連携教育フォーラム」に参加し、	大学コンソーシアム京都	3/４・５

			大学の地域連携等における課題等について学修を行った。		
			高知県にて行われた「全国ネットワーク化事業H29年度COC/COC＋全国シンポジウム」に参加し、全国の大学等の行う地域連携事業についての学修を行った。	全国ネットワーク化事業	3/2・3
			三重大学および高等教育コンソーシアムみえの視察を行い、大学と地域企業との協働の産業活性について学修した。	西村（三重大学副学長）	3/15
		企業意識調査	ベンチャーマーケットにおいて参加企業へのニーズ調査を実施することにより産学連携における企業の意識について学修した。		12/12・13



▲定例ミーティング



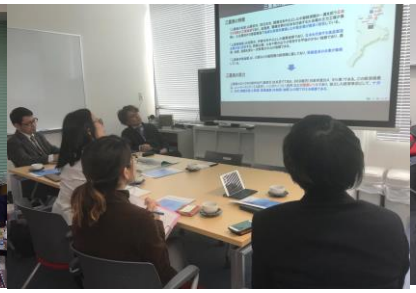
▲中間振り返り



▲ヒアリング



▲インターンコーディネート



▲先進事例研修



▲先進地視察

大学・企業交流会の開催

- 10月に開催される「沖縄の産業まつり」の出展に向けて、関係機関との調整を行い、大学コンソーシアム沖縄としてどのような展示を行うか検討を行っていたが、台風により中止のため出展を見送った。
- 12月に開催される「オキナワベンチャーマーケット（万国津梁大異業種交流会）」について事務局との調整を行い、大学コンソーシアム沖縄の紹介、企業ニーズの調査、あいのり企画として研修会の同時開催を行った。
    - 2日間で多く方々が来場したブースにて。県内11研究機関の周知を行い、他のブース出展企業団体や来場者への産学連携に対する意識調査に取り組んだ。



3-3 実践的インターン送出

- 立ち上がったそれぞれの地域課題ソリューションワーキンググループでは、PBL(Problem Based Learning 型及びCBL（Community Based Learning）型のアクティブ・ラーニングに取り組むため、学生も主体的に参加できる実践的なインターンシッププログラムを提供した。
- 今年度は、琉球大学の共通教育等科目に「地域企業（自治体）お題解決プログラム」として講義を開し、大学コンソーシアム加盟大学の学生も受講可とした。
- 琉球大学・沖縄国際大学から計○名の学生が受講し、6つのチームに分かれ、それぞれの課題に取り組み各自治体の課題の抽出・フィールドワーク・調査を経て、企画提案を行った。

【講義シラバス】

＊科目番号	総40		
＊開講年度	＊期間	＊曜日時限	＊開講学部等
2017	後学期	火曜日5限	共通教育等科目総合科目
＊講義コード	＊科目名(英文名)		＊単位数
	地域企業(自治体）お題解決プログラム２（Community Based Learning）		2
＊担当教員	松本剛、宮里大八、翁長有希		

＊授業内容と方法
本講義は、県内市町村(自治体)で行われる課題解決プロジェクトにインターンとして参加し、実際に課題解決にむけて活動することで、これからの社会に求められる社会人基礎力やキャリア観の醸成を図るものである。 人口減少や少子高齢化等に伴いこれからの社会は大きく変化する。その社会変化は「未だかつて日本が経験をしたことがない未曽有の時代」とも表現され、これからは企業や自治体もその未曽有の様々な課題に対応しながら存続や生き残りをかけていかなければいけない。企業においても、今後は益々地域社会との結びつきが求められるようになってくると予想される。そのような中では当然のことながら、人材に求められる能力や資質も変わり、いかに変化の中で課題を見つけ、多様な人材を結びつけながら解決に向けた行動ができるかということがこれまで以上に求められてくる。 本講義では、県内市町村が実際に取り組む3つの課題解決のためのプロジェクトから1テーマを選び、長期インターンとして活動することで、これからの社会に求められる次世代を担うリーダーとして意識や課題発見力・課題解決力を育むことを狙いとする。 講義は、選択したプロジェクト(テーマ)に関わる自治体・企業・学校・コーディネーターなどと共に活動し、課題解決を行う実践と、課題解決等についての知識や情報を得るための座学を組み合わせて行う。本学のみならず、大学コンソーシアム沖縄との連携を図り、県内の他大学とも連携をしながら実施する講義である。 ［プロジェクト例］(9月現在調整中) ○水循環プロジェクト

「地域の水資源への関心の向上」に向けたプロジェクトへ参加。具体的には八重瀬町をフィールドとして、理学部・農学部教授の主導のもと、自治体や教育関係者に向けたワークショップ、意見交換会等を企画・運営し、教育プログラムの開発等に取り組む。

○沖縄市プロジェクト

商店街活性、子育て支援等の沖縄市におけるプロジェクトへ参加。プロジェクトを通し、企画(イベント等)立案、プロジェクトマネジメントを演習し、行政、各団体、企業と連携しながら、地域活性を実践していく。

○今帰仁村地域拠点構築プロジェクト

今帰仁村にて実施するコミュニティづくりのプロジェクトへの参加。米国オレゴン州ポートランドのコミュニティづくりを行うプロフェショナル人材と連携し、地域づくりの担い手となるリーダーの養成、地域の様々なステークホルダーを連携するファシリテート能力の構築を学修する。

＊達成目標

1．地域の課題を発見し、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【自律性、社会性、地域・国際性】
2．課題の原因が何かを分析することができ、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【自律性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力】
3．分析結果をもとに、課題を解決するための、実現性が高く効果的な行動計画をたて、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【自律性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力】
4．地域の課題解決に関わる他者と積極的にコミュニケーションを取り、課題解決における自分の役割を認識し、取り組むことができる。【自律性、コミュニケーション・スキル、問題解決力】
5．行動計画を実行し、改善を繰り返しながら問題解決に向けて取り組み、その結果を口頭・文章で明確に表現することができる。【問題解決力】

＊評価基準と評価方法

1．授業中のディスカッションへの参加度、毎回の授業の最後の振り返りシート（相手の意見に耳を傾けているか、自分の意見を言えるか）(70%)
2．プレゼンテーションとレポート（授業で経験したことや成果をまとめ、発信できるか）(30%)

＊履修条件

1．学外の活動に積極的に参加し、課題発見力・課題解決力を身につけようという意欲があること。学部・学科は問わない。

＊授業計画

①10/3　オリエンテーション
②10/10　地域による「テーマ」のプレゼン・チーム編成（課題毎の3チーム編成）
③10/17 地域における実践活動 (課題抽出と分析)
④10/24 地域における実践活動 (課題抽出と分析)
⑤10/31 地域における実践活動 (課題抽出と分析)
⑥11/7　中間プレゼンテーション①・課題解決策の検討と各自の役割について確認
⑦11/14 地域における実践活動 (課題解決に向けた活動)
⑧11/21 地域における実践活動 (課題解決に向けた活動)
⑨11/28 地域における実践活動 (課題解決に向けた活動)

⑩12/5　中間プレゼンテーション②・課題解決に向けた活動の進捗と成果
⑪12/12 地域における実践活動 (課題解決に対する新規提案作成)
⑫12/19 地域における実践活動 (課題解決に対する新規提案作成)
⑬1/16　各テーマにおける活動の振り返り・最終プレゼンテーション準備
⑭1/23　最終プレゼンテーション
⑮1/30　まとめ
※各自が取り組みテーマによって指定日時以外にも活動に取り組む可能性があります。

＊事前学習
該当する地域について、その事業内容等を予め調べるとともに、問題の背景についても資料やWebなどで事前に把握しておくこと。
＊事後学習
講義日以外についても、チーム内で学習、情報交換等を積極的に行い、特に授業時に未解決の問題については翌週までに解決させておく。
＊教科書に関わる情報
指定しない
＊教科書全体備考
指定しない
＊参考書にかかわる情報
指定しない
＊参考書全体備考
必要に応じて紹介・配布する
＊使用言語
日本語
＊メッセージ
授業を欠席する場合は、必ず事前に（やむを得ない場合は事後速やかに）欠席届を提出すること。この授業については、メールによる欠席届も受付ける。 無届欠席が５コマ相当以上の者には単位を認定しない。届出欠席については、相応の理由がある場合は出席扱いとするが、出席点はゼロとする。
＊オフィスアワー
在室中は常時面談可。場所は地域国際学習センター3階305。授業時間など不在時間帯については、下記メールアドレス宛問合せも可。
＊メールアドレス
daiya@lab.u-ryukyu.ac.jp
＊URL

【講義の様子】



▲オリエンテーション



▲自治体プレゼンテーション



▲自治体関係者ヒアリング



▲チームビルディング



▲課題分析



▲企画作成



▲フィールドワーク

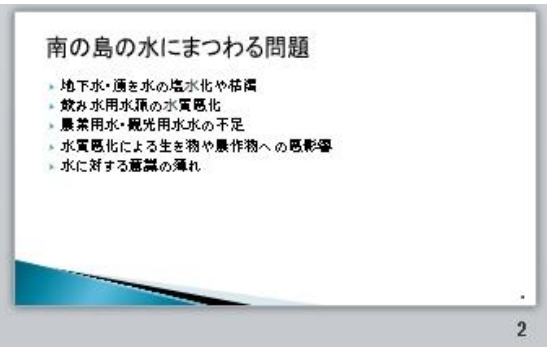


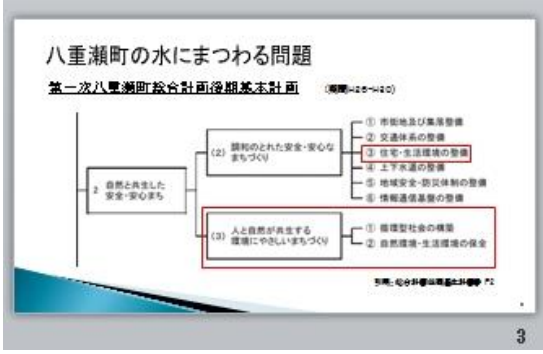
▲フィールドワーク

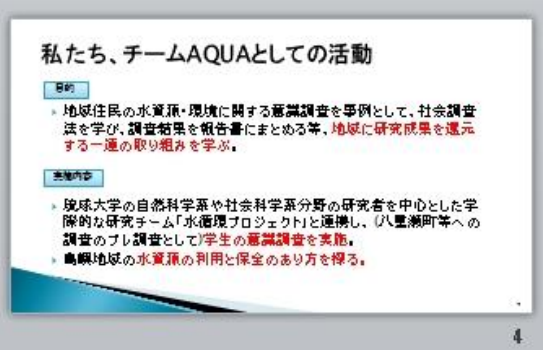


▲企画提案

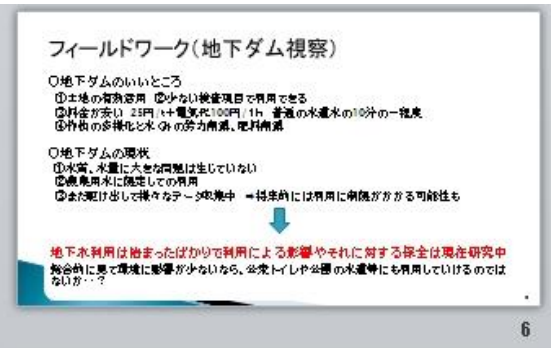

地域企業（自治体）お題解決プログラム
チーム名：AQUA
テーマ「沖縄県の水問題」
自治体「八重瀬町」
1

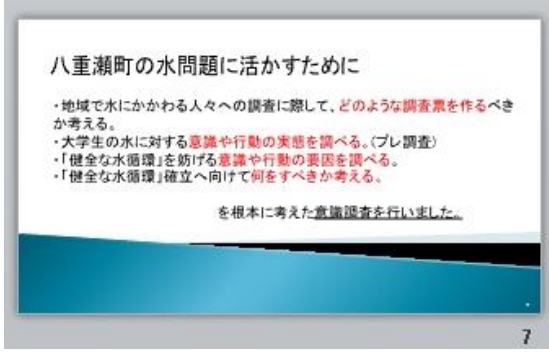

南の島の水にまつわる問題
地下水・湧き水の塩水化や枯渇
飲み水用水源の水質悪化
農業用水・観光用水水の不足
水質悪化による生き物や農作物への悪影響
水に対する意識の薄れ
2


八重瀬町の水にまつわる問題
第一次八重瀬町総合計画後期基本計画
3

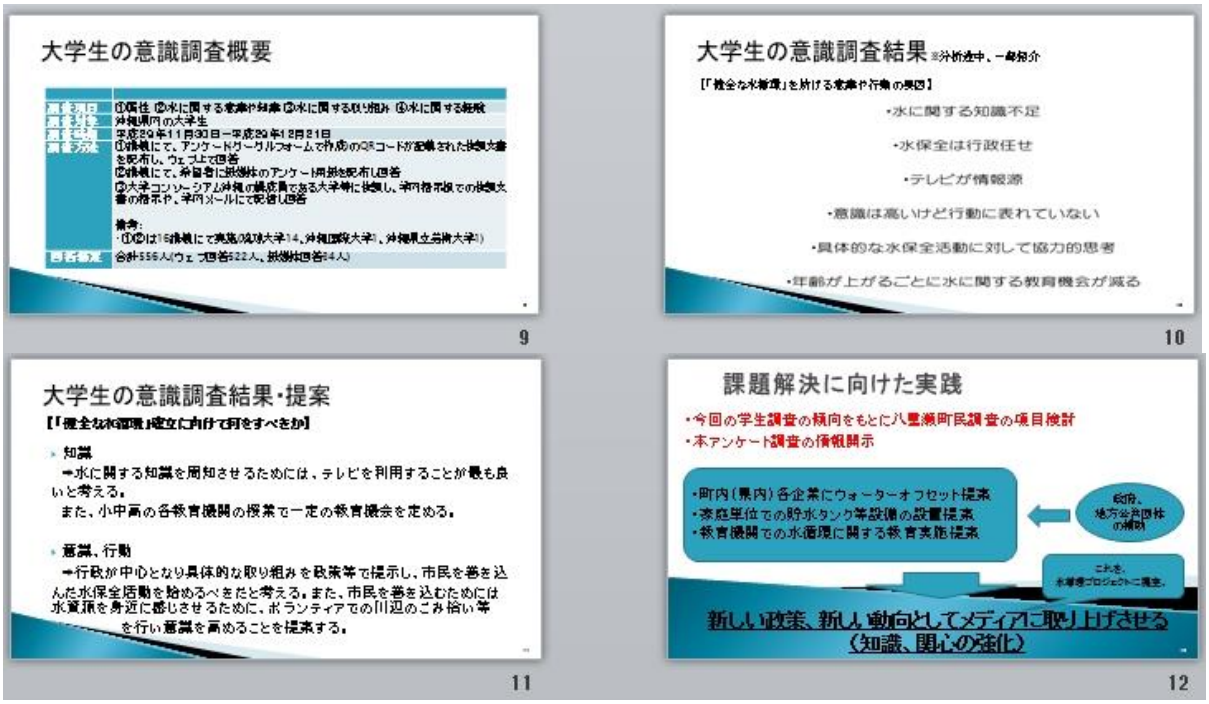

私たち、チームAQUAとしての活動
目的
地域住民の水資源・環境に関する意識調査を事例として、社会調査法を学び、調査結果を報告書にまとめる等、地域に研究成果を還元する一連の取り組みを学ぶ。
実施内容
琉球大学の自然科学系や社会科学系分野の研究者を中心とした学際的な研究チーム「水循環プロジェクト」と連携し、（八重瀬町等への調査のプレ調査として）学生の意識調査を実施。
島嶼地域の水資源の利用と保全のあり方を探る。
4


フィールドワーク（地下ダム視察）
場所名：米須ダム・長座ダム　ガイド：沖縄南部土地改良区　摺元氏
5


フィールドワーク（地下ダム視察）
○地下ダムのいいところ
①土地の有効活用　②少ない検査項目で利用できる
③料金が安い　25円/t＋電気代100円/1h　普通の水道水の10分の一程度
④作物の多様化と水Gの労力削減、肥料削減
○地下ダムの現状
①水質、水量に大きな問題は生じていない
②農業用水に限定しての利用
③また駆け出して様々なデータ収集中　⇒将来的には利用に制限がかかる可能性も
地下水利用は始まったばかりで利用による影響やそれに対する保全は現在研究中
総合的に見て環境に影響が少ないなら、公衆トイレや公園の水道等にも利用していけるのではないか・・？
6


八重瀬町の水問題に活かすために
・地域で水にかかわる人々への調査に際して、どのような調査票を作るべきか考える。
・大学生の水に対する意識や行動の実態を調べる。（プレ調査）
・「健全な水循環」を妨げる意識や行動の要因を調べる。
・「健全な水循環」確立へ向けて何をすべきか考える。
を根本に考えた意識調査を行いました。
7


大学生の意識調査 実施プロセス
8


大学生の意識調査概要
調査項目
①属性 ②水に関する意識や結果 ③水に関する取り組み ④水に関する経験
調査対象
沖縄県内の大学生
調査期間
平成29年11月30日～平成29年12月21日
調査方法
①講義にて、アンケートグーグルフォームで作成のQRコードが配布された授業支援を配布し、ウェブ上で回答
②講義にて、希望者に紙媒体のアンケート用紙を配布し回答
③大学コンソーシアム沖縄の構成員である大学等に依頼し、学内掲示板での授業支援の掲示や、学内メールにて配信し回答
備考：
・①②は15講義にて実施(琉球大学14、沖縄国際大学1、沖縄県立芸術大学1)
サンプル
合計556人(ウェブ回答522人、紙媒体回答34人)
9
大学生の意識調査結果 ※分析途中、一部紹介
【「健全な水循環」を妨げる意識や行動の要因】
・水に関する知識不足
・水保全は行政任せ
・テレビが情報源
・意識は高いけど行動に表れていない
・具体的な水保全活動に対して協力的思考
・年齢が上がるごとに水に関する教育機会が減る
10
大学生の意識調査結果・提案
【「健全な水循環」確立に向けて何をすべきか】
知識
➡水に関する知識を周知させるためには、テレビを利用することが最も良いと考える。
また、小中高の各教育機関の授業で一定の教育機会を定める。
意識、行動
➡行政が中心となり具体的な取り組みを政策等で提示し、市民を巻き込んだ水保全活動を始めるべきだと考える。また、市民を巻き込むためには水資源を身近に感じさせるために、ボランティアでの川辺のごみ拾い等
を行い意識を高めることを提案する。
11
課題解決に向けた実践
・今回の学生調査の傾向をもとに八重瀬町民調査の項目検討
・本アンケート調査の情報開示
・町内(県内)各企業にウォーターオフセット提案
・家庭単位での貯水タンク等設備の設置提案
・教育機関での水循環に関する教育実施提案
政府、
地方公共団体
の補助
これを、
水環境プロジェクトに提案。
新しい政策、新しい動向としてメディアに取り上げさせる
(知識、関心の強化)
12


＃コザに恋してプロジェクト
地域企業（自治体）お題解決プログラム
チーム名：パワーツーリズムガールズ
メンバー：喜納舞香・天願優気
生盛舞花・金谷和希
1
アウトライン
1．沖縄市の現状
2．活動　・インスタグラム
・ポスター作成
・クラウドファンディン
3．沖縄市の未来像
2
文献調査
沖縄市の現状
3
若者に聞き取り調査
・興味がない
・知らない
・怖い
・治安が悪い
4
ヒアリング・フィールドワーク
熱盛
5
もっと魅力を知らせたい！
love with KOZA
6
＃コザに恋して
7
Instagramの活用
ターゲット
若い女子大学生
Instagramの特徴
・お洒落
・若い世代の利用
・シェア
・検索機能
8

NOW
例）・ブロガー
・ユーチューバー
・インスタグラマー



Okinawa_holic
#ハッシュタグ



おうち！
・インフルエンサー効果
・拡散
・知名度アップ

9

ポスターを作りたい！！

10

ポスターから得る
学生への直接期待できる効果

・コザの存在を知るきっかけに！

・Instagramの認知

・コザに訪れるきっかけに！！

11

ポスターから得る
Instagramの効果



・QRコードをのせる

→Instagramの波及へ

12

BUT

13



ポスター作りのお金がない



14

そこで、、

クラウドファンディング

15

クラウドファンディング開始

・期間　１月15日～2月15日

・活動内容

・目標





16

今後の活動

・3月　ポスター作成

・4月　ポスター配布、
支援者様へのお礼



17

私たちが考えるこれからの沖縄市

・若者があふれる街

・昔のにぎわいを取り戻したい

・地域の人と若者の交流

・コザの知名度＆イメージ アップ



18

子ども食堂@沖縄市

チームW@Y

1



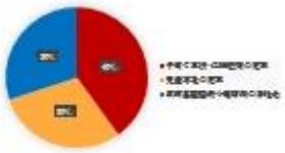
2

チーム理念

子どもたちが
ググりたくなるような
価値の提供

3

沖縄市の現状①
ー人口ビジョンよりー
沖縄市のまちづくりに期待すること



4

沖縄市の現状②
~人口ビジョンより~



5

「子どものまち」宣言
子どもたちに優しく、安心した子育てのために、
子どもたちが夢に向かって元気にたくましく育つ
環境づくり

6

結果

沖縄市では子ども支援に力を入れており、
これからもより多くの取り組みをしていく

子ども食堂に対する支援や活動は
沖縄市において重要

7

フィールドワーク
@ゆがふ子どもサロン



8

得たこと

〇子どもたちのニーズ
・モノづくりが好き
　一企画すると喜んでくれる
・バスケットボールなど体を動かす遊びが好き

〇ゆがふ子どもサロンさんのニーズ
・一緒にゆってくれたり、
　バスケットボールなど教えてくれる人が
　いると嬉しい

9

将来の夢

<中学生・男子>

1位/IT(24%)
2位/ゲームクリエイター(20%)
3位/YouTuberなどの動画投稿者(17%)
4位/プロスポーツ選手(16%)
5位/ものづくりエンジニア(13%)
※自動車の設計や開発など

<中学生・女子>

1位/歌手・俳優・声優などの芸能人(19%)
2位/(18%)
※漫画家・イラストレーター・アニメーター
3位/医師(13%)

10

スポーツ大会

モノづくり

11

前提

私たちが行うのは「**提案**」

実施・運営はチームとして
サポートします。
どんな企画が子どもたちにとっていいのか
一緒に考えさせていただきます！

12

スポーツ大会

～講師：澤岻安史さんとのコラボ～

琉球ゴールデンキングス選手として活躍。
現役引退後は『たくし学園』を立ち上げ、
子供から大人までバスケットのみならず
スポーツのクリニックを開催している。

今回はスケジュールが合わず、実施不可。

13

モノづくり

概要

①ペットボトル工作
②お花で工作
③プログラミング体験

14

①ペットボトル工作



ペットボトルなどの廃材でモノづくり

○子ども食堂からの要望
○何かを作るという体験を通して創造力や
　発想力を育てたい
→ロケットやペン立て、ミニ水族館など

15

②お花で工作



お花を使ったあそび

○自然を取り入れた遊びを行う
○何かを作るという体験を通して創造力や
　発想力を育てたい
→お花で色水を作る、ドレス、押し花

16

③プログラミング体験



子ども向けプログラミングサイトを
使ったあそび
○今まで実施されていない取り組み
○楽しく簡単にプログラミングで
　思考力や創造力を育てたい
→「スクラッチ」を利用した体験

17

まとめ

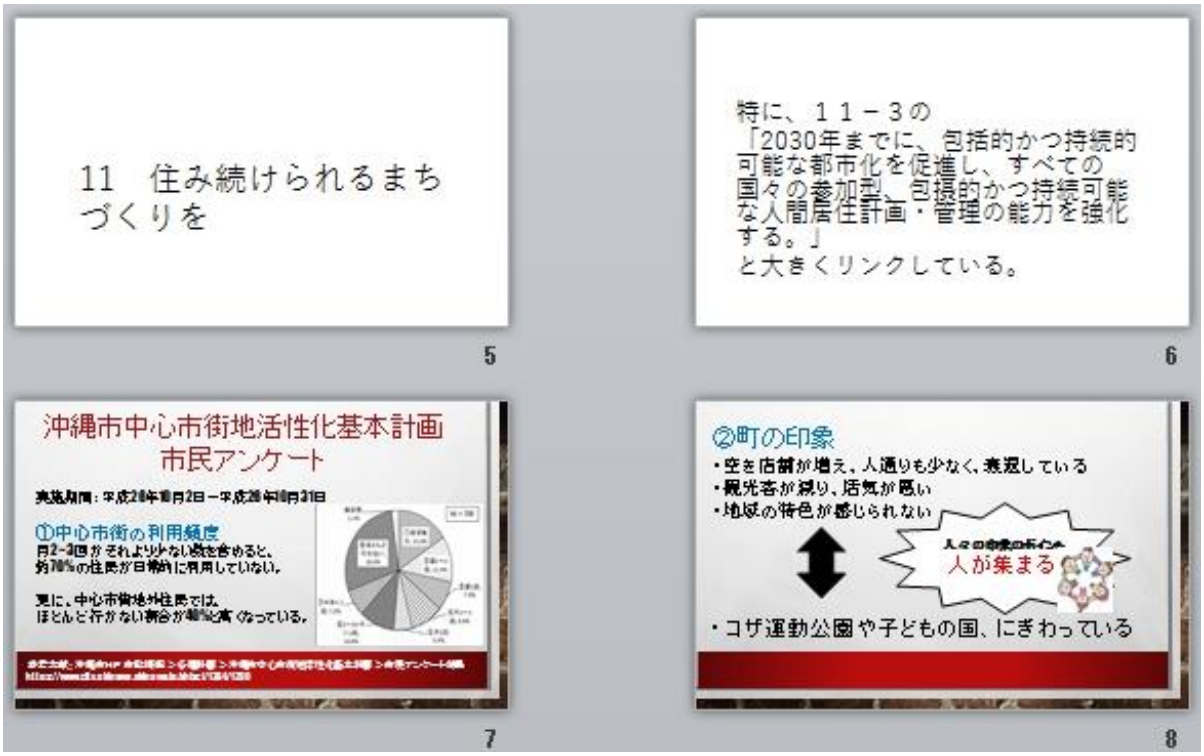
提案しながら、
大学生ならではのサポートしていく

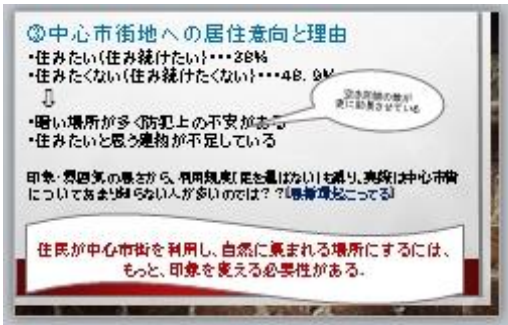
・人と人を繋ぐ
・キャリア教育なども活用



18


沖縄市リノベーション
照屋慎太郎　長浜満乃　山内梨花野
1
リノベ提案概要
ターゲット：沖縄の若者
沖縄市の住民【特に中心市街地外住民】
内容：簡易なお菓子と飲み物
沖縄市【パークアベニューとその近辺】限定のfood & drink
【飲食店紹介のパンフ置く】
目的：たまり場になれる場所づくり【人が自然と集まれる】
住民に中心市街への印象を変えてもらう
2
まち・ひと・しごと総合戦略
《基本目標3：沖縄市へ新しい人の流れをつくる》
施策1、まちの魅力発信
（4）中心市街地の活性化
主な取り組み内容
・店舗改装等の支援
・空き店舗の有効活用と魅力ある店舗の創出etc
3
SDG s （持続可能な開発目標）
4

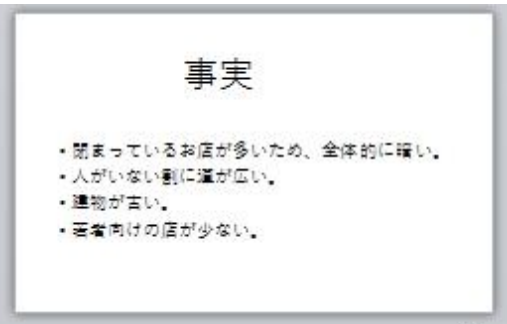

11　住み続けられるまちづくりを
5
特に、１１－３の
「2030年までに、包括的かつ持続的可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。」
と大きくリンクしている。
6
沖縄市中心市街地活性化基本計画
市民アンケート
実施期間：平成28年10月2日－平成28年10月31日
①中心市街の利用頻度
月2~3回がそれより少ない数を含めると、
約70%の住民が日常的に利用していない。
更に、中心市街地外住民では、
ほとんど行かない割合が約%と高くなっている。
7
②町の印象
・空き店舗が増え、人通りも少なく、衰退している
・観光客が減り、活気が悪い
・地域の特色が感じられない
人が集まる
・コザ運動公園や子どもの国、にぎわっている
8



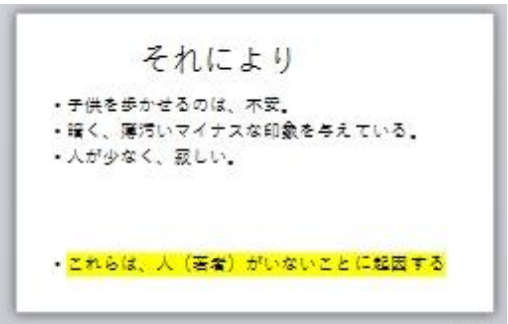
9



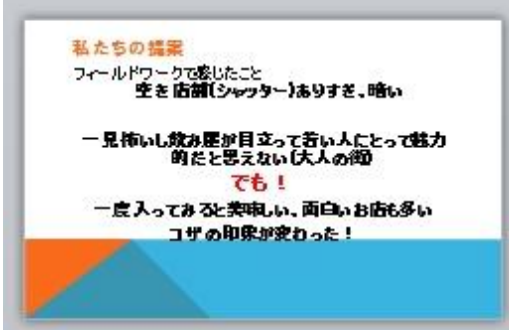
10



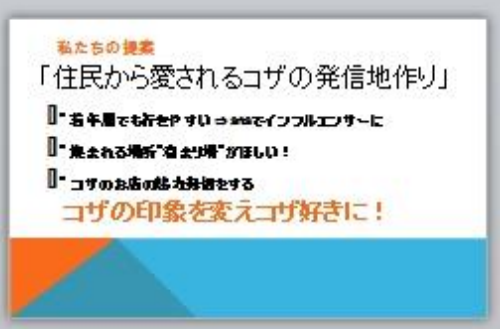
11



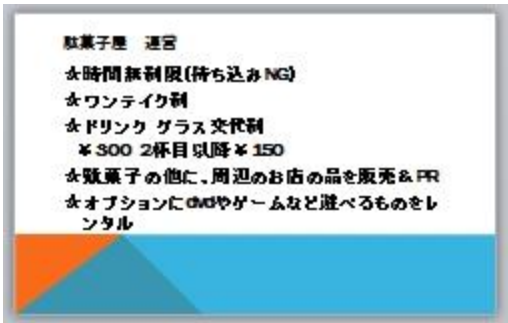
12



13



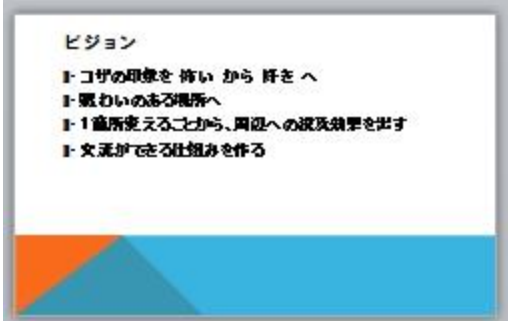
14



15



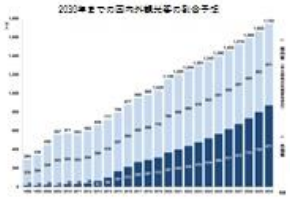
16



17


糸満市活性化計画
～古民家再生～
いとまんちゃ～
滝田まな　間屋安莉　栗原加奈　金城翔
1
2
人口ビジョン・まち・ひと・しごと総合戦略②
・糸満市の人口… 総数61,147人
男性30,889人 /女性30,258人
・面積… 47㎢
・仕事↓
第三次産業の減少！！！
3
人口ビジョン・まち・ひと・しごと総合戦略③
◆糸満市の強み
・観光資源が多い
例)平和記念公園 うまんちゅ市場 美々ビーチ 竜照苑
・昔からの伝統行事が残っている　例)糸満大綱引き 糸満ハーレー
・お年寄りも多いけど子供の数も多い
◆糸満市の弱み
・観光資源を活かした産業が出来ていない。
・若い世代の人々の観光振興意識が未熟
4
ヒアリング
OCVBさんとの対談を通して…
・古民家を使うことは話題性を持っていい効果
大切！
どのように宣伝していくか？
各国の人の好みを考えるべき
・地域性がある体験教室
地域の人との協力
5
課題抽出
「糸満市の第三次産業を盛り上げよう」
大切！
どのように宣伝していくか？
各国の人の好みを考えるべき
地域の人との協力
6
沖縄観光資料データ１
平均滞在日数　リピーター率
国内観光客　3.78(日)　84.80%
外国人観光客　3.89(日)　84.20%
7
沖縄観光資料データ２
OCVB入域観光者数（予測）
観光業の競争が激しくなる
8

沖縄観光資料データ３



・2030年には観光客数が国内・国外で集合ずつに
一貫課対応など外国人受け入れの対応に迫められると予想

・2019年から2020年の間が大事！！
一東京オリンピックが開催？
一東京だけでなく全国に観光客が増えると予想されている。

着地型観光のチャンス

9

「持続可能な開発目標（SDGs）」とのリンク

・「古民家」という既存の資源を活用し
地域活性化に繋がる案を考えている点

着地型観光

10

フィールドワーク

(1) 首里周辺にある古民家を利用したお店の見学

(2) 糸満市の現地調査
・糸満市海人工房・資料館見学
・糸満市の雰囲気を知る為の散策

(3) OCVBさんとの対談

11



12

課題解決案 詳細「古民家で体験教室」

①三線の弾き語り体験

糸満市で活動する三線愛好会
との協力での体験は可能か？
→地域との協力

②ムーチー作り体験

沖縄では旧暦の12月24日にムーチーを食べる
しかしまだ観光客に知れ渡っていない
沖縄のソウルフード！！
→新商品

学生を雇用

13

課題解決に向けた実践

14



15

②実際にムーチー作りの体験

現在、糸満市にある
食工房まほろばさんとの
コラボ企画を計画中









16



17

目星をつけてる古民家

ふるさと公園にある最も古民家



18


恋活！
チームハイビスカス
1
企画理由
若者の出会いを創造する
今帰仁村人口ビジョン・総合戦略より
2
SDGsとの関連・今帰仁村の課題
3
アンケート結果①
1.婚活イベントを行う際、どのようなアクティビティ（プログラム）を行いたいですか？【複数選択可】
4
アンケート結果②
4.年代をお伺いします。
5
アンケート結果③
5.在住の市町村を教えてください
6
企画概要
タイムテーブル***
7
イベント情報
開催日程：2018年2月20日
開催場所：今帰仁村 あいあいファーム
参加人数：20～30人（男女均等）
8


今帰仁村でのフィールドワーク
自然
あいあいファーム
ハートロック
9
情報の発信
10


コミュニティー
スペースの活用
メンバー：[illegible]
新屋敷　上原忠都美　長浜浩乃
1
集客からの選客
私たちができること・・・
2
①イルミネーション（集客）
まずは場所と名前を知ってもらう！
②個展・美術展・見本市
（集客　兼　選客）
ターゲットを絞り始める
③②によるリピーター
3
イルミネーションによる集客
4
5
顧客（ターゲット）
・外国人
（特に中国・台湾などのアジア地域）
・県内外の若い人びと
（インフルエンサーになってもらう）
運天地区の知名度を上げてもらう
6
予算
・松の木計７０本(１本あたりLED１５００球)【総球数】
・約105,000球(10万5千球)【施工金額】
・約１０００万円
※あくまでも目安ですので、デザイン科やロケーションなどの施工状況により異なる場合もございます。
【使用商品】
・100球ストレートライト１０５０個（1本１５個×７０本分）　電源コントローラ１４０個（1本２個×７０本分）
7
キーパートナー（キーソース）
・今帰仁村役場、今帰仁観光協会
一括交付金、その他補助金
・大鏡建設
場所の提供、広告、共同で設営計画
・その他企業（周辺企業）
設営、支援・資本金
8

個展かつ見本市による選客



9

顧客（ターゲット）

•海外の富裕層
（中国、台湾等のアジア地域）

⇩

選客につなげる

10

キーパートナー

・今帰仁村役場、今帰仁観光協会
ー括交付金、その他補助金
•今帰仁住民
ー民芸品の提供（売り手）

11

チャネル

・ＳＮＳ（Twitter,Instagram,etc）
・タクシー会社、レンタカー会社に
広告を掲載してもらう
・空港のお土産屋さんなどの店舗に
広告（チラシ等）を置いてもらう
・役所へのコンタクト（交付金）

12

与える価値

感動・発見（今帰仁の良さ）・癒し

今帰仁の自然、人の温かさ、

13

【講義の成果】

「アーバンデータチャレンジ（UDC）」は、地域課題の解決を目的に、地方自治体を中心とする公共データを活用した年間のイベント開催を伴う一般参加型コンテストである。2017年度は40の地域拠点（都道府県ブロック）を活動の核としながら、地理空間情報の流通や利活用を日本各地でさらに促進している。

今回の講義にて構築した「地域課題ソリューションワーキンググループ」の成果を、2018年2月に東京大学で開催されたUDC2017にエントリーしたところ、見事にUDC2017ベスト地域拠点賞の「地域拠点新人賞」として、沖縄ブロックが表彰された。

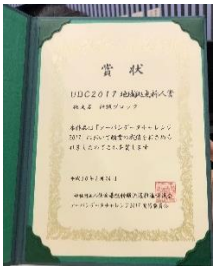
審査員の関本義秀氏（東京大学生産技術研究所准教授／AIGID代表理事／UDC実行委員長）からは、以下のようなコメントをいただいている。

『地域拠点賞は昨年度から始まったものですが、今年で二回目です。この賞は、①主催・共催等の意味で産官学民の多機関連携がどれくらいできているか、②複数の自治体という意味で地域展開がどれくらいできているか、③UDCの名前がタイトルから読み取れるようなイベントを何回開催したか、④地域拠点の活動関連で作品応募がどれくらいできたか、⑤一次審査を通過した作品がどれくらいあったか、⑥その他、活動における創意工夫がどれくらいあったかなどが評価項目となっています。　（中略）

まだまだ、評価方法については、手探りの状態ではありますが、感覚的には一年間頑張った地域拠点が、概ね点数に表れているような気がしています。その結果、今年は上位はかなり混戦でしたが、地域拠点賞は長野で、新人賞は沖縄と福井のダブル受賞となりました。

また、新人賞の沖縄と福井は初年度にも関わらず、拠点賞にも肩を並べるくらいの活動でした。とくに沖縄は沖縄市、糸満市、八重瀬町、今帰仁村などへの展開や、8つの作品応募など、特筆すべき点です。また、福井も坂井市、敦賀市、小浜市、美浜町、高浜町、おおい町、若狭町など拠点中、最多の自治体に展開していた点が評価されます。

地域拠点の活動はこうした評価項目によって決して縛られるべきではなく、自由かつオリジナリティの高い活動を、今後も続けて欲しいと思っていますが、長く続けると色々な悩みが出て、時に活動が停滞する事もあろうかと思います。そんな時に事務局側からも機動的に支援できるためのエビデンスとして、ポジティブなコミュニケーションをしていきたいと思います。』







第4章 その他の取り組み

4-1 高等教育機関への活動報告

- 沖縄産学官イノベーション創出協議会が主催する「沖縄産学官イノベーションフォーラム2017」が8月31日に開催され、県内大学のシーズ及び企業の共同研究の状況を把握し、交流会で人的ネットワークを構築した。
- 大学コンソーシアム沖縄の事務局である各大学窓口に連絡を行い、現状の報告を行っている。また、10月7日、8日に開催された「全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」に参加し、全国の大学コンソーシアムの活動状況を情報収集した。
- 2月21日大学コンソーシアム沖縄運営委員会にて、事業進捗の報告、次年度以降の連携についての共有を行った。

4-2 必要に応じた県内高等教育機関との連絡調整

- 大学コンソーシアム沖縄の各高等教育機関の窓口を通して、プロジェクトの実施及び研究シーズのヒアリングなどの連絡調整を行っている。
- Webページについては、大学コンソーシアム沖縄のホームページに本事業のページを立ち上げた。併せて、Facebookページを立ち上げて広報活動に取り組み、情報発信を随時行っている。
- 本事業のリーフレットを作成し、県内高等教育機関への事業概要の周知を行った。

【ホームページ】http://consortium-okinawa.or.jp/iicsn/





【フェイスブック】 ［CONSORTIUM-OKINAWA］で検索





【リーフレット】中面



第5章 総括

5-1 本事業における成果

本事業は、知的・産業クラスターの発展に向け、地域課題を解決するワーキンググループを立ち上げ、地域連携コーディネーターによる県内大学研究者等と地域の連携(産学連携)を促進することを目的としている。

本事業では、大学コンソーシアム沖縄と琉球大学が連携したコーディネート機能強化に取り組み、地域連携コーディネーターを中心に、県内大学が有する「知」を活用した地域課題解決に向けて取り組みを行った。県内大学研究者及び学生等と地域(市町村・企業等)の連携による地域課題解決を検討するワーキンググループを立ち上げ、県内大学研究者等と地域の産学官民連携を促進することで、地域振興への貢献を目指した。また、事業の実施にあたっては、複数の大学間・異分野研究者間の連携を促進し、複雑な地域課題に対する総合的な解決に向けた取り組みを実施した。

地域ニーズを把握するため、沖縄の41市町村に対して、訪問およびテレビ会議等におけるヒアリングを実施し、その結果のヒアリングシートを作成しWebによるアンケート調査も実施した。また、アンケート調査の項目について洗い出しを行い、「地域・企業ニーズ調査（大学との連携について）」のアンケートフォームを作成した。その後、12月12、13日に開催されたオキナワベンチャーマーケットにてアンケートを実施し、沖縄県内の企業から106件の回答を得られた。

シーズ調査について共通のフォーマットにて調査を実施するため、産学官連携の関係機関との調整を行った。その後、大学コンソーシアム沖縄の11のすべての大学を訪問し、各大学の研究者ヒアリングによるシーズ調査を実施した。

地域ニーズと研究者シーズとのマッチングにより、10の地域課題ソリューションのワーキンググループが立ち上がり、水環境、観光振興、子どもの貧困、空き店舗対策、地域拠点づくり、若者の移住定住、子どもの教育支援等の沖縄の様々な課題に対して取り組みを実施した。ワーキンググループの特徴的な活動としては、学生が主体的に活動できる実践的インターン創出を促し、琉球大学共通教育科目において地域（自治体）の課題に対してのソリューションの提案、さらには実践を実施したことである。その活動した「地域課題ソリューションワーキンググループ」の成果を、2018年2月に東京大学で開催されたUDC2017にエントリーしたところ、UDC2017ベスト地域拠点賞の「地域拠点新人賞」として、沖縄ブロックが表彰されたのは、本事業の大きな成果である。

5-2 本事業における課題と展望

沖縄県では知的・産業クラスターの形成に向けて各種事業に取り組んでおり、地域における様々な課題に対して産学官民連携による課題解決（ソリューション）が求められている。沖縄県が策定した「沖縄21世紀ビジョン」には、産業間連携の強化や科学技術と産業界を仲介するコーディネート機能及びコーディネーターの配置が必要とされており、多様化・複雑化する地域課題に対してその役割は益々高まっている。

一方、41自治体すべてのヒアリング及びアンケートを行った結果から沖縄県内の多くの自治体では、コーディネート機能やコーディネーター的な役割を担う人材が求められているにも関わらず、それらに対応できる機関や人材が不足している状況である。自治体のみならず、沖縄県内の高等教育機関等においても、地域連携を担うコーディネーターが少ない状況であり、コーディネート機能の強化やコーディネーターの配置及び人材の育成が急務となっている。

平成29年度の本事業の成果を生み出し、大学と地域・産業との結びつきを強化できたのも琉球大学に配置した統括コーディネーターと、大学コンソーシアム沖縄に配置した3人の若手地域連携コーディネーターの活躍があったからである。統括コーディネーターは、プロジェクト全体の進捗管理や若手の地域連携コーディネーターの育成に取り組み、若手地域連携コーディネーターは地域連携を実施するためマルチステークホルダーの橋渡しや学生が地域で活動する実践的インターン送出のサポートを行ったからである。

今後も、沖縄における地域課題の解決に向けた取り組みを行うためには、コーディネーター的な担う人材の存在が重要であり、大学等高等教育機関及び公的支援機関、地域(市町村)、産業界とのネットワーク構築に取り組むことが重要である。知的産業クラスター支援ネットワーク強化事業の最終的な目標として、知的・産業クラスターの形成に向けて、地域課題解決のプロセスを明確化し、地域のイノベーションを創出する地域課題解決エコシステムの構築を目指すとされている。地域課題解決に向けたエコシステムを構築するためには、事業の円滑な継続性とコーディネート機関の機能強化、そして何よりも持続的にコーディネート活動ができるコーディネーターの配置と人材の育成が必要である。

今後は、地域課題ソリューションワーキンググループから得られた知見ノウハウを基に、商品・サービスの開発を行い、地域内での展開に取り組み、地域の強みや素材を活かしつつ地域課題ソリューションを提供し、知的・産業クラスターの中核（コア）となる部分を創出することが重要である。最終的な知的・産業クラスターの形成に向けて、課題発見、課題抽出、課題研究、課題検証等の課題解決のプロセスを明確化し、地域のイノベーションを創出するエコシステムを構築することを目指していくことが期待されている。

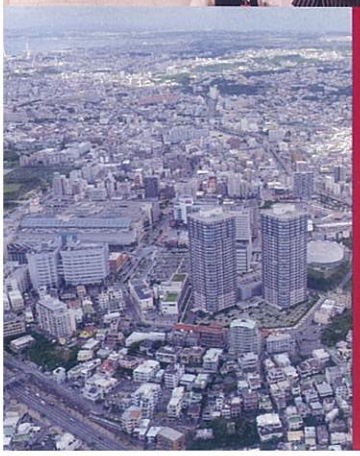
大学コンソーシアム沖縄主催　県民向け公開講座
各大学等のチラシ一覧

１．沖縄大学　　頁

①誤解だらけの沖縄基地−地域の課題とジャーナリズムの役割−　１
②タフな支援者になれますか−沖縄の子どもの貧困、私たちの課題−　２
③イスラエル占領下にあるパレスチナの歴史と現状　３
　・・・そして、日本・沖縄への期待
④タフな支援者になれますか−沖縄の子どもの貧困、私たちの課題−　４
⑤親の子育て、就業と貧困問題−社会的保護の展望−　５
⑥沖縄＆スリランカ　次世代教育について語り合う　６
⑦食から地域を変える～沖縄の地域再生を食から考える～　７
⑧予防医学の要とは・・・現代の医療体制への挑戦　８
⑨いま子どもたちが求める学びとは？−子どもに寄り添う現場から考える−　９
⑩子どもの貧困政策論−これまでをどう評価し、将来に何を求めるのか−　１０
⑪売場の科学　１１
⑫０円キッチン　１２
⑬いのちと仕事　いのちをいただく　１３

２．沖縄県立芸術大学
①沖縄と映像・映画　１４






誤解だらけの沖縄基地

—地域の課題とジャーナリズムの役割—

「基地がないと経済が破綻？」「振興政策で沖縄は優遇されている？」「反対運動は日当制？」など、沖縄をめぐる誤解とデマを検証した、沖縄タイムスの連載「誤解だらけの沖縄基地」が一冊の本になりました。ソーシャル・ネットワークなどで瞬時に情報が世界を駆けめぐる時代になった一方、歴史と事実に基づく真実よりも「うわさ」「デマ」が人びとの認識に強い影響を及ぼす現象も増えています。現場から粘り強く事実を検証する報道、ジャーナリズムの役割が益々重要となっています。今回の沖縄大学土曜教養講座では、沖縄経済の現状と課題に関する報告、また、基地問題の現場を取材するジャーナリストの報告から、地域の課題とジャーナリズムの役割を探ります。

2017
5/13
[Sat]
14:00〜17:00

聴講料 300円
事前予約不要



基調講演
富川盛武 氏（沖縄国際大学名誉教授／沖縄県副知事）

1948年　北谷町出身。琉球大学法文学部卒。明治大学大学院修士課程修了。2008年から2012年まで沖縄国際大学長、2015年から県政策参与。2017年3月　副知事に就任。

会場：沖縄大学アネックス共創館

プログラム

13：30	開場
14：00	開会・ご挨拶
14：15	「誤解だらけの沖縄基地」取材をめぐって パネラー 吉田　央（沖縄タイムス「誤解だらけの沖縄基地」取材班キャップ） 大野亨恭（沖縄タイムス　政経部基地担当） コーディネーター 与那原良彦（沖縄タイムス　政経部長）
15：15	休憩
15：30	基調講演 「沖縄経済と米軍基地」 富川盛武 氏（沖縄国際大学名誉教授／沖縄県副知事）
16：30	フロア討論
17：00	終了

パネラー



吉田　央（よしだ・なか）
＝連載「誤解だらけの沖縄基地」取材班キャップ
1974年　那覇市出身。
2000年　沖縄タイムス社入社　社会部、東京報道部、政経部経済担当などを経て、2014年3月から2017年3月の間、県政キャップを務める。
連載「誤解だらけの沖縄基地」取材班キャップ



大野亨恭（おおの・あきのり）＝政経部基地担当
1980年　岐阜県多治見市出身。
2006年　沖縄タイムス社入社　写真部、南部総局、朝日新聞への出向、東京支社報道部などを経て、2016年4月から政経部基地担当。

コーディネーター



与那原良彦（よなはら・よしひこ）＝政経部長
1969年　那覇市出身。
1992年　沖縄タイムス社入社　社会部、学芸部、政経部、東京報道部部長などを経て、2015年から政経部長。

主催 問い合せ先
沖縄大学地域研究所
沖縄県那覇市国場405　【TEL】098-832-5599　【FAX】098-832-3220
【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

共催 沖縄タイムス

沖縄大学
第544回 沖縄大学土曜教養講座

琉球新報＆沖縄大学共同企画

タフな支援者になれますか

ー沖縄の子どもの貧困、私たちの課題ー

沖縄の子どもの貧困率は 29.9％で、おおよそ３人に１人が貧困状態に置かれています。県は「県子どもの貧困対策計画」を実施し、支援員の配置や子どもの居場所づくり、就学援助の広報など多くの取り組みを始めています。問題への関心が高まり、各地で支援の輪が広がる一方で、問題を抱えた家庭にどう寄り添い続けるのかが課題となっています。今回の沖縄大学土曜教養講座では、子どもを取り巻く貧困の現状、貧困と密接に絡む暴力の問題について、調査・支援する研究者や支援の実践者の報告・討論を通して、粘り強く寄り添い続けることの重要性と支援のあり方を探ります。

聴講料 無料 事前予約不要

2017年6月17日(土)

時　　間 ▸ 14：00～17：00
開場時間 ▸ 13：30
場　　所 ▸ 沖縄大学アネックス共創館
※裏面に地図があります。

プログラム

13：30　開場・おもちゃ、子ども用品大集合！

持ってきてもらったものを子どもの福祉施設に贈ります

状態のいいものに限ります

子ども用バスケットリング
組み立て式サッカーゴール／卓球用品（ネット、ラケット、ボール）／バギー／カーシート など

14：00　開会・ご挨拶

基調講演　14：15　「２年で終わるはずだった、沖縄の風俗業界で働く女性調査の５年間」
上間陽子 氏（琉球大学教育学部研究科教授）

基調講演　14：45　「私はこうしてつぶれずに続けてきました」
湯浅　誠 氏（社会活動家／法政大学教授）

15：15　休憩

対論　15：30　「タフな支援者になれますか
ー沖縄の貧困、私たちの課題ー」
上間陽子 氏 × 湯浅　誠 氏
コーディネーター
島村　聡　（沖縄大学准教授／沖縄大学地域研究所長）

16：30　フロア討論

17：00　終了



上間陽子 ―（琉球大学教育学部研究科教授）
Youko UEMA
1972年沖縄県生まれ。教育学、生活指導の観点から、主に非行少女少年の問題を研究。長年、東京と沖縄で性風俗産業に就く若者を調査し、背景にある貧困問題などを研究している。２月に初の単著『裸足で逃げる　沖縄の夜の街の少女たち』を刊行



湯浅　誠 ―（社会活動家／法政大学教授）
Makoto YUASA
1969年東京都生まれ。2008年末の年越し派遣村村長を経て、2009年から足掛け３年間、内閣府参与に就任し、内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長などを歴任し現職。著書に『ヒーローを待っていても世界は変わらない』（朝日文庫）など多数

コーディネーター



島村　聡 ―（沖縄大学人文学部福祉文化学科准教授 沖縄大学地域研究所長）
Satoru SHIMAMURA
那覇市役所での福祉実務経験を経て、2013年から同大で、障がい者自立支援制度や福祉コミュニティーに関する講義を担当。沖縄県子どものみらい県民会議事業部長を務める

共同主催　沖縄大学地域研究所／琉球新報社

問い合せ先　沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場 405 番地
【TEL】098-832-5599 【FAX】098-832-3220
【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

沖縄大学

第545回　沖縄大学土曜教養講座

イスラエル占領下にあるパレスチナの歴史と現状

…そして、日本・沖縄への期待



沖縄大学

第546回 沖縄大学土曜教養講座

パレスチナと沖縄は、70年に及ぶ「占領」の経験という共通性をもっています。

1948年、パレスチナは、イスラエル建国によって軍事占領され、人びとは故郷を追われました。現在、パレスチナ難民の数は500万人以上と言われています。沖縄もまた、1945年の沖縄戦と米軍占領以来、多くの土地が軍用地とされ、日本復帰から40年を経ても、依然、普天間基地はじめ、その返還は大きな課題となっています。同時に、パレスチナでも沖縄でも、軍事主義や国家主義に屈せず、さまざまな人権擁護のたたかいが続けられています。沖縄では、日米地位協定の見直し、辺野古新基地建設・東村高江ヘリパット建設への抗議行動が続けられ、また、パレスチナでは、イスラエルの入植地や分離壁の撤去、帰還権が求められています。日本から多くの民間人権団体・市民団体がパレスチナ難民支援に参加しています。今回の土曜教養講座では、北海道を拠点とする民間医療ボランティアの北海道パレスチナ医療奉仕団の方々をお迎えして、パレスチナ問題の理解とその人権を求める人びとについてともに考える機会を作ります。







登壇者

Saleem, Awad Anati 医師
（UNRWAシュファット難民キャンプ診療所 所長）



1960年生まれ パレスチナ・東エルサレム シュファット難民キャンプを拠点に医療活動を続ける。国連パレスチナ難民救済機構(UNRWA)、シュファット難民キャンプ診療所所長、NGO：シュファット難民キャンプアルクアッツ福祉センター 理事長。

猫塚 義夫 医師
（北海道パレスチナ医療奉仕団 団長）



1973年3月札幌医科大学卒業。北海道在住。整形外科医。2010年「北海道パレスチナ医療奉仕団」を結成し医療従事仲間とともに、毎年パレスチナに医療活動に赴く。北海道パレスチナ医療奉仕団団長。

山代 寛 コーディネーター
（沖縄大学人文学部福祉文化学科教授／同大副学長）



1987年 琉球大学医学部卒業。那覇市在住。元外科医。沖縄大学人文学部福祉文化学科教授、2017年より同大副学長。

通訳：**与那覇 恵子** 氏（沖縄反戦通訳の会）

プログラム

14：00	開会・ご挨拶
14：05	講演会に至る経過とお礼、並びに Saleem 医師の紹介 猫塚 義夫（北海道パレスチナ医療奉仕団 団長）
14：20 基調講演	「イスラエル占領下にあるパレスチナの歴史と現状 …そして、日本・沖縄への期待」 Saleem, Awad Anati 医師 ※途中10分の休憩をはさみます
16：00	質疑・応答
16：30	閉会挨拶

聴講料 無料 事前予約不要

2017年 7/15（土） 14：00 ▼ 16：30

場 所：**沖縄大学アネックス共創館**

主催：沖縄大学地域研究所
共催：北海道パレスチナ医療奉仕団／医療9条の会・北海道

問い合せ先：沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地
【TEL】098-832-5599 【FAX】098-832-3220
【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

沖縄大学

第547回 沖縄大学土曜教養講座

地域主体による風景・景観まちづくり

日時 2017年 8/12［土］14：00～17：00

会場 沖縄大学アネックス共創館





沖縄における風景・景観まちづくりを住民、自治会等の地域主体の目線で考えます。沖縄県で実施している風景づくり人材育成事業、風景学習事業での実践を踏まえて、その取り組みの実態、持続可能な地域協働の風景づくりの方法について、具体的な事例の紹介を含めて学ぶとともに、自分たちが住む街の、風景・景観づくりに自らがどのように活動していくか考えていきます。

プログラム

- 主催者あいさつ
- 講座のテーマと主旨の説明

基調講演

1. 「みどりと風景・景観まちづくり」/30分
   石原 憲一郎（兵庫県参与 / 東京農業大学客員教授 / (公財) 兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター長）
2. 「沖縄における風景づくりと人材育成の取り組み」/30分
   池田 孝之（琉球大学名誉教授 / NPO沖縄の風景を愛さする会理事長）
3. 「沖縄における風景学習の試み」/30分
   安里 直美（コミュニティ・ランドスケープデザイナー / 琉球大学非常勤講師）

- 休憩 /15分

ミニフォーラム コーディネーター：池田 孝之

「地域主体による風景・景観まちづくりの実践と展望」

パネラー：石原 憲一郎・池田 孝之・安里 直美

- 「首里龍潭通り沿線地区での実践」
  パネラー：伊良波 朝義（義空間設計工房、一級建築士）/10分
- 「浦添市仲間地区での実践」
  パネラー：又吉 武市（仲間自治会元会長）/10分
- 「新仲井真地区での展望」
  パネラー：山入端 登志夫（自治会長）/5分
- 「長田一丁目地区での展望」
  パネラー：大城 善広（自治会長）/5分
- ディスカッション
- 閉会の挨拶



基調講演 1

いしはら けんいちろう
石原 憲一郎

兵庫県参与/東京農業大学客員教授
(公財) 兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター長

神戸市生まれ。東京農業大学農学部造園学科卒業。技術士（都市及び地方計画）
1970年旧建設省入省。都市計画を担当し、旧近畿地方建設局、旧総理府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所長等を歴任。
1993年兵庫県参事として淡路景観園芸学校設立に携わる。『景観園芸入門』(BIOCITY) など著書多数。



基調講演 2

いけだ たかゆき
池田 孝之

琉球大学名誉教授
NPO沖縄の風景を愛さする会理事長

横浜市生まれ。東京都立大学大学院博士課程修了、工学博士、一級建築士。琉球大学工学部教授、一般財団法人沖縄美ら島財団理事長等を経て現職。都市計画、景観デザインを専門とし、内閣府沖縄総合事務局景観委員長、沖縄県風景づくり協議会長、浦添市をはじめ県内各市町村の景観審議会長を務める。



基調講演 3

あさと なおみ
安里 直美

コミュニティ・ランドスケープデザイナー/琉球大学非常勤講師

浦添市生まれ。1985年千葉大学造園学科卒。コンサルタント勤務を経て2003年琉球大学大学院修了（工学博士）。「NPO沖縄の風景を愛さする会」理事。浦添市並びに沖縄市景観審議会委員他。2013年から沖縄地域に根ざした風景づくりに係る小学校の風景学習活動を支援。

聴講料 無料 事前予約不要

■問い合せ先　沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地
【TEL】098-832-5599　【FAX】098-832-3220　【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

私立大学 研究ブランディング事業

子どもの貧困の解決に向けた多角的な地域支援の実現を目的として掲げ、文科省に選定された事業です。

沖縄大学 第548回 沖縄大学土曜教養講座

沖縄の子どもの貧困、私たちの課題②

親の子育て、就業と貧困問題

ー社会的保護の展望ー





沖縄の子どもの貧困率は、沖縄県が８自治体を抽出した調査で29.9%（2015年）、より現実的に再整理した戸室（山形大学）調査では37.5%（2012年就業構造基本調査）に上る。さらに、18歳未満の子どもを育てている県内世帯の３世帯に１世帯以上が貧困に陥っており、全国平均の約2.7倍と突出している。経済的貧困は、とくに子育て世代の保護者と子どもが接する時間を短くし、成長段階において経るべき経験を乏しくすることが指摘されている。狭隘な自己責任論を超え、働く者、経営者、そして、すべての市民が共有すべき社会問題だと再認識し、皆さんとともに改善に向けた課題を展望します。

聴講料 無料 事前予約不要



2017年9月9日（土）

時　間 ▸ 14：00～17：00
開場時間 ▸ 13：30
場　所 ▸ 沖縄大学アネックス共創館
※裏面に地図があります。

プログラム

14：00　開会・ご挨拶

基調講演 14：15　「全国貧困率の結果と沖縄の位置づけ」
戸室健作 氏（山形大学人文社会科学部准教授）

基調講演 14：45　「ひとり親世帯における養育と雇用・就労問題」
秋吉晴子 氏（しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄代表）

基調講演 15：15　「子どもの貧困は親と地域の貧困から
ー中小企業における「人を生かす経営」の取組み事例」
宮城光秀 氏（(有)大宮工機 専務取締役／沖縄県中小企業家同友会 副代表理事／県立那覇高等学校 PTA会長）

15：45　休憩

対論 15：55　「沖縄の子どもの貧困、私たちの課題②
親の子育て、就業と貧困問題
ー社会的保護の展望ー」
戸室健作 氏 × 秋吉晴子 氏 × 宮城光秀 氏
コーディネーター
島袋隆志　（沖縄大学准教授・地域研究所副所長）

16：30　フロア討論

17：00　終了



戸室健作 ― （山形大学人文社会科学部准教授）
Kensaku TOMURO
1978年生まれ。明治大学大学院経営学研究科博士後期課程修了。著書に『ドキュメント請負労働180日』（岩波書店、2011年）、最近の論文に「都道府県別の貧困率、ワーキングプア率、子どもの貧困率、捕捉率の検討」『山形大学人文学部研究年報』13号（2016年）がある。



秋吉晴子 ― （しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄代表）
Haruko AKIYOSHI
1964年大阪府堺市生まれ。1999年から那覇在住。2004年にシングルマザーの当事者団体「しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄」設立。非婚のひとり親に寡婦控除が適用されない問題や児童扶養手当のまとめ支給問題など制度を変える活動に取組んでいる。高３の娘と二人暮らし。



宮城光秀 ― （(有)大宮工機 専務取締役／沖縄県中小企業家同友会 副代表理事／県立那覇高等学校 PTA会長）
Mitsuhide MIYAGI
1968年生まれ。琉球大学大学院工学研究科電気・情報工学課程修了。富士電機（株）を経て1997年（有）大宮工機入社 現在に至る。小・中・高等学校PTA会長として精力的に活動し、2015年沖縄県PTA連合会会長就任。教育現場での課題に取組むと共に、中小企業家同友会副代表理事として雇用問題にも取組む。2016年沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進功労者表彰受賞。

コーディネーター



島袋隆志 ― （沖縄大学准教授・地域研究所副所長）
Takashi SHIMABUKURO
1968年生まれ。明治大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得。専門は経営学（雇用関係研究）。企業、公務など協働する場での「働き方、働かせ方」について調査研究している。南風原町総合計画等審議会委員、那覇市男女共同参画会議委員。

主催 沖縄大学地域研究所　共催 琉球新報社

問い合せ先
沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地
【TEL】098-832-5599 【FAX】098-832-3220
【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

沖縄＆スリランカ
次世代教育について語り合う

日時 2017年 10/21［土］ 13:00〜17:15

会場 沖縄大学アネックス共創館

一般財団法人
りゅうぎん国際化振興財団
Bank of the Ryukyus International Foundation
※本事業は一般財団法人りゅうぎん国際化振興財団より平成29年度助成金を受けて実施しているものです。

【共同主催】
沖縄スリランカ友好協会

沖縄での国際教育交流・協力のほとんどが、対欧米であり、その他の途上国との国際教育交流の例は少ない。南アジアに位置するスリランカは、海に囲まれた島であり、特色ある芸能や文化を伝承してきた。一方で、戦争（内戦）の歴史ももつ。その歴史や環境は沖縄と多くの共通点がある。

今回の土曜教養講座では、異文化理解を深め『人格教育・人間開発・社会開発』をテーマに、スリランカと沖縄それぞれの国で教育文化活動に取り組む講師による沖縄での教育と、多文化社会であるスリランカでの教育の試みを学び、理想と現実…そして課題解決について本音で話し合い、次世代教育について意見交換と交流を行います。

登壇者紹介



シティ・ファリナ・ナジール
Sithy Fareena Nazeer 氏［マリヤデヴァ女子学院（公立高等学校）教員］
Kurunegala出身。作家。29年教師として、多文化理解、多文化共生を目指し、多様な人々と共生できる人間育成を目指し教育活動を行う。経済的に余裕のない子どもたちへ無料塾の開催などを行う。Sinhala, Tamil, Englishの3か国語通訳翻訳者としての国家資格をもつ。



アミタ・エカナヤケ
Amitha Ekanayake 氏［セントジョセフ女子学院（公立高等学校）教員］
Polgahawela出身。子どもの表現力を育成する劇やスピーチの指導に関わり、子どもたちを相手にした知識の伝達に留まらず、自己表現・自己実現ができる教育環境作りに精力的に取り組む。スリランカの小学生および幼児向け新聞の記者・編集者でもある。



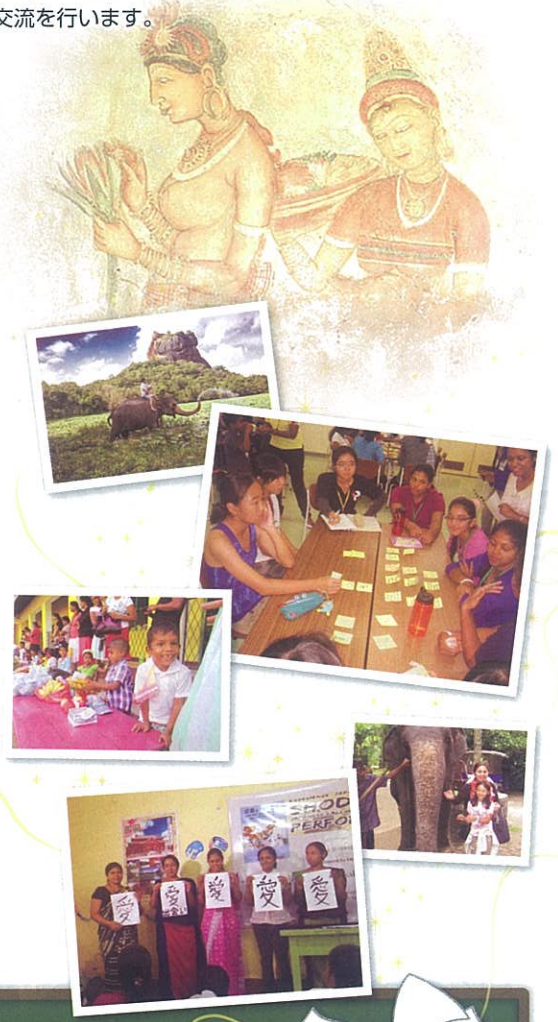
北岡 哲治 氏［沖縄県立豊見城高等学校 教頭］
熊本県出身。2010年より国立沖縄青少年交流の家に企画指導専門職として勤務し、2011年に第1回「アジアの架け橋 沖縄スリランカプロジェクト〜「命と平和」を未来へ〜」の担当者として、スリランカの中学生を招いた事業を展開。その後、県立高等学校の教頭として学校現場へ戻り現在に至る。2013年と2015年にスリランカを訪れたり精力的に沖縄県とスリランカの国際交流事業に携わる。沖縄スリランカ友好協会理事。



赤嶺 智郎 氏［糸満市立高嶺小学校 教頭］
沖縄県出身。2011年より国立沖縄青少年交流の家に企画指導専門職として勤務し、2012年に第2回「アジアの架け橋 沖縄スリランカプロジェクト〜「命と平和」を未来へ〜」の担当者として、スリランカの中学生を招いた事業を展開。沖縄、スリランカ双方の中学生の指導、野外研修や海洋研修に力を入れた。



ディリープ・チャンドララール［沖縄大学人文学部 教授］
スリランカ出身。1983年来日。神戸大学大学院文化学研究科博士課程修了・文学博士。1998年来沖。沖縄大学人文学部国際コミュニケーション学科教授。2010年7月沖縄スリランカ友好協会を設立し会長を歴任。「自分」と「地域」と「国際」をつなげて照らし合わせる交流を大事にしている。



〜プログラム〜

第1部
13:00 開会の挨拶
13:05 「スリランカの社会背景とその教育環境」ディリープ・チャンドララール
13:25 基調講演「スリランカの多文化教育のこころみ」Sithy Fareena Nazeer
13:45 基調講演「子どもの表現力とプレゼンテーション能力の育てかた」Amitha Ekanayake
14:05 基調講演「沖縄スリランカプロジェクト交流事業について」北岡 哲治、赤嶺 智郎
14:35 休憩

第2部
14:45 討議 《異文化交流を通した国際理解教育の現実と課題について》
16:00 閉会

第3部
16:15〜17:15 交流会［自由参加 / 参加費：500円］

聴講料 無料 事前予約不要

■問い合せ先 沖縄大学地域研究所 沖縄県那覇市国場405番地
【TEL】098-832-5599 【FAX】098-832-3220 【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

沖縄大学
第549回 沖縄大学土曜教養講座

食から地域を変える

～沖縄の地域再生を食から考える～



「長寿社会沖縄」の神話は崩壊しつつあるといわれている現代で、その主な原因が仕事のストレス等からくる暴飲・暴食、安易なファストフードに偏在した食生活といった、複合的な要因が背景にある。そして、そのこども達もまた、肥満率全国一といわれている。その要因に朝食の欠食、親の長時間労働による孤食化などが重要な問題となっており、学習面への影響や将来の生活習慣病との関係が指摘され、ひいては沖縄の将来を担うこども達の未来が危惧されている。今回の土曜教養講座では、①学校給食を通じた「食育」と「子どもの貧困対策」についての実践的取り組み、②フード産業を中心に「食のブランド化や付加価値の付与」によって沖縄の競争優位性の検証、③沖縄経済のさらなる活性化に向けて、農業や食の可能性について検証にそれぞれ取り組んでいる論者が登壇し、地域資源を活用した「食」に対する可能性を探る。

2017年
11月25日(土)

聴講料 無料 事前予約不要

時　間 ▸ 14：00～17：00
開場時間 ▸ 13：30
場　所 ▸ **沖縄大学アネックス共創館**
※裏面に地図があります。

プログラム

14:00　開会・ご挨拶

基調講演 1
14:10　「給食無償化への取り組み」
松本 哲治 氏（第14代 浦添市長）

基調講演 2
14:55　「地域ブランド研究と実践
～沖縄県金武町の地域資源を活用して～」
豊川 明佳 氏（沖縄大学法経学部 専任講師 / (有) インターリンク沖縄 取締役）

基調講演 3
15:15　「沖縄における農業の可能性」
島田 尚徳 氏（(株) 海邦総研 地域経済調査部 主任研究員）

15:35　休憩

討論
15:45　フロア討論・質疑応答
コーディネーター 山代 寛（沖縄大学人文学部 福祉文化学科 教授 / 沖縄大学副学長）

16:50　閉会・ご挨拶

17:00　終了

松本 哲治 Tetsuji MATSUMOTO（第14代 浦添市長）



1967年10月浦添市生まれ。1996年カリフォルニア大学バークレー校修士課程修了（社会福祉学修士）。（医）仁愛会介護老人保健施設アルカディアに勤務し、2002年NPO法人ライフサポートてだこを設立し代表理事に就任。2013年第13代浦添市長、2017年第14代浦添市長を歴任現在に至る。
無所属。趣味は野球とトライアスロン。好きな言葉は「百花繚乱（ひゃっかりょうらん）」

豊川 明佳 Sayaka TOYOKAWA（沖縄大学法経学部 専任講師 / (有) インターリンク沖縄 取締役）



2000年渡英し、ウェストミンスター大学経営学部を経て、LSBU にて MBA を取得後、ロンドンの金融街で働き2009年に帰国。
現在は、母と弟とともにインターリンク沖縄を経営。金武町の特産品である田芋を生かしたスイーツの開発販売およびレストランの経営をしている。2017年には経済産業省より「はばたく中小企業」に選ばれる。
2010年より当大学の専任講師として経営学などを担当している。

島田 尚徳 Shotoku SHIMADA（(株) 海邦総研 地域経済調査部 主任研究員）



1981年2月沖縄市生まれ。千葉大学法経学部卒、同大学院社会科学研究科修了（総合政策学修士）。沖縄タイムス社政経部の県政担当記者などを経て、地元金融機関系シンクタンク勤務。現在は、地域経済、産業振興関連の調査のほか県内官公庁の施策立案のサポートなどを行っている。

司会・コーディネーター

山代 寛 Hiroshi YAMASHIRO（沖縄大学人文学部 福祉文化学科 教授 / 沖縄大学副学長）



1987年琉球大学医学部卒業。那覇市在住。元外科医。
沖縄大学人文学部福祉文化学科教授、2017年より同大副学長。

主催 沖縄大学地域研究所
問い合せ先 沖縄大学地域研究所
沖縄県那覇市国場405番地【TEL】098-832-5599【FAX】098-832-3220
【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

予防医学の要とは…
現代の医療体制への挑戦



1992年に20兆円だった日本の医療費は、現在43兆円を超えている。日本の膨大な医療費は、健康管理の問題と切り離せない。コンビニエンスストア、ファストフードが広がることにより、偏食、不当なダイエットが助長され、「カロリー」と「栄養」を混同するなどの誤解も一般に見受けられる。幼児期からの食習慣、家庭環境は「健康」のための必要条件であるが、沖縄県では実行できていない家庭も多いのではないだろうか。このような状態ではこども達の精神発育や健康寿命にも影響を及ぼす。教育保障制度の構築と健康教育の充実が求められる。

今回、「予防医学」と「分子栄養学」の観点から、貧困と健康、そして現代医療問題を考えたい。人体はタンパク質や脂質など多種多様な栄養物質で構成されている。適切な栄養摂取と代謝によって血液をきれいにすることが、いかに健康につながるかを見ていく。

登壇者紹介



屋比久 勝子（琉球温熱療法院　院長）

20年以上、ピアノ指導をしていたが、両親指が動かなくなり断念。また、40代のとき、諸々の病気に悩まされ、人体は熱と栄養で生かされている事に目を向け、分子栄養学を独学。独自で開発した温熱機器の特許取得（アメリカ、日本）、管理型医療機器認証取得（厚生労働省）、現在は、韓国の明智大学院自然治癒学科の客員教授を務めながら、日本国内での講演に加え、北京（北京中医院）、上海、安吉にて分子栄養学の指導講演を行う。



一石 英一郎（国際医療福祉大学病院内科／予防医学センター　教授）

京都府立医科大学大学院内科学専攻修了、医学博士。東京大学大学院遺伝学教室特別研究先生（薬学）、国立北陸先端科学技術大学院大学（工学）教授、東北大学先進医工学研究機構（医工学）客員教授、東北大学大学院（医学）客員教授を経て現職。日本内科学会指導医、日本統合医療学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本抗加齢医学会専門医／評議員、厚生労働省認定臨床研修指導医、多くの国際医学雑誌の編集委員やゲスト編集長を歴任。



秋野 公造（参議院議員／医学博士）

参議院議員（2期目）医学博士
平成4年長崎大学医学部卒業。長崎大学、米国Cedars-Sinai Medical Center、厚生労働省に勤務。平成22・28年参議院議員選挙で当選。環境・内閣府大臣政務官、参議院災害対策特別委員長、法務委員長を歴任。



劉剛（沖縄大学人文学部 国際コミュニケーション学科 教授／コーディネーター）

中国雲南大学大学院修了 歴史学博士（中国国務院学位弁）。専門領域：中国問題学・文化人類学・環境民族学・日中関係及び沖縄問題など。中国雲南省民族研究所教授などを経て、1999年から本大学人文学部国際コミュニケーション学科教授。日本東京女子大学比較研究所など数か所の大学の客員研究員及びゲスト講師を歴任、中国数か所の大学客員教授・兼任教授を担任。ドイツフランクフルト大学訪問学者を経験。比較文化学者。

日時　2017年 12/9 Sat. 14:00~17:00

会場　沖縄大学アネックス共創館

プログラム

14：00 - 開会・ご挨拶

14：15
基調講演「予防に勝る治療はなし」
屋比久 勝子（琉球温熱療法院　院長）

14：55
基調講演「予防医学と分子栄養学の連携による未来医療の可能性」
一石 英一郎（国際医療福祉大学病院内科／予防医学センター　教授）

15：25
基調講演「命は食にあり ～食から疾病の重症予防について考える～」
秋野 公造（参議院議員／医学博士）

15：55 - 休憩

16：05
フロア討論・質疑応答「予防医学の【要】とは… 現代の医療体制への挑戦」
コーディネーター：劉剛（沖縄大学人文学部 国際コミュニケーション学科 教授）

16：50 - 閉会・ご挨拶

17：00 - 閉会

聴講料 無料 事前予約不要

■主催 / 沖縄大学地域研究所
■後援 / 沖縄タイムス社

■問い合せ先 / 沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地
【TEL】098-832-5599【FAX】098-832-3220【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

沖縄大学

第551回 沖縄大学土曜教養講座

私立大学 研究ブランディング事業

子どもの貧困の解決に向けた多角的な地域支援の実現を目的として掲げ、文科省に選定された事業です。

沖縄大学

第552回 沖縄大学土曜教養講座

沖縄の子どもの貧困、私たちの課題③

いま子どもたちが求める学びとは？

―子どもに寄り添う現場から考える―





いま子どもたちは様々な問題の渦中にいます。特に深刻な貧困問題を抱える沖縄の子どもたちには、その社会構造的問題が圧縮され詰め込まれているとも言えます。

そんな子どもたちに必要な学びとは何でしょうか。学力？忍耐力？コミュニケーション力？大人が「学ばせたいもの」はたくさんありますが、学んでいる子ども自身は何を感じ、何を経験しているのでしょう。教育の現場で、日々子どもに寄り添ってきた皆さんの報告を通して、子どもにとっての学びの意味について考えたいと思います。

聴講料 無料 事前予約不要



2018年1月20日(土)

時　間 ▸ 14：00～17：00
開場時間 ▸ 13：30
場　所 ▸ **沖縄大学アネックス共創館**
※裏面に地図があります。

プログラム

13：30　開場

14：00　開会・ご挨拶

基調講演　14：15　「希望を生みだす教室
～どの子にも、学ぶ喜びと生きる喜びを！～」
山崎隆夫 氏（都留文科大学教職支援センター特任教授／元東京都公立小学校教諭）

基調講演　14：55　「学童期の放課後の遊び」を通した
「独りぼっち」から「つながりへ」
～学童保育指針と非認知能力への大人の理解～」
山本　隆 氏（(一社)南風原子どもオンリーワン 代表理事）

基調講演　15：25　「無料塾での取り組み（仮）」
上原龍太朗 氏（珊瑚舎スコーレ 結塾 J&S 学習支援担当）

15：55　休憩

対論　16：05　「沖縄の子どもの貧困、私たちの課題③
いま子どもたちが求める学びとは？
―子どもに寄り添う現場から考える―」
山崎隆夫 氏 × 山本　隆 氏 × 上原龍太朗 氏
コーディネーター
宮島　基　（沖縄大学人文学部こども文化学科准教授）

16：40　フロア討論

17：00　終了



山﨑 隆夫（都留文科大学教職支援センター 特任教授／元東京都公立小学校教諭）
Takao YAMAZAKI
1950年静岡県生まれ。東京都公立小学校教諭として38年間学級担任。主な著書として『教室は楽しい授業でいっぱいだ』（高文研）、『希望を生みだす教室』（旬報社）などがある。教育科学研究会常任委員。学びをつくる会世話人。



山本　隆（(一社) 南風原子ども オンリーワン 代表理事）
Takashi YAMAMOTO
1962年大分県生まれ。琉球大学教育学部学校教員養成課程卒業。放課後の居場所「学童クラブ」に就職、設立し27年目。学童クラブ支援員の「学童保育指針」「非認知能力」を起点とし、「独りぼっち」から「つながり」に向かう放課後児童健全育成事業の現場・連携を行う。沖縄県学童保育連絡協議会副会長。沖縄大学人文学部こども文化学科非常勤講師。



上原龍太朗（珊瑚舎スコーレ 結塾 J&S 学習支援担当）
Ryutaro UEHARA
1988年沖縄県生まれ。高校で一年間、アメリカへ留学しアメリカの私立の大学へ入学するも一年で資金難の為退学。その後沖縄へ戻り、沖縄大学へ入学したが学費が払えず、除籍。2年後に本校へ復学し、沖縄大学人文学部こども文化学科を卒業。現在珊瑚舎スコーレ結塾で小中学生の無料塾を担当。

コーディネーター



宮島　基（沖縄大学人文学部こども文化学科 准教授／地域研究所副所長）
Motoi MIYAJIMA
1976年東京都生まれ。専門は教育学（青年期教育・教育思想研究）。
子どもたちが「生きづらさ」を抱え、大人へと「成長」するプロセスが長期化・複雑化する今日において、問題の実態解明と支えとなる教育の役割について研究。

主催　沖縄タイムス社、沖縄大学地域研究所

問い合せ先　沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地
【TEL】098-832-5599　【FAX】098-832-3220
【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

私立大学 研究ブランディング事業

子どもの貧困の解決に向けた多角的な地域支援の実現を目的として掲げ、文科省に選定された事業です。

琉球新報＆沖縄大学共同企画

沖縄大学 第553回 沖縄大学土曜教養講座

沖縄の子どもの貧困、私たちの課題④

子どもの貧困政策論

ーこれまでをどう評価し、将来に何を求めるのかー

内閣府の予算で始まった沖縄の子どもの貧困対策事業は２年目を終わろうとしている。県内各地で拡がった事業がどのような展開となっているのか。さらに、今後の継続の可否を握る事業の「成果」とは何なのか。それをどのような施策に結びつけていくのか。内閣府と県の立場から現状認識と将来像を語っていただく。また、この事業に懸命に取り組む市町村職員と居場所の運営者に登壇していただき、「居場所」と「支援員」の動きを軸に、現場で展開される施策が子どもたちにどのような変化を与えているのか、それが「成果」となることとは何なのかについて語り合いたい。

聴講料 無料 事前予約不要

2018年2月17日(土)

時　間 ▸ 13：15～17：00

場　所 ▸ 沖縄大学アネックス共創館

※裏面に地図があります。

プログラム

13：15　開会・ご挨拶

プロローグ

13：15　沖縄大学ブランディング事業による子どもの貧困研究

コーディネーター　島村　聡（沖縄大学人文学部福祉文化学科准教授／沖縄大学地域研究所長）

第一部

13：55　国と県が目指す子どもの貧困政策の到達点

基調講演　「沖縄における子供の貧困問題への取組み～内閣府の立場から～」

重永 将志 氏（内閣府沖縄振興局総務課事業振興室 室長）

基調講演　「沖縄県における子どもの貧困対策について」

川満 孝幸 氏（沖縄県子ども生活福祉部 子ども未来政策課 子ども未来政策班 班長）

討論　コーディネーター　島村　聡

第二部

15：30　子どもの居場所と支援員のイケてる関係

基調講演　「那覇市の子どもの貧困対策と支援員のお仕事」

山城 忠信 氏（那覇市福祉部保護管理課 担当副参事）

基調講演　「子どもの居場所の現場から見えたこと」

金城 隆一 氏（特定非営利法人 沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい 代表理事）

討論　コーディネーター　島村　聡

17：00　終了



重永 将志（内閣府沖縄振興局総務課 事業振興室 室長）
Masashi SHIGENAGA

1973年北海道生まれ。1997年厚生省入省。2003年から厚生労働省雇用均等・児童家庭局で児童虐待対策、2008年から石川県健康福祉部（出向先）で生活保護対策等を担当し、2017年7月より現職。



川満 孝幸（沖縄県子ども生活福祉部 子ども未来政策課 子ども未来政策班 班長）
Takayuki KAWAMITSU

1973年宮古島市（旧上野村）生まれ。1996年沖縄県庁入庁、2013年子ども生活福祉部障害保健福祉課において「沖縄県障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例」を担当し、2015年より子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課子どもの未来応援チーム主幹として、「沖縄県子どもの貧困対策計画」の計画策定及び子どもの貧困実態調査に携わる。



山城 忠信（那覇市福祉部保護管理課 担当副参事）
Tadanobu YAMASHIRO

1963年沖縄県生まれ。1990年那覇市役所入庁、以来ごみ問題関係部署に11年間、協働推進課に４年間等を経て2011年度より現課に配属。現在に至る。現課では主に自立支援関連の業務に就いている。



金城 隆一（特非 沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい 代表理事）
Takakazu KINJO

1973年沖縄県生まれ。1992年よりフリースクールで不登校問題に関わる。1994年より大阪の若者支援の民間団体「淡路プラッツ」、2000年より沖縄へ移住し2010年NPO法人ちゅらゆいを設立。2011年に障がい事業所「コミュッと！」、2013年に那覇市委託事業を受託し不登校の子どもの居場所「Kukulu」を開所。現在に至る。

コーディネーター



島村　聡（沖縄大学人文学部福祉文化学科准教授／沖縄大学地域研究所長）
Satoru SHIMAMURA

那覇市役所での福祉実務経験を経て、2013年から同大で、障がい者自立支援制度や福祉コミュニティーに関する講義を担当。沖縄県子どものみらい県民会議事業部長を務める。

共同主催　沖縄大学地域研究所／琉球新報社

問い合せ先　沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地
【TEL】098-832-5599　【FAX】098-832-3220
【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

沖縄大学

沖縄大学・㈱沖縄ファミリーマート共同主催

売場の科学

お客様の行動と心理 ▶▶ 売れる売場づくりの原点

聴講料 無料 事前予約不要





講師
渡辺 隆之 氏
（沖縄大学客員教授・東京未来大学教授）

昨今、小売業界における競争はネット業者の躍進を契機として大きく変貌しつつあります。新しい発想と方法、そして新しい技術を取り入れて、従来とは異なる差別的な競争戦略を武器にした小売業が台頭し成長しつつあります。しかしながら、それらの小売業すべてが高業績を上げているとは限りません。

小売の原点はやはり「お客様そのもの」です。お客様の行動と心理を常に見つめて売場づくりに活かしているか否か、その違いが業績に確実に反映しているのです！ 改めて、売場づくりの基本を確認しつつ、お店の強みと弱みを照らし合わせ、お店のあり方に一工夫を加えてみませんか？ 発想を変え、売り方を刷新すれば、十二分に勝算あり、です！

◀◀◀ 各回日程とテーマ ▶▶▶

6/16［金］	第１回	客数増を狙いたければ、買上点数を上げよ！
7/14［金］	第２回	見られない売場からは絶対に売れない！
8/25［金］	第３回	買いやすい売場は当然！今こそ面白い売場を！
9/22［金］	第４回	徹底的に「お買得！」を追究しよう！
10/20［金］	第５回	買いたくなる情報提供の極意！
11/17［金］	第６回	「買いたい！」というモチベーションの高め方

時間　18:00～19:30（全講座共通）

場所　沖縄大学アネックス共創館
（那覇市国場405）

■問い合せ先／沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地【TEL】098-832-5599【FAX】098-832-3220【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

食材救出人のおいしい旅路

ゼロ 0円 キッチン

wastecooking

「食糧危機」を吹き飛ばすエンタメ・ロードムービー

監督:ダーヴィド・グロス、ゲオルク・ミッシュ｜配給:ユナイテッドピープル｜2015年/オーストリア/81分



Netherlands





FRANCE









BELGIUM





2017年11月23日(木)

フードバンクの日

会場：沖縄大学アネックス共創館（那覇市国場405番地）

開場13:00　上映14:00　料金：無料（お米1合、または缶詰1個お持ちください）

ジャーナリストで“食料救出人”のダーヴィドが食料廃棄をなくすため、廃油で走るキッチン・カーで欧州5ヶ国を巡り、廃棄食材クッキングの旅に出るエンターテイメント・ロードムービー。世界で生産される3分の1の食料は廃棄されており、その重さは毎年13億トンにもなる。各地で食に関してユニークな取り組みを行う人々と出会いながら廃棄食材料理を振舞い意識変革にチャレンジするダーヴィドの『0円キッチン』の旅から食の現在と未来が見えてくる。

フードドライブも同時開催!!

当日は、会場受付にて常温で保存できる賞味期限の残っている食べ物の寄付も受け付けていますのでご協力をよろしくお願いいたします。

★お米（小分けでもOK）
★缶詰やレトルト／インスタント食品（ラーメンやカレーなど）
★乾物（そうめん／パスタ／ひじきやのりなど）
★調味料（油や塩／ドレッシングなど）　★飲料
※いずれも賞味期限が1か月以上残っており、未開封のものに限ります。
※アルコールは受け付けません。

主 催：NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄　　後 援：沖縄大学地域研究所

「大学生が企画するいのちの講演会」実行委員会＆沖縄大学地域研究所 共同企画

いのちと仕事

いのちをいただく





イヤで仕方なかった食肉解体の仕事。
ある日、牛の“みいちゃん”との出会い、その涙に触れてから仕事への意識がガラリと変わった。
それから「悲しい目をした牛たちを楽な気持ちで旅立たせるのが自分の役目」と誇りを持ったこと、牛たちから教えられたこと、「いのち」への想い…
今回の講演会で、いのちをいただくことへの感謝の気持ちを多くのみなさんに改めて感じてほしい。

日　時　2018年1月6日(土)　15:00▸17:00

場　所　沖縄大学アネックス共創館

聴講料　無料（予約不要）

プログラム

司会：平良 志穂／玉榮 百々菜
（沖縄大学人文学部 福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻 4年次）

15：00	開会・あいさつ	
15：05	趣旨説明	松田 夕貴
15：08	講師紹介	（沖縄大学人文学部 福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻 4年次）
15：10	講演 「いのちと仕事 ～いのちをいただく～」 講師：坂本 義喜	
16：30	質疑応答	
16：50	お礼の言葉	松田 夕貴
16：55	挨拶	上地 幸市（沖縄大学人文学部 国際コミュニケーション学科教授）



講演者

サカモト　ヨシキ
坂本　義喜
元熊本市食肉センター解体作業員

1957年 熊本県熊本市生まれ。
15才で親の仕事だった食肉解体業を手伝いの形で仕事をしたが、1週間で辞めて親の勧めで大阪の小売の板前の修業をして熊本に帰り市内の大手小売店に就職、そこで現在の奥さんと出会い結婚した。子供が小学校に入る時に板前から今の食肉解体業に移り、ある時に牛のみいちゃんと出会い、その時みいちゃんの涙、子供の一言などで動物達の涙の意味を感じた。それからその涙の意味を沢山の子供たちに知ってほしいと思い講演会活動を始めた。



「大学生が企画するいのちの講演会」
実行委員会

協　賛　浦添市立仲西中学校　那覇市立寄宮中学校
（株）沖縄県食肉センター　（株）アップルバーク沖縄
（有）松商企画　スマイル薬局　食処ニライ亀蔵　他個人

後　援　那覇地区道徳教育研究会

問い合せ先　沖縄大学地域研究所　沖縄県那覇市国場405番地
【TEL】098-832-5599 【FAX】098-832-3220 【MAIL】chiken@okinawa-u.ac.jp

大学コンソーシアム沖縄　県民向け公開講座

沖縄と映像・映画



日程：2018 年 2 月 24 日（土）12：30 開場・受付開始

会場：沖縄県立芸術大学附属研究所 3F 小講堂（100 席）

事前申込なし・受講無料

主催：大学コンソーシアム沖縄、沖縄県立芸術大学、沖縄映画研究会

今年度沖縄県立芸術大学附属研究所では、「沖縄映画研究会」と共催し、一般県民講座として「映像や映画に描かれた沖縄」について、専門家からの研究発表・および公開講座を企画いたしました。

司会：鈴木耕太（沖縄県立芸術大学附属研究所講師）

13：00　…主催者挨拶

13：05　…「皇太子裕仁の来沖映像をめぐって」

世良利和（沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）

13：35　…「風景論と沖縄」

藤城孝輔（キングズ・カレッジ・ロンドン映画学科博士課程修了）

14：05　…休憩

14：10　…「琉球ニュース Part II　参考映像（28 分）の上映と解説」

大濱聡（元 NHK ディレクター＆プロデューサー、沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員）

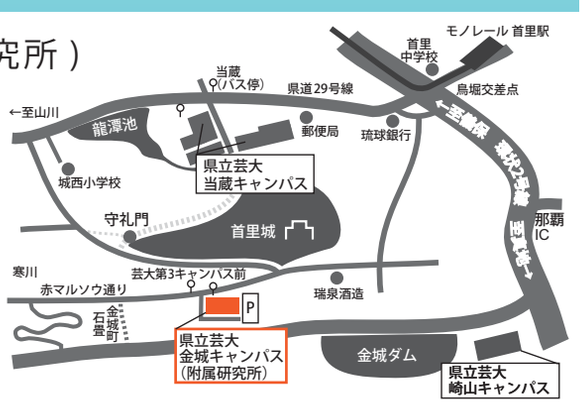
■お問合せ・会場（沖縄県立芸術大学附属研究所）

〒903-0815　沖縄県那覇市首里金城町 3−6

TEL：098-882-5040　/　FAX　098-835-5711

MAIL:k-jimu2@ken.okigei.ac.jp

http://www.ken.okigei.ac.jp



資料３

決　算　報　告　書

（ 第 4 期 ）

自　平成 29 年 4 月 1 日

至　平成 30 年 3 月 31 日

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄

貸借対照表内訳表

平成30年 3月31日現在

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄　　（単位：円）

科　　目	合計	法人会計	その他事業会計			実施事業会計
		法人本部	沖縄子供の貧困対策県委託事業】	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業【企業から寄附】	知的・産業事業【県委託事業】	全国大学ｺﾝｿｰｼｱﾑ研究交流ﾌｫｰﾗﾑ【県補助】
Ⅰ　資産の部						
1．流動資産						
現金預金	18,797,327	3,871,205	2,622,811	8,822,233	3,015,594	465,484
未収金	5,499,429	0	3,190,000	0	2,309,429	0
短期貸付金	16,429,129	262,251	0	13,416,284	594	2,750,000
流動資産合計	40,725,885	4,133,456	5,812,811	22,238,517	5,325,617	3,215,484
2．固定資産						
(2) 特定資産						
商品券・ｻｰﾋﾞｽ券等	2,000,000	0	0	2,000,000	0	0
特定資産合計	2,000,000	0	0	2,000,000	0	0
固定資産合計	2,000,000	0	0	2,000,000	0	0
資産合計	42,725,885	4,133,456	5,812,811	24,238,517	5,325,617	3,215,484
Ⅱ　負債の部						
1．流動負債						
短期借入金	16,429,129	3,750,594	4,571,284	0	4,060,021	4,047,230
未払金	1,261,680	2,160	658,680	565,075	35,765	0
未払費用	1,356,204	0	737,972	0	618,232	0
預り金	250,713	0	182,971	0	67,742	0
未払法人税等	70,000	0	0	0	70,000	0
流動負債合計	19,367,726	3,752,754	6,150,907	565,075	4,851,760	4,047,230
負債合計	19,367,726	3,752,754	6,150,907	565,075	4,851,760	4,047,230
Ⅲ　正味財産の部						
1．基金						
基金	0	0	0	0	0	0
2．指定正味財産						
商品券・ｻｰﾋﾞｽ券等	2,000,000	0	0	2,000,000	0	0
指定正味財産合計	2,000,000	0	0	2,000,000	0	0
（うち特定資産への充当額）	(2,000,000)	(0)	(0)	(2,000,000)	(0)	(0)
3．一般正味財産						
(1) 代替基金	0	0	0	0	0	0
(2) その他一般正味財産	21,358,159	380,702	△ 404,957	21,954,723	259,437	△ 831,746
一般正味財産合計	21,358,159	380,702	△ 404,957	21,954,723	259,437	△ 831,746
正味財産合計	23,358,159	380,702	△ 338,096	23,673,442	473,857	△ 831,746
負債及び正味財産合計	42,725,885	4,133,456	5,812,811	24,238,517	5,325,617	3,215,484

収支計算書内訳表

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄

（単位：円）

科　　目	合計	法人会計	その他事業会計			実施事業会計
		法人本部	沖縄子供の貧困対策県委託事業】	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業【企業から寄附】	知的・産業事業【県委託事業】	全国大学ｺﾝｿｰｼｱﾑ研究交流ﾌｫｰﾗﾑ【県補助】
Ⅰ　事業活動収支の部						
1．事業活動収入						
会費収入	[1,300,000]	[1,300,000]	[0]	[0]	[0]	[0]
正会員会費収入	1,300,000	1,300,000	0	0	0	0
補助金等収入	[31,811,629]	[0]	[20,190,000]	[0]	[6,369,429]	[5,252,200]
地方公共団体補助金収入	5,252,200	0	0	0	0	5,252,200
沖縄県事業受託収入	26,559,429	0	20,190,000	0	6,369,429	0
負担金収入	[1,421,000]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1,421,000]
負担金収入	1,421,000	0	0	0	0	1,421,000
寄付金収入	[6,320,000]	[0]	[0]	[6,320,000]	[0]	[0]
寄付金収入	6,320,000	0	0	6,320,000	0	0
雑収入	[70,179]	[70,031]	[0]	[141]	[0]	[7]
受取利息収入	179	31	0	141	0	7
雑収入	70,000	70,000	0	0	0	0
事業活動収入計	40,922,808	1,370,031	20,190,000	6,320,141	6,369,429	6,673,207
2．事業活動支出						
事業費支出	[37,778,191]	[538,470]	[18,876,836]	[5,866,000]	[5,790,973]	[6,705,912]
給料手当支出	12,935,531	0	8,739,678	0	4,195,853	0
賞与支出	1,774,133	0	1,774,133	0	0	0
法定福利費支出	1,803,903	0	1,678,573	0	125,330	0
旅費交通費支出	7,014,080	277,610	3,229,104	913,500	786,640	1,807,226
通信運搬費支出	620,606	0	452,607	0	18,715	149,284
消耗品費支出	170,833	37,960	132,873	0	0	0
学生企画ｲﾍﾞﾝﾄ費支出	747,122	88,880	33,890	0	0	624,352
印刷製本費支出	799,200	0	648,000	0	0	151,200
燃料費支出	9,947	0	0	0	9,947	0
使用料支出	1,921,192	108,100	775,192	0	20,000	1,017,900
賃借料支出	994,741	0	716,741	0	143,000	135,000
保険料支出	271,950	0	271,950	0	0	0
諸謝金支出	7,015,759	0	422,259	4,952,500	7,000	1,634,000
委託費支出	1,693,470	25,920	0	0	480,600	1,186,950
雑支出	5,724	0	1,836	0	3,888	0
管理費支出	[1,262,734]	[220,690]	[0]	[20]	[242,983]	[799,041]
会議費支出	707,059	130,019	0	0	0	577,040
通信運搬費支出	1,968	1,968	0	0	0	0
消耗什器備品費支出	226,486	0	0	0	226,486	0
消耗品費支出	11,143	6,646	0	0	4,497	0
印刷製本費支出	216,000	0	0	0	0	216,000
租税公課支出	10,502	10,481	0	20	0	1
負担金支出	20,000	20,000	0	0	0	0
雑支出	69,576	51,576	0	0	12,000	6,000
間接経費支出	[1,483,479]	[0]	[1,477,443]	[0]	[6,036]	[0]
その他の事業活動支出	1,483,479	0	1,477,443	0	6,036	0
事業活動支出計	40,524,404	759,160	20,354,279	5,866,020	6,039,992	7,504,953
小計	398,404	610,871	△ 164,279	454,121	329,437	△ 831,746
法人税等の支払額	△ 140,000	△ 70,000	0	0	△ 70,000	0
事業活動収支差額	258,404	540,871	△ 164,279	454,121	259,437	△ 831,746
Ⅱ　投資活動収支の部						
1．投資活動収入						
特定資産取崩収入	[1,000,000]	[0]	[0]	[1,000,000]	[0]	[0]
積立預金収入	1,000,000	0	0	1,000,000	0	0
投資活動収入計	1,000,000	0	0	1,000,000	0	0
2．投資活動支出						
投資活動支出計	0	0	0	0	0	0
投資活動収支差額	1,000,000	0	0	1,000,000	0	0
Ⅲ　財務活動収支の部						
1．財務活動収入						
前期損益修正益	[561,038]	[561,038]	[0]	[0]	[0]	[0]
財務活動収入計	561,038	561,038	0	0	0	0
2．財務活動支出						
固定資産除却損	[86,500]	[0]	[0]	[86,500]	[0]	[0]
商品・ｻｰﾋﾞｽ券除却	86,500	0	0	86,500	0	0

科　　目	合計	法人会計	その他事業会計			実施事業会計
		法人本部	沖縄子供の貧困対策県委託事業】	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業【企業から寄附】	知的・産業事業【県委託事業】	全国大学ｺﾝｿｰｼｱﾑ研究交流ﾌｫｰﾗﾑ【県補助】
前期損益修正損	[1,500,000]	[1,500,000]	[0]	[0]	[0]	[0]
財務活動支出計	1,586,500	1,500,000	0	86,500	0	0
財務活動収支差額	△ 1,025,462	△ 938,962	0	△ 86,500	0	0
当期収支差額	232,942	△ 398,091	△ 164,279	1,367,621	259,437	△ 831,746
前期繰越収支差額	21,125,217	778,793	△ 240,678	20,587,102	0	0
次期繰越収支差額	21,358,159	380,702	△ 404,957	21,954,723	259,437	△ 831,746

資料4

2018年度（平成30年度）事業計画（案）について

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄

University Consortium Okinawa

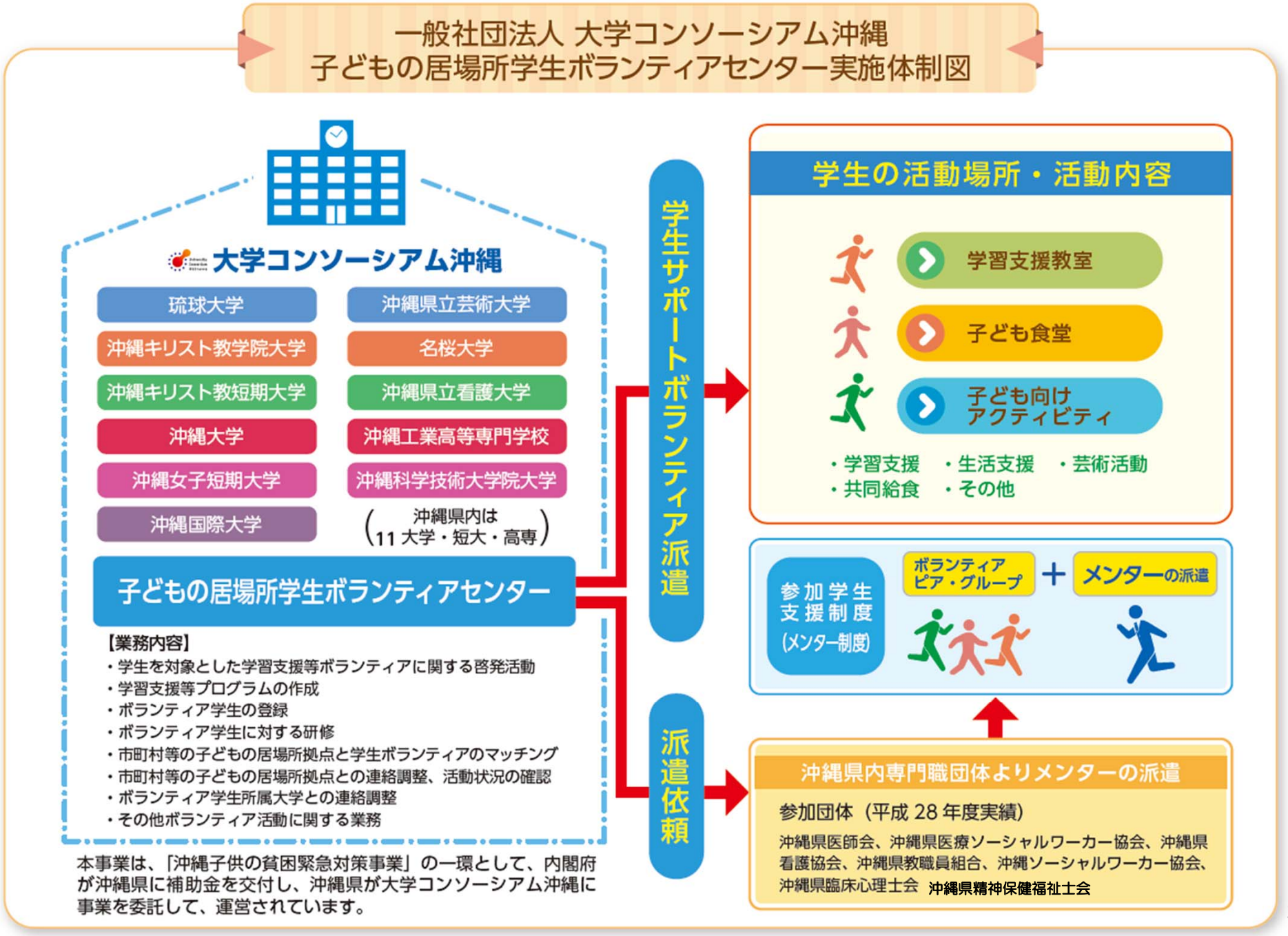
○平成30年度実施事業（案）

２－１（再掲）子供の居場所学生ボランティアコーディネート事業

４－１　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）（H29年度新規事業）

４－２　大学コンソーシアム沖縄主催　県民向け公開講座

２－１　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業



4－1　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）事業全体概要

事業実施共同体

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

（3）地域連携コーディネーターの配置
（2）①若手コーディネーターの育成

（1）②地域課題解決のための研究者の調査

OIST 沖縄科学技術大学院大学
沖縄キリスト教学院大学 沖縄キリスト教短期大学
沖縄県立看護大学
沖縄県立芸術大学
沖縄国際大学
沖縄女子短期大学
沖縄大学
名桜大学
国立大学法人 琉球大学
国立沖縄高専

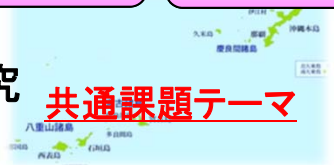
高等教育機関シーズ

（1）①地域（市町村）・企業等へのヒアリング

教育・人材育成
環境・水資源
特産品・商品開発
農業・食料
医療・健康
〇〇〇

（1）③地域と研究者のマッチング

共通課題テーマ



（1）④地域課題ソリューションワーキンググループ開催



（1）⑤課題解決策の検討・実施

（1）⑥地域へのアンケートによる検証（課題解決への貢献度）

（1）⑦国内外の先進的取組に関する研修会等実施



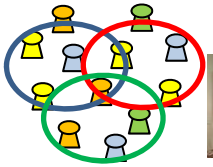
（2）②大学企業交流会の開催







（2）③実践的インターン送出







（4）① 県内高等教育機関への活動報告
（4）② 必要に応じた県内高等教育機関との連絡調整の実施

地域連携コーディネーターが中核となり産学官民が連携した地域課題ソリューションを提供

資料５

平成３０年度予算書（案）

（平成30年4月1日から平成31年3月31日）

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄　　（単位：円）

会計区分	法人会計	その他の事業会計		
事業名	法人本部	沖縄子供の貧困対策【県委託事業】	知的・産業事業【県委託事業】	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業【企業から寄附金】
科目	予算額	予算額	予算額	予算額
Ⅰ　事業活動支出の部				
事業活動収入				
会費収入	1,300,000			
正会員会費収入	1,300,000			
受取補助金等		22,673,988	5,882,382	
受取国庫補助金		22,673,988	5,882,382	
寄附金収入				5,254,786
寄附金収入				5,254,786
事業活動収入計	1,300,000	22,673,988	5,882,382	5,254,786
Ⅱ　事業活動支出の部				
事業活動支出				
事業費	25,920	21,360,327	5,347,620	9,747,500
給料手当		10,525,192	4,432,320	0
賞与		2,086,741	0	0
法定福利費		1,983,126	0	0
諸謝金		315,738	0	9,747,500
旅費交通費		4,285,958	738,180	0
通信運搬費		368,064	0	0
消耗品費		179,902	0	0
企画ｲﾍﾞﾝﾄ費		54,000	0	0
使用料	25,920	685,672	69,120	0
賃借料		504,360	108,000	0
保険料		369,630	0	0
雑費		1,944	0	0
管理費	986,564	0	0	0
会議費	10,000	0	0	0
通信運搬費	5,000	0	0	0
消耗品費	10,000	0	0	0
印刷製本費	0	0	0	0
租税公課	5,000	0	0	0
会費負担金	20,000	0	0	0
役務費	270,000	0	0	0
法人税等	70,000	0	0	0
償還費（平成29年度事業費超過分）	596,564	0	0	0
間接経費	0	1,313,660	534,762	0
Ⅲ 事業活動支出計（税込み）	1,012,484	22,673,987	5,882,382	9,747,500

平成３０年度予算書（案）

（平成30年4月1日から平成31年3月31日）

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄　　（単位：円）

会計区分	法人会計	その他の事業会計		
事業名	法人本部	沖縄子供の貧困対策【県委託事業】	知的・産業事業【県委託事業】	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業【企業から寄附金】
科目	予算額	予算額	予算額	予算額
Ⅰ　事業活動支出の部				
事業活動収入				
会費収入	1,300,000			
正会員会費収入	1,300,000			
受取補助金等		22,673,988	5,882,382	
受取国庫補助金		22,673,988	5,882,382	
寄附金収入				5,254,786
寄附金収入				5,254,786
事業活動収入計	1,300,000	22,673,988	5,882,382	5,254,786
Ⅱ　事業活動支出の部				
事業活動支出				
事業費	25,920	21,360,327	5,347,620	9,747,500
給料手当	0	10,525,192	4,432,320	0
雇用職員A		3,221,856	1,477,440	
雇用職員B		3,361,824	1,477,440	
雇用職員C		1,884,177	1,477,440	
雇用職員D		2,057,335		
賞与	0	2,086,741	0	0
雇用職員A		1,017,122		
雇用職員B		1,069,619		
法定福利費	0	1,983,126	0	0
法定福利費:雇用職員A(事業主負担分)		630,167		
法定福利費:雇用職員B(事業主負担分)		676,771		
法定福利費:雇用職員C(事業主負担分)		266,198		
法定福利費:雇用職員D(事業主負担分)		312,790		
法定福利費:労働保険料(事業主負担分)		97,200		
諸謝金	0	315,738	0	9,747,500
ﾒﾝﾀｰ講師謝金		86,400		
講師(事前研修)謝金		194,400		
研修会講師謝金		27,000		
学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ		7,938		9,747,500
旅費交通費	0	4,285,958	738,180	0
職員旅費支出		108,000	738,180	
旅費交通費(ｾﾝﾀｰ長・副ｾﾝﾀｰ長・事務局長)		216,000		
学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ旅費支出（定期派遣）		1,970,438		
講師等招聘旅費支出		108,000		
学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ離島・僻地派遣旅費		1,883,520		
通信運搬費	0	368,064	0	0
郵送料		142,560		
光回線・設置使用料		103,680		
携帯電話使用料		77,760		
ﾌﾟﾛﾊﾞｲﾀﾞｰ利用料		44,064		
消耗品費	0	179,902	0	0
事務用品		140,400		
会議費		2,592		
新聞雑誌費		36,910		
企画ｲﾍﾞﾝﾄ費	0	54,000	0	0
企画ｲﾍﾞﾝﾄ費		54,000		
使用料	25,920	685,672	69,120	0
事務室借料		48,530		
駐車場借料		48,672		
光熱水費		129,600		
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ保守管理料	25,920	25,920		
研修会会場借料		10,800		
沖縄自動車道利用料		6,566	15,120	
管理ｼｽﾃﾑ利用料		388,800		
燃料費		24,192	54,000	
駐車料		2,592		
賃借料	0	504,360	108,000	0
複合機ﾘｰｽ料		110,160		
自動車(事業用車両)		388,800		
ﾚﾝﾀｶｰ料(一時賃借:出張時)		5,400	108,000	
保険料	0	369,630	0	0
学生保険料		369,630		
雑費	0	1,944	0	0
振込手数料		1,944		
管理費	986,564	0	0	0
会議費	10,000	0	0	0
総会・運営委員会	10,000			
通信運搬費	5,000	0	0	0
切手	5,000			
消耗品費	10,000	0	0	0
事務用品	10,000			
印刷製本費	0	0	0	0
租税公課	5,000	0	0	0
印紙等	5,000			
会費負担金	20,000	0	0	0
全国コンソーシアム協議会会費	20,000			
役務費（法人申告・確定申告等委託）	270,000	0	0	0
法人税申告書作成料	100,000			
登記変更手続き	70,000			
テープ起こし（総会議事録・2回分）	100,000			
法人税等	70,000	0	0	0
法人税、道府県民税・市町村民税	70,000			
償還費	596,564	0	0	0
前年度事業費超過負担に係る償還費	596,564			
間接経費	0	0	534,762	0
間接経費			534,762	
Ⅲ 事業活動支出計（税込み）	1,012,484	21,360,327	5,882,382	9,747,500

資料６

地域連携プラットフォームの構築について【国の政策】

①「まち・ひと・しごと創生総合戦略 2017（改訂版）」（平成 29 年 12 月）（閣議決定）

国の基本方針を踏まえ、首長のリーダーシップの下で、組織レベルでの持続可能な産官学連携の推進体制（コンソーシアム）を構築し、地域の中核的な産業の振興やその専門人材育成等の計画を策定する。そのうち、「地方版総合戦略」に位置付けられたものであって、有識者の評価を経て、地方創生の優れた事業として国が認定したものに対しては、魅力ある地方大学及び地域産業を創生するための新たな交付金により重点的に支援する。

②「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の就学及び就業の促進に関する法律について」（平成 30 年 6 月 1 日施行）

国の基本方針を踏まえ、首長のリーダーシップの下で、産官学連携のコンソーシアムを構築し、地域の中核的な産業の振興やその専門人材育成などの振興計画を策定できるものとする。そのうち、地方創生の優れた事業として国が認定したものに対しては新たな交付金により支援する。

③「私立大学等の振興に関する検討会議議論のまとめ」（文部科学省）（平成 29 年 5 月）

都道府県等の地元自治体や産業界等と大学ばプラットフォームを形成し、地域の高等教育に関する中長期計画の策定や地域政策と連動した産学連携を行うなど、地域と大学が密接に連携する取り組みを支援し、地域に大学が貢献すると同時に、大学が地域から支援を得る等、大学を取り巻く各種主体と幅広い連携を進めていくことが重要である。

また例えば各法人の成り立ちや独自性を活かし一定の独立性を保ちつつ…国公私の設置者の枠を超えた連携・協力の在り方…などより多様な連携・統合の方策について検討していく必要がある。

④「中央教育審議会大学分科会将来構想部会「今後の高等教育の将来像の提示に向けた論点整理」（平成 29 年 12 月 28 日）

地域の国公私立大学が、地方自治体、産業界を巻き込んで、将来像の議論や連携、交流の企画を行う恒常的な体制を構築

⑤「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議「地方における若者の修学・就業の促進に向けて」（平成 29 年 12 月 8 日）

・近年では首長主導で高等教育振興基本方針を策定し、地方創生の拠点として積極的に位置づける事例もあるが、地域における大学の役割・位置づけが不明確であり、特に地方の国立大学は地方公共団体との間でコミュニケーションが十分取られていないケースが見られる。また、地方公共団体においても、高等教育政策担当のセクションを確立し、こうした大学と地方公共団体との緊密な連携を、それぞれの地域で更に加速する必要がある

・首長のリーダーシップの下、地方公共団体が中心となり、地域の産業界や大学等と連携しながら、地域産業や人材育成に関するビジョンを示し、地域の中での地方大学の役割・位置づけを明確にし、地域の産業構造・就業動向等を踏まえた産学連携を強力に推進する。

・地方大学を取り巻く問題認識を踏まえ、首長のリーダーシップの下で、地方大学の振興により、…地域の生産性の向上を目指すことが求められている。このため、地方大学は、地方公共団体、地域の産業団体、金融機関などとの連携を深め、地域の将来ビジョンを共有しながら、取り組みを行っていくことが重要である。その際国公私立ごとに置かれている状況が異なる点にも配慮しながら、施策を検討する必要がある。

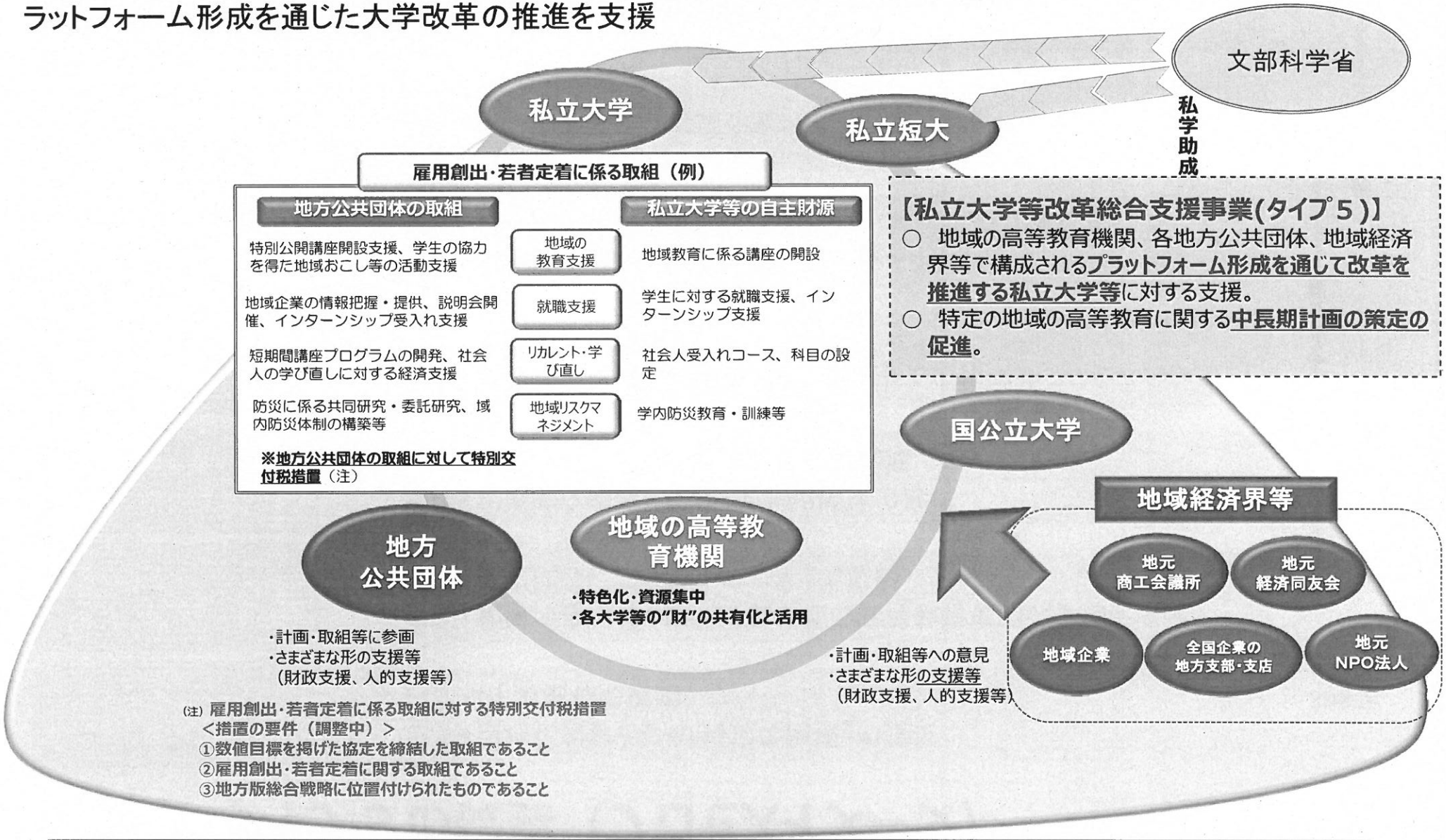
・首長のリーダーシップにより、産官学連携を強力に推進する。その際、個人間のレベルではなく、「組織」対「組織」の包括的な連携体制による持続可能な推進体制（コンソーシアム）を構築するとともに、併せて地方行政、地域産業における地方大学の役割・位置づけを強化する。

⑥「経済財政の運営と改革の基本方針 2018」（平成 29 年 6 月閣議決定）

大学の組織再編等を促進するため、国立大学においては、国立大学法人法を改正し、一法人の下で複数の大学を運営できる制度を導入する。私立大学については、学部単 位での事業譲渡の円滑化や合併の促進など、連携統合や事業承継円滑化の環境整備を 図る。あわせて、撤退を含め早期の経営判断を促す経営指導の強化、破綻手続の明確 化を進める。 地方においては、地域の高等教育の在り方を議論する「地域連携プラットフォーム （仮称）」を地方大学等の高等教育機関、産業界、地方自治体が構築できるようにす る。 これらの施策を進めるとともに、国公私立の枠を超えた大学の連携を可能とする「大 学等連携推進法人（仮称）」の創設を検討する。

私立大学等改革総合支援事業（タイプ５）

各大学等の特色化・資源集中を促し、複数大学間の連携、地方公共団体・産業界等との連携を進めるためのプラットフォーム形成を通じた大学改革の推進を支援



(注) 雇用創出・若者定着に係る取組に対する特別交付税措置
＜措置の要件（調整中）＞
①数値目標を掲げた協定を締結した取組であること
②雇用創出・若者定着に関する取組であること
③地方版総合戦略に位置付けられたものであること

地域の高等教育の振興を通じた人づくり（雇用創出・若者定着）、一億総活躍社会の実現

資料７

大学コンソーシアム沖縄の今後の運営及び事務局体制について

１　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄の概要

（１）設立：平成２６年９月２６日

（２）目的：沖縄県内の大学が、相互に建学の精神を尊重しつつ、有機的連携により教育研究を一層充実発展させ、また、産学官の連携により地域社会の活性化と発展に貢献することを目的とする。

（３）正会員（社員）：琉球大学、名桜大学、沖縄科学技術大学院大学、沖縄大学、沖縄国際大学、
沖縄女子短期大学、沖縄キリスト教学院大学、沖縄キリスト教短期大学、
沖縄県立看護大学、沖縄県立芸術大学、沖縄工業高等専門学校
賛助会員　　なし

（４）法人のミッション（定款第４条に明記された事業）
１　グローバル人材の育成、２　単位互換、３　学生間の連携・交流、４　共同研究、
５　教職員の研修、交流及び情報交換、６　小中高大連携活動、
７　公開講座（県民フォーラム・出前講座）、８　産学官連携、９　各種の地域社会貢献、
10　その他

２　これまでの運営体制及び財源等について

（１）職員について

【併任職員】

① 事務局長　１人（併任・無償）

【プロジェクト付の職員】

② 子どもの居場所学生ボランティアセンター
センター長（併任・無償）：１名、副センター長（併任・無償）：４人、
コーディネーター（専任・有償）：２人、事務補佐員（専任フルタイム・有償）２人

③ 知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（H30 年６月以降事業開始）
若手コーディネーター３人（非常勤・有償）、事務補佐員（専任６時間勤務・有償）１人

④ 琉球大学職員による事務局運営の補助
総会、運営委員会の運営、沖縄県の補助事業及び委託事業の申請手続き、採択後の予算の管理、事業の執行についての補助を全面的に支援している。

（２）財源について（沖縄県の委託費等を除く）
会員からの会費（H26 年度～H27 年度：１００万円，H28 年度～：１３０万円）
３大学×２０万円＋７大学・高専×１０万円＝１３０万円

（３）予算の執行

①法人税、②理事の変更に伴う登記に係る諸費用、③沖縄県の補助事業や委託事業に係る事業において、県の事業費で執行できない経費の負担（例：契約前の講師依頼の旅費等）や事業費を超える経費の負担

３．今後の法人運営について

（１）各大学・短期大学・高等専門学校にとって、本法人の存在価値の理解、再認識

①今後、少子・超高齢化社会が進む中、大学等において学生確保の観点から１つの機関で個別バラバラに対応するのではなく、大学等が一枚岩となり、大学コンソーシアム沖縄として、今後、どのような連携ができるのかを検討する必要がある。

１）県外の学生確保に向けた仕組みづくり

２）合同による教職員研修や効率的な大学運営による事業経費の削減

３）単位互換による魅力あるカリキュラムづくり

４）インターンシップや学生就職先の確保に向けた仕組みづくり

②沖縄県における地域課題を解決するためには、大学等が個別バラバラに対応するのではなく、連携することにより、１機関では対応できない様々な課題解決に向けた取組が可能となる。

例）共同研究、共同事業

③高等教育機関として沖縄県や国への要望

今後、沖縄県や国に対して、財政支援等を要望する中で、個別に要望するのではなく、大学コンソーシアム沖縄として要望することにより、個別での要望ではなく、県内高等教育機関全体の総意による要望が可能となる。

また、県立の大学を所管及び支援する部局も複数あり、沖縄県立芸術大学の所管は、文化観光スポーツ部文化振興課、沖縄県立看護大学の所管は、保健医療部保健医療政策課が所管、沖縄科学技術大学院大学の財政的支援は、企画部科学技術振興課が担当しており、大学・短期大学・高等専門学校への支援や振興を主とする部署は存在せず、県内の各大学等は、沖縄県の複数の部局が個別に実施する施策事業をとおして、県内の地域振興に携わっているのが現状である。例えば、京都府においては、文化スポーツ部大学政策課を設置しており、大学政策（他課の主管に属するものを除く。）に関することを所掌している。

沖縄県においても、大学振興課（仮称）を設置することにより、体系的、計画的に県が行う地域振興施策に携わることが可能となる。そのためにも、大学コンソーシアム沖縄が主体となり、大学振興課（仮称）の設置に向けた働きかけを進めていく必要がある。

④国が進める国公私を通じた大学の連携「地域連携プラットフォーム（仮称）」としての役割

（２）今後の法人が実施する事業について

①これまでの事業

平成２６年度から平成２９年度まで、大学コンソーシアム沖縄では以下の事業を実施。

【沖縄県からの補助事業として（H26 年度～H29 年度）】

１）シンポジウム（第１回～第３回）

２）学生サミット（第１回～第３回）

３）第１４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（H29 年度限り）

【沖縄県からの委託事業】

１）子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（平成３３年度まで実施予定）
子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営

２）知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）

３）子供科学人材育成事業（中学生プロジェクト・高校生プロジェクト）

【その他】

１）県民向け公開講座（H26 年度～）

２）中国の大学生と沖縄県内の大学生との昼食交流会（H29 年度限り）

３）グローバル・ピース・ダイアログ沖縄

②今後の事業提案

上記①のとおり、この４年間においては、大学コンソーシアム沖縄が実施してきた事業は、沖縄県からの財政支援を受け、シンポジウムやフォーラム、学生交流などのイベント系の事業や沖縄県の委託事業を実施してきたのが、現状であり、各大学等が持つ課題や要望などを議論する場は持ったことがない。

今後は、沖縄県からの委託事業を継続して実施していくことと併せて、法人運営の体制整備及び各大学間において、今何が課題であり、その問題に対してどのような連携ができるのかを議論し、それに向け対応していくことが必要である。

以上を踏まえ、今後実施する事業について以下の事項が想定される。

１）公益社団法人化等

・安定的な法人運営を行うためにも、財源の確保は必要であることから、寄附金の受入のためにも、法人化する。また、併せて事務局体制の整備と諸規定の整備も行う。

２）各大学が持つ課題や要望などを議論する場の設定、それに対応するための事業の実施

３）知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）（沖縄県委託事業：平成３１年度まで継続予定）

４）子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄県委託事業：平成３３年度まで継続予定）

５）法人のミッション（定款第４条における事業）でこれまで未実施な事項は，単位互換、共同研究、教職員の研修、交流及び情報交換、産学官連携である。

（３）今後の事務局体制について

上記（２）の②を実施するためには、事務局体制の整備は必要不可欠となる。

①事務局長について

沖縄科学技術大学院大学を退職された日笠氏が、大学運営とは別の職業に就いていることから，事務局長の取扱について検討する必要がある。

案１：現状のまま日笠氏を事務局長とする

案２：大学に勤務する管理職にある職員を併任として発令

案３：各大学持ち回りによる職員の出向

案４：専任の職員を採用，１日６時間，週３日程度勤務してもらう。

経費：時給１，５００円×６時間×週３日×４週／月×１２か月＝1,296,000 円

＝約１３０万円

②事務職員について

案１：各大学持ち回りによる職員の出向

案２：専任の事務補佐員１人を採用

経費：時給１，１００円×６時間×週３日×４週／月×１２か月＝950,400 円

＝約９５万円

③執務室について（案）

琉球大学の執務室の一角を借用して利用する。

（４）法人の運営に係る経費について

（経常経費）

①上記（３）の①及び②の人件費（２人分）

②施設使用料（光熱水費を含む）

③複合機のリース料

④通信運搬費（電話料金・インターネット利用料、郵送料）

⑤消耗品費、⑥交通費（移動に係る経費）、⑦印刷製本費（パンフレット等）　等

（事業経費）

①沖縄県の委託事業（子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業、知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業　等）

②その他（今後実施する事業）

※法人の運営に係る経費の捻出について検討する必要がある。

４．大学コンソーシアム沖縄としての対応（案）

上記３の今後の法人運営で提案したことを実行に移すためにも、月１回の運営委員会を開催し、大学コンソーシアム沖縄が実施する事業の情報共有を図るとともに、今後大学コンソーシアム沖縄の運営に係る諸課題について議論する。

本年度中に法人運営等の方向性をまとめ、総会に提案する。

【参考】

平成２６年度～平成３０年度までの法人の活動及び活動予定

（平成２６年度）

①第１回大学コンソーシアム沖縄設立記念シンポジウム２０１４（H26.12.23）

②第１回学生サミット２０１４(H27.3.7-8)

③県民向け公開講座　第１回琉球大学(H27.1.25)

（平成２７年度）

①第２回大学コンソーシアム沖縄主催シンポジウム２０１５(H27.10.10)

テーマ「グローバル人材の育成」

②第２回学生サミット２０１５（H27.12.19）

テーマ「２０３０年の世界は平和か？」

③県民向け公開講座　第２回沖縄国際大学(H27.5.23) 他

④平成２７年度子供科学人材育成事業（中学生プロジェクト・高校生プロジェクト）

（平成２８年度）

①第３回大学コンソーシアム沖縄主催シンポジウム２０１６　テーマ「ボランティア精神」

②第３回学生サミット２０１６

③県民向け公開講座　第回沖縄国際大学(H28.8.) 他

④平成２８年度子供科学人材育成事業（中学生プロジェクト・高校生プロジェクト）

⑤子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営（H28 年度新規事業）

（平成２９年度）

①知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（H29 年度新規事業）

②第１４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（H29.10.7-8）

③県民向け公開講座

④平成２９年度子供科学人材育成事業（中学生プロジェクト・高校生プロジェクト）

⑤子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営

⑥中国の学生と昼食交流会（日中植林・植樹国際連帯事業）(H29.9.14)

⑦グローバル・ピース・ダイアログ沖縄（H30.3.9）

【これまでの事業成果について】

平成２６年度の設立後以降，以下の取組を実施し、成果を上げてきた。

（１）シンポジウムの開催（H26 年度~H28 年度）

成果：①大学コンソーシアム沖縄の県民への周知

②大学コンソーシアムが果たすべき役割の検討

③米国国務省からの奨学金の獲得（グローバル人材の育成）

（２）学生サミット（H26 年度~H28 年度）

成果：①１１の大学・短期大学・高等専門学校の学生の交流及びネットワークの構築

②大学生による新たなイノベーションの創造

（３）県民向け公開講座（H26 年度~H30 年度）

成果：①大学等が持つ知の資源の還元（県民への社会貢献)、

②大学コンソーシアム沖縄の周知

（４）子供科学人材育成事業（沖縄県の委託事業：企画部科学技術振興課）（H27 年度~H289 年度）

成果：将来の沖縄県の科学技術を担う小中高校生への最先端の科学講座の実施による人材育成

（５）子どもの居場所学生ボランティアセンターの運営（沖縄県の委託事業：子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課）（H28 年度~H33 年度）

成果：貧困家庭の子どもに対する就学支援等による、自己肯定感の向上及び居場所における安心感の向上

（６）知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）（H29 年度~H31 年度）

成果：①大学等が持つ知の資源の還元（県民への社会貢献)、

②地域の課題解決（各種の地域社会貢献，産学官連携）

（７）第１４回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（H29 年度限り）

成果：①大学等が持つ知の資源の還元（県民への社会貢献)、

②大学コンソーシアム沖縄の周知

③グローバル人材の育成

（８）グローバル・ピース・ダイアログ沖縄

成果：①グローバル人材の育成

②高大連携活動

③１１の大学・短期大学・高等専門学校の学生の交流及びネットワークの構築

（９）中国の学生と昼食交流会（日中植林・植樹国際連帯事業）（H29 年度限り）

成果：１１の大学・短期大学・高等専門学校の学生の交流及びネットワークの構築

全国都道府県庁が設置する大学支援課一覧

①秋田県　未来創造部　未来戦略課　高等教育支援室：

（所掌事業）

高等教育、公立大学法人、私学振興（大学、短大、専修学校、各種学校）、大学間連携、カレッジプラザ　など

②新潟県　総務管理部　大学・私学振興課

③静岡県　文化・観光部　総合教育局　大学課

（所掌業務）

静岡県立大学、静岡文化芸術大学その他高等教育の充実に関すること。 学術振興に関すること。

④福井県　総務部　大学・私学振興課

（所掌業務）

私立学校法の施行に関すること・高等教育の振興に関すること・公立大学法人福井県立大学に関すること

⑤京都府　文化スポーツ部　大学政策課：

（所掌業務）

大学政策（他課の主管に属するものを除く。）に関すること。・京都府公立大学法人に関すること。

⑥兵庫県　管理局　大学課

（所掌業務）

公立大学法人兵庫県立大学の運営支援及び県内大学との連携強化に取り組んでいます。

⑦徳島県　政策創造部　県立総合大学校本部

（所掌業務）

県立総合大学校「まなびーあ徳島」に関すること、大学等高等教育機関との連携に関すること、とくしま政策研究センターに関すること、奨学金返還支援制度に関すること

⑧高知県　文化生活スポーツ部　私学・大学支援課

（所掌業務）

私立学校（私立幼稚園を除く。）、私立専修学校及び私立各種学校に関すること。高知県公立大学法人に関すること。県内の大学及び高等専門学校との連携及び調整に関すること

（その他）

・茨城県　産業戦略部　科学技術振興課、技術革新課

・群馬県　企画部　企画課　地域と大学等との連携　http://www.pref.gunma.jp/07/b01g_00002.html

・山梨県　県民生活部　私学・科学振興課　科学技術担当：高等教育機関の振興

・愛知県県　民文化部　学事振興課：愛知県公立大学法人に関する事務・宗教法人に関する事務、教育に関連する施策の総合的な企画調整及び推進に関する事務（教育委員会に属するものを除く）

・広島県観光県民局学事課：私立学校の指導及び振興、公立大学校法人の指導、支援